

2022(令和4)年度 全国競技運営責任者会議日程(実施)

※当初の日程から順番の変更・プログラムの追加がありました

2023年2月12日(日) 12:00 オンライン会議スタート

進行：中村拓也幹事

- | | | |
|-------|----------------------------|-----------|
| 1 | 事務連絡 | 片岡典子幹事 |
| 2 | 競技会実施報告 | |
| | ①第106回日本陸上競技選手権大会・混成競技 | |
| | 第38回U20日本陸上競技選手権大会・混成競技 | 秋田 |
| | ②第75回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 | |
| | (C級審判員導入についての報告を含む) | 徳島 |
| | ③第49回全日本中学校陸上競技選手権大会 | 福島 |
| | ④第77回国民体育大会 | 栃木 |
| | ⑤第16回U18/第53回U16 陸上競技大会 | 愛媛 |
| | ⑥第106回日本陸上競技選手権大会 | |
| | 第38回U20日本陸上競技選手権大会 | 大阪 |
| 3 | 質疑応答 (C級審判員導入についてを中心に) | |
| 4 | 2023年度競技規則修改正提案 | 片岡裕介委員 |
| 5 | 質疑応答 | |
| 6 | 海外競技会報告 | 関根春幸副委員長 |
| 7 | 施設用器具委員会報告 | 高木良郎委員長 |
| 8 | WRk申請について | 鈴木一弘委員長 |
| 9 | 質疑応答 | |
| 14:15 | 休憩 | |
| 10 | 質疑応答 | |
| 11 | 競技会におけるユニフォームの形式について | |
| | ～アスリート自身がユニフォームを選択できる陸上界へ～ | |
| | 事務局広報課 和賀 美咲氏 | |
| 12 | 2022年度JTO活動報告 | |
| | 抗議対応について | 羽田雄一幹事 |
| 13 | プロジェクトチームより | |
| | ①競技カレンダー・記録PT | |
| | 競技会公認申請 | 鍋島太一委員 |
| | 記録公認申請・日本記録 | (資料参照) |
| | 記録用紙改訂 | (資料参照) |
| 14 | ②広告展示物規則PT | 田中康之委員 |
| 15 | ③審判ハンドブックPT | 関 隆史委員 |
| 16 | S級審判昇格審査報告 | 町田紀子幹事 |
| 17 | JTOs育成セミナーについて | 羽田雄一幹事 |
| 18 | JRWJsセミナーについて | 町田紀子幹事 |
| 19 | 2025年 世界陸上について | 鈴木一弘委員長 |
| 20 | 質疑応答 | |
| 21 | あいさつ | 鈴木一弘委員長 |
| 22 | 閉会あいさつ | 風間 明 専務理事 |
| 23 | 事務連絡 | 片岡典子幹事 |
| 16:10 | 閉会 | |

2022年公認審判員数

加盟団体名 協力団体名	S級 公認審判員 数(男)	S級 公認審判員 数(女)	A級 公認審判員 数(男)	A級 公認審判員 数(女)	B級 公認審判員 数(男)	B級 公認審判員 数(女)	C級公 認審判員 数(男)	C級 公認審判員 数(女)	合計
1 北海道	135	12	221	37	742	225	0	0	1372
2 青森	59	3	67	7	402	115	0	0	653
3 岩手	71	4	104	18	286	79	0	0	562
4 宮城	112	13	103	22	366	112	0	0	728
5 秋田	71	2	82	6	382	59	0	0	602
6 山形	84	0	141	15	416	104	0	0	760
7 福島	139	3	230	35	225	74	507		1213
8 茨城	85	3	120	18	366	89	0	0	681
9 栃木	44	2	70	4	328	75	0	0	523
10 群馬	41	0	77	5	309	58	0	0	490
11 埼玉	73	6	133	10	322	72	0	1	617
12 千葉	84	5	188	19	721	164	0	0	1181
13 東京	327	44	278	89	402	204	7	8	1359
14 神奈川	207	5	179	24	868	211	0	0	1494
15 山梨	82	5	124	22	248	57	3	2	543
16 新潟	49	0	142	13	633	131	0	0	968
17 富山	89	5	112	10	244	80	15	9	564
18 石川	55	3	89	12	376	116	0	6	657
19 福井	38	1	92	9	226	57	0	0	423
20 長野	89	1	119	10	612	166	6	6	1009
21 静岡	204	15	238	31	443	146	140	122	1339
22 愛知	109	6	124	11	601	197	0	0	1048
23 三重	36	1	66	8	189	48	0	0	348
24 岐阜	76	3	120	15	257	72	0	0	543
25 滋賀	78	5	172	28	366	186	20	16	871
26 京都	101	3	111	13	741	311	0	0	1280
27 大阪	187	17	288	65	586	187	0	0	1330
28 兵庫	99	6	184	9	657	122	0	0	1077
29 奈良	14	0	114	16	350	93	0	0	587
30 和歌山	18	2	124	13	213	37	50	24	481
31 鳥取	48	2	146	22	93	30	0	0	0
32 島根	78	11	81	11	211	65	0	0	457
33 岡山	95	8	163	34	225	92	0	0	617
34 広島	145	6	172	18	408	104	0	0	853
35 山口	89	4	109	24	256	47	0	0	529
36 徳島	35	2	86	16	174	81	7	15	416
36 徳島	35	2	86	16	174	81	7	15	416
37 香川	36	0	87	6	125	40	0	0	294
38 愛媛	76	3	123	10	290	96	5	7	610
39 高知	46	4	65	12	149	49	0	0	325
40 福岡	192	16	157	20	589	180	8	8	1170
41 佐賀	47	2	92	12	110	26	0	0	289
42 長崎	24	11	60	18	158	89	31	33	424
43 熊本	87	12	120	18	204	35	0	0	476
44 大分	106	9	99	31	195	70	0	0	510
45 宮崎	50	4	105	17	304	86	0	0	566
46 鹿児島	60	2	148	24	549	168	0	0	951
47 沖縄	43	4	71	18	71	20	191	147	565
合計	4100	275	6036	899	17069	4976	997	419	34771

2022年度全国競技運営責任者会議参加者

1	加盟団体名 協力団体名		出席者氏名		役職名		出席者氏名		役職名		出席者氏名	
	分科会A		分科会B		JTO		JR/WJ					
1	北海道	道浦陽子	競技運営(競技)委員長	玉井康夫	競技運営(審判)委員長			上村卓	中田光哉			川合耕司
2	青森	川下友徳	競技部長	甲田義人	審判部長							
3	岩手	小野寺文朗	競技部長	箱石文夫	審判部長						清水茂幸	
4	宮城	後藤勇	競技委員長	鹿又政信	審判委員長							
5	秋田	金宏明	競技委員長	山村拓	審判委員長							
6	山形	池田正敏	競技委員会副委員長	庄司隆志	競技委員会副委員長	今野光人						
7	福島	山下訓史	競技委員長	武田正志	審判委員長	田中信之	武田正志					
8	茨城	内田尊久	競技部長	稲田正人	審判部長	稲田正人						
9	栃木	海老名貴之	競技部長	小針敏明	審判部長							
10	群馬	田中恵一	競技運営委員長	荻野歩	審判部長							
11	埼玉	清水互	競技委員長	今井亮	審判委員長	竹村義人(OB)					中田賢一	
12	千葉	伊藤信夫	競技運営委員長	鈴木小枝子	審判部長	新村浩章					宇井菜那	
13	東京	東出英樹	競技部長	古澤幸男	審判部長	中島剛	梶田茂	井上博行	野末雅文	中村信也	三浦康二	石井智也
14	神奈川			中野賢一	審判部長	宮田英明	金澤健敏				常磐信敏	
15	山梨	三枝幸雄	競技委員長	奥田正治	審判委員長							
16	新潟	鈴木圭輔	競技部長	青木祐一	審判部長	浅野政和					田中利夫	
17	長野	桐山勝次	競技部長	小林幸太郎	審判部長							
18	富山	佐々木貴義	競技部長	杉木一文	審判部長	嶋田利隆(OB)					北山豊	
19	石川	中秀司	競技部長兼資格審査部長	川嶋聡	審判部長							
20	福井	南部諭史	競技委員長	平木寿治	審判委員長						吉井靖博	
21	静岡	永田勝久	競技委員長	井出幸夫	審判委員長							
22	愛知	榊原茂	常務理事・競技委員長	伊藤明久	審判委員長	伊藤明久						
23	三重	藤原康喬	競技副委員長	和田靖	競技委員長						山田英生	
24	岐阜	川瀬巧	常務理事	山下和行	記録情報委員長	川瀬巧	脇田 篤実					
25	滋賀	藤田武志	競技部長	高田毅	審判部長	長谷川真一郎						
26	京都	福田晴也	競技部長	長屋敏弘	審判部長						杉本明洋	
27	大阪	大槻明美	理事・競技委員会競技部	定木徹治	理事・競技委員会審判部	青木正宏						
28	兵庫	秋山秀文	競技委員長	本城勝次	審判委員							
29	奈良	中井光	競技部長	安達昌広	審判部長							
30	和歌山	山下育作	競技部長	市川貴英	審判部長						森本文雄	
31	鳥取	小林裕幸	競技部長	青木茂	審判部長	新田明彦(OB)						
32	島根	島田正大	競技運営委員長	赤木正英	審判部長							
33	岡山	堀川正徳	競技運営委員長	服部功	審判委員長	尾川登太郎					服部功	
34	広島	田川司	理事・競技運営委員長	新宅昭二	理事・競技運営副委員長	浜崎正信						
35	山口	鳥田修二	競技運営委員会委員	石原宏昭	競技運営委員会審判部長	藤田昌信						
36	香川	関正英	競技委員長	山本雅典	審判委員長	藤岡英陽					山崎和成	
37	徳島	近藤清司	競技運営委員長	緒方俊昭	審判部長						切原宏和	
38	愛媛	大塚 泰史	競技委員長			白石謙次						
39	高知	三谷裕之	競技委員長	池澤教志	審判委員長						小川啓祐	
40	福岡	山下真一	記録部長	梅田正人	競技部長	橋本忠志					矢野牧男	
41	佐賀	羽立博文	事務局長	田中修司	審判委員長							
42	長崎	丸田武人	競技部長	近藤敦	審判部長							
43	熊本	家入春三	競技運営委員長	池田祐一	審判副部長	平川貴浩						
44	大分	上杉貴志	競技運営委員長	森幹生	審判委員長	廣末敬						
45	宮崎	相馬勇一	競技部長	溝口正喜	審判部長							
46	鹿児島	中江寿孝	競技部長	東村光弘	審判部長							
47	沖縄	阿利義一	競技部長	大山朝雄	審判部長							
49	学連	嶋井優希菜	幹事長	三浦拓也	副幹事長							
50	高体連	川瀬一輝	陸上競技専門部競技委員長									
51	中体連	中村 信悟	部長	佐藤 稔	ブロック長							
52	マスターズ	伊藤誠一	競技運営委員会委員長	鈴木久一	競技運営委員会副委員長							
53	定通制	益本光章	事務局長									
54	日本パラ陸連	橋本和秀	競技運営委員	柴田達也	競技運営委員							

【競技運営委員会】

役職	氏名	
委員長	鈴木 一弘	
副委員長	関根 春幸	
幹事	羽田 雄一	ルールブックPT
幹事	中村 拓也	ハンドブックPT
幹事	町田 紀子	広告PT
幹事	片岡 典子	競技カレンダーPT
委員	片岡 裕介	ルールブックPT
委員	藤崎 明	ルールブックPT
委員	青柳 智之	ルールブックPT
委員	本橋 郁子	ルールブックPT
委員	関 隆史	ハンドブックPT
委員	黒澤 達郎	ハンドブックPT
委員	吉田 啓	ハンドブックPT
委員	佐藤 孝洋	ハンドブックPT
委員	山田 峰生	ハンドブックPT
委員	田中 康之	広告PT
委員	杉本 太郎	広告PT
委員	緒方 信也	広告PT
委員	岡本 克巳	広告PT
委員	赤峰 俊彦	競技カレンダーPT
委員	岩脇 充司	競技カレンダーPT
委員	渡邊 奈津実	競技カレンダーPT
委員	鍋島 太一	競技カレンダーPT
委員	伊地知 重信	競技カレンダーPT
委員	村上 道夫	競技カレンダーPT

役職	氏名
表彰式典	石井 哲郎
表彰式典	岡西 秀明
表彰式典	宮本 亮子
プロトコル	中村 要一
プロトコル	岡野 寛
プロトコル	奥 裕之
プロトコル	荒谷 泉美
プロトコル	黒須 雅弘
プロトコル	高橋 義則
プロトコル	船越 康平
プロトコル	若井 昭仁
プロトコル	遠達(健田) 裕子
プロトコル	後藤(竹) 縁
プロトコル	押元 孝紀
プロトコル	真野 理理子
プロトコル	加藤(母削) 恵
プロトコル	羽計 利昭
プロトコル	岡田 敬明

【施設用器具委員会】

役職	氏名
委員長	高木 良郎

【企業】

社名	氏名	氏名
株式会社ニシ・スポーツ	高井 淳悦	木村 裕次
セイコータイムクリエーション株式会社	小林 崇正	栗原 啓介
マット株式会社	藤崎 勇次	岡田 晃

【事務局】

部署	氏名
事業課長	井上 博友
経営企画課長	三宅 聡
事業課	八幡 賢司
国際課	浅田 大吾
広報課	石田 夢

2022（令和4）年度 日本陸上競技連盟
全国競技運営責任者会議 議事録
2月12日（日）12:00～16:10 オンライン開催

事務連絡

片岡 典子 幹事

- ・マイク・カメラはOFF、発言時にONにしてご参加下さい。
- ・画面の名前表示は、名前の後に所属を記載して下さい。
- ・チャットの書き込みは質問のみとします。チャットでの回答や議論は行わないでください。できるだけ口頭での質問をお願いします。
- ・配布した会議日程の番号に欠番があるが、そのままの番号で行います。報告書送付時に修正します。
- ・関根副委員長がアジア室内へ派遣されており、現地のタイムテーブルの関係で、海外競技会報告は競技規則修改正のあと、施設用器具委員会報告前に行います。
- ・休憩のあと、日程番号12の前に、「競技会におけるユニフォームの形式について」を加えます。

競技会報告

①日本選手権混成/U20日本選手権混成（秋田：金 宏明 競技委員長）

- ・事前に長野で視察研修を行った。
- ・AD規制について、立ち入り禁止規制が十分に出来なかった。
- ・大型スクリーンが常設されておらず、レンタルで対応したが、十分でなかった。
- ・次年度は控え室、招集所等にも閲覧できるように、モニターを多数設置予定。
- ・EMDの習熟度不足の部分があった。
- ・役員数の不足。競技役員190名、高校生（補助員）120名で編成した。
- ・U20走幅跳で隣のピットの記録を勘違いした競技者がいた。「Aピットomoo」と発声するようにした。
- ・ピン差し位置について抗議が発生 → ビデオを確認し、納得してもらった。
- ・競技中に抗議・上訴が出た場合、次の競技が始まる前までに裁定結果が出せるよう、スピーディーな対応の検討をしている。

②日本選手権/U20日本選手権（大阪：大槻 明美 競技部長）

- ・大会記録がシニアで5つ、U20で3つ誕生した。
- ・競技運営面に関し、4日間開催で平日の審判員確保が大変だった。
- ・大きなトラブル、抗議は発生しなかった。

③インターハイ（徳島：緒方 俊昭 審判部長）

- ・技能向上のための研修会を2回実施（計4日間） → 陸連派遣の講師役には当日役員として編成。
- ・ハンマー投で補助ネットの脇からすり抜けテントに直撃した。人的被害はなかったが、再発防止を徹底した。
- ・スタート後の信号機暴発があった。
- ・フィールド種目（男棒高跳、男やり投、女7種走幅跳）3件試技のやり直しが発生した。
- ・走幅跳助走路のウレタン舗装が暑さのためか浮いてしまった。 → 業者に依頼し、翌日までに復旧した。
- ・C級審判員導入 → 15名を4パートで活用した。
- ・近隣からの協力を得て円滑な開催ができた。
- ・競歩競技においてレッドカード集計をタブレット通信で伝達。
- ・表彰スペースが確保できず、ロイヤルボックスで表彰実施

④全中（福島：武田 正志 審判委員長）

- ・新型コロナウイルスの対応策や中体連のガイドライン変更に伴い、特に来場者制限については難しい判断だった。
- ・競技役員は中体連の審判資格を持つ教員を中心に、高校の教員、本協会、福島大学陸上部の協力により競技を運営した。コロナ禍により、中学生の補助役員は必要最小限で、C級審判員の活用は見送った。
- ・暑さ対策として中休みを採用したが、競技役員の拘束時間が長くなった。また、実際に休めている人数は限られていたので、解消するための工夫が必要であった。

⑤国民体育大会（栃木：小針 敏明 審判部長）

- ・少年女子共通三段跳、TOP8を確定するところで、3回目の試技において3県から正式記録と痕跡の位置が明らかに違うと抗議あり。1県は再試技を認め、2県は認めなかった。認められなかった1県が新しい映像を提出した上で上訴。上訴が認め、再試技は2県が行った。再試技を行った結果、2県がTOP8に入り順位が変動。抗議前に決定していたTOP8から2都県が落ちたため、この結果に対して抗議。3回目終了後の抗議による再試技の結果、順位変動のあったことを伝えるが、2都県が上訴。上訴でも抗議で説明した通りと伝えるが、ジュリーからの直接の説明を要望。そこでジュリーが裁定を覆し2都県に4回目以降の試技を認めた。一連の抗議・上訴・裁定について、日本陸連も加わり、本来の手順に則っていないことを確認し、抗議・上訴・裁定をやり直し。2都県の上訴を棄却、2都県の4回目以降の試技を行わないことを決定し、通達。2都県は、この処遇に納得せず、主催者が説明・説得をしたが折り合いがつかなかった。翌日の朝、最終的に抗議した2都県に対し、3回目終了時の順位の入賞と得点を与えた。得点に関しては、救済した2県に説明し、救済前のチームと半分ずつということでした。
- ・成年少年男女混合4×400m予選において、コーナートップの競技役員の誘導ミスがあり、救済。別の組で5レーン第1走者がバトンを渡し終えた後、レーンから出ようと外へ横断していたが、9レーンの第2走者の進路を妨害したため5レーンが失格、9レーンを救済とした。
- ・上記により決勝は10チームとなり、2組タイムレースとなった。番組編成は予選通過8チームと救済2チームにした。決勝レースが救済等により2組タイムレースとなった場合の番組編成について、大会申し合わせ事項等での柔軟な対応をお願いしたい。

⑥U18/U16陸上競技大会（愛媛：大塚 泰史 競技委員長）

- ・グランドコンディションに恵まれなかったが新記録が多く盛り上げてくれた。
- ・提案として、フィールド種目（長さ）の試技数を、予選2回、TOP8は3回としたい。競技時間の短縮と世界で活躍する選手の育成のために。

2023年度競技規則修正提案

片岡 裕介 委員

○WAによる競技会・記録の大枠の考え方の変更1〔一般定義、TR1、TR11.1〕

- ・国際競技会 → ワールドランキングコンペティション(World Ranking Competitions)〔一般定義〕
- ・ワールドランキングコンペティションは、「CR+TR+WAが定める諸規則」に従って行われなければならない〔TR1〕
- ・ワールドランキングコンペティションに該当しない競技会であっても、「CR+TR+WA が定める諸規則」を適用して実施すべき〔TR1〕
- ・ワールドランキングコンペティションで達成された記録のみが有効〔TR11.1〕
ワールドランキングコンペティション対象競技会での記録でなければ世界記録・ワールドランキング・世界陸上等の大会の参加資格取得に必要な記録(参加標準記録)の対象とならない。
<参考>厳密にはWRk:「World Ranking」の略、ワールドランキングコンペティション:WRk対象大会
- ・本連盟規則に基づいて準備された競技場で、かつ本連盟が認めた用器具を競技者が使った時でなければ有効としない(変更なし)〔TR11.1 国内〕。仮にワールドランキングコンペティション対象外の国内競技会で世界記録が生まれたら、日本記録は対象、世界記録は対象外となる

○世界記録・日本記録の対象種目の追加〔CR32、CR37.10〕

- ・世界記録・男子・女子ともに道路競技1マイルが追加。初回認定は2023年9月1日で、計時方法は写真判定またはトランスポンダーとなる。
- ・日本記録・男子・女子ともに道路競技1マイルが追加。初回認定は2023年12月31日で、計時方法は写真判定またはトランスポンダーとなる。
- ・世界記録・日本記録ともに、通常道路競技と異なり、トランスポンダーは1/10秒単位、写真判定は1/100秒単位であることに注意が必要〔TR19.23.3、TR19.24.5〕

※備考:現時点で「道路1マイル」の国内検定済コースは2か所のみ

写真判定で計時するケースは?…競技場発→場外→競技場着のコースの場合

○光波(ビデオ)計測装置の正常動作(計測値)の確認〔CR28〕

- ・現状では競技種目の開始前に鋼鉄製巻尺と光波計測装置の計測値の一致を確認し、科学計測装置確認書に記入(開始前チェックのみ)。チェックポイントにゴルフのティー等でのマークすることを推奨。
- ・変更後は競技種目の開始前、終了後に確認する。開始前チェックは鋼鉄製巻尺を使用して計測し、終了後チェックはマークしたティー等の距離が、開始前計測値と同じであることを確認(鋼鉄製巻尺は使用しない)。科学計測装置確認書は開始前・終了後チェック両方記入に変更。2022年度は光波計測でのトラブル事例もあったが、より重要なのは基本動作の徹

底。正しく設置(平坦で地面が安定した場所、三脚のズレ防止)する、一度セットした計測装置は動かさない(操作盤以外に触れない)着地点側の痕跡の確実なチェック、着地場所の整備、2名(複数名)での指差確認など。

○競技用靴に関する規程の再確認 [TR5. 2]

- ・規程そのものに変更はなし
- ・ルールブック本文に2024年11月1日から適用の靴底厚も記載。影響があるのは、トラック:800m 以上、障害物競走(25mm→20mm)、フィールド:三段跳(25mm→20mm)、クロスカンントリー:スパイク(25mm→20mm)。

○その他

- ・機械的補助用具規程 [TR6. 3. 4]
義足等を使用する競技者が一般競技者と一緒にWAルールで競技を行う場合には、WAの認可(承認)が必要。
- ・フィールド競技の試技時間 [TR25. 17]
表現の変更(明確化)・・・2022年3月30日付で各加盟団体・協力団体あて通知。
【疑義】高さの跳躍競技において、優勝が決まって1人になった競技者が連続試技にも該当した場合、1人の試技時間あるいは連続試技の試技時間のどちらを与えるべきか?
【結論】競技者にとって不利にならない試技時間を与えるべき(WA見解)。従って1人の試技時間を与える。
- ・「やり」に関する表記 [TR38. 5～38. 13]
内容に変更なし。表現の統一、明確化(例:握り→グリップ、穂先→先端)

海外競技会報告

関根 春幸 副委員長

カザフスタンで開催中のアジア室内に派遣中。現地よりオンライン参加

- ・いくつか資料を送ってあるので、参考にしてほしい。
- ・現在、アジア室内でスタート審判長を務めている。カザフスタンは-18度、しかし室内は半袖。
- ・海外に来て日本と違うところを感じるの、海外は競技の開始時間について厳しい。なぜ遅れたのか、遅れを取り戻せ、とTDからすぐ連絡が来る。
- ・国際競技会は英語でコミュニケーションをとるが、カザフスタンでは英語で話す人は少ない。日本でオリンピックを開いた際、WAから英語について言われたが、海外での状況は日本とあまり変わらない。
- ・その他、器具に対して丁寧に扱っている。旗をあげる際も、静かに上げて静かに下ろす。旧式の機械を使っているが、きれいな状態でとてもメンテナンスをしている。
- ・室内と屋内の違いは、200mのトラックの中に60m、そして走幅跳・棒高跳・砲丸投のピットが設置。ルールがしっかりとされた運動会が行われている、といった感じ。

施設用器具委員会報告

高木 良郎 施設用器具委員長

- ・世界記録、日本記録に1マイル追加に伴い、1マイルのコース認定の要望が出ている。
- ・写真判定装置には記録処理システムを有することが望ましい旨を明記した。
- ・技術総務の派遣、国際道路コース計測員の競技会への派遣について説明があった。
- ・グループスタートの代用縁石の置き方について、説明が行われた。
- ・秤の調整について重さをはかる前に秤の確認を行っていただきたい。重さは緯度で変わってくる。必ず10kgの重りを置いて確認してほしい。
- ・インターハイの中の報告であったが、ハンマー投げで囲いの外に出て控えテントに接触したということがあった。補助ネットの提案があり、写真を用いた説明が行われた。

WRk 申請について

鈴木 一弘 委員長

- ・2023年1月からWRk 競技会の記録でないとワールドランキング、世界大会の参加資格などの対象にならない。
- ・必ず60日前までに事前申請をしなければならない。2023年は3期に分けて申請。
- ・WA 規則に準拠しなければならない(器具、コース検定、IRWJ が3名以上など)。IRWJ の招聘については主催者負担。
- ・申請料は主催者が支払う。為替レートにより変わることもあり。
- ・主催者からの申請を都道府県陸協で取りまとめて申請する。学連の競技会は日本学連がとりまとめ。
- ・記録の申請は24時間以内に。英語表記で電子申請方式により行う。

- ・記録の信頼性に関わる場所はWA 規則に沿って行う。
- ・SIS は必ずしも必須ではない。ただし、エリア記録以上のものが出た場合は認められない。
- ・跳躍の水平種目において覗き方式の計測器の使用も認められる。ただし、エリア記録以上の記録が出た場合はスチールメジャーで計測する必要がある。
- ・1 投、1 跳ごとの計測を行う必要がある。
- ・近隣地域から客観的視点で競技会の信頼性を担保するための確認者を依頼する（主催者負担）。JTO が派遣される競技会については、JTO に依頼。
- ・2024 年以降、WA の審判制度が変わる。WA の審判資格取得者（Bronze Referee など）が WRk 対象大会で審判長を務める。
- ・WA ルール通りに実施されなかった場合、その国全体として重いペナルティを受けることになる。

<質疑応答>

（三重：和田氏）フィールド競技における計測機器のチェックに関し、当初、後の確認は意味がないと割愛されたが、競技後の確認が復活した場合、記録の信憑性が担保できなく可能性もあるが、その場合どうしたらよいか。

（片岡裕委員）計測値に誤りがあれば、やり直しが原則であるが、競技日程が過密な中では現実的ではないのも事実。競技終了後の計測は、記録の正確性の確認が目的。正確性を期すために、ラウンド毎に、トップ8の前に計測し直すなど、場面に応じて対応いただければと思う。

（長野：小林氏）フィールド競技用シューズの除外措置について、シューズの前と後ろの厚みが除外されるという理解でよいか。

（片岡裕委員）規程に基づく計測方法を確認いただきたい。

（長野：小林氏）基本的には厚みを超えてはならないという理解でよいか。

（片岡裕委員）規定通り理解いただければよい。WA とシューズメーカーが調整を取っており、そのリストに従っていただければと思われる。2024 年 11 月からの準備期間を含めて、再度周知させていただいた。

（新潟：鈴木氏）WRk について、1 点目、WA 規則通り行われたかどうかを担保するため、地域外から審判員を招かなければならないのか。2 点目として、招くに当たってはどのように調整すればよいか。

（鈴木委員長）1 点目は、公平性を担保できるように、身内以外の近県より招いていただけるとよい。2 点目として、招いた場合の費用は主催者となるため、主催県より直接近県など交渉いただければよい。

（山形：池田氏・庄司氏）1 点目は、WRk 大会の申請で高校のブロック大会のような場合、投てきシューズなどで一部適用除外となった種目を除外する形で申請になるのか。2 点目は、身内以外の方を招いた時のプログラム記載の役職名はどのようになるのか。

（鈴木委員長）フィールド競技用のシューズの適用除外について、まずは、規則が変わることによる混乱を抑止することや、期限内にシューズ購入するなどの準備・普及を進めることが目的となっていた。WRk の導入など規則改定で状況が変わる中、適用も 2024 年 10 月 31 日を期限としたが、猶予期間としてとらえていただくとともに、WRk 競技会では当然 WA 規則に準拠したシューズを用いる必要がある。よって、競技者には、WA 規則に基づくシューズを求めざるを得ない。2 点目の近隣から競技役員を招いた場合の役職については、総務員など全体を見ていただく役職に置いていただければと思う。

競技会におけるユニフォームの形式について

事務局広報課 和賀 美咲 局員

- ・アスリートへの盗撮問題対策として、事務局が競技者に対しアンケート調査実施。
- ・自らの身を守る意識を持ったアスリートが一定数いる。
- ・リレー出場の際、チームで統一した形式のものを不本意でありながら着用している場合がある。
→デザイン、配色が同一であれば形式を選択できることはルール上問題ない。各団体で啓蒙活動を行ってほしい。
- ・退場の際、観客の近くを通る際に盗撮被害を受けることもある。導線の工夫・見直しをお願いしたい。

2022年度JTO活動報告

羽田 雄一 幹事

- ・各地へのJTO派遣に際し、色々ご協力ありがとうございます。
- ・報告の中から事例を2件JTOs研修で取り上げ、検討した。
- ・男子砲丸投の事例では、はっきりとルールに違反しているとは言えないので、無効試技とはしないという判断でも問題ない。
- ・女子三段跳の事例を踏まえ、計測機器の不具合に対処できるように、前もって準備を整えておくこと。また、特に大規模

大会では、抗議・上訴の手順をしっかりと確立、把握しておくことなどが重要である。

プロジェクトチームより

①競技カレンダー・記録PT (鍋島 太一 委員)

- ・公認協議会申請について。新システム導入後、円滑な申請のご協力に感謝いたします。
- ・来年度は運用2年目。記載URLからアップロードを2月28日までに。期間中であればエクセルのアップロードは何度でも可能。毎日13日以降に更新されHPに掲載となる。
- ・一次申請はシステムログイン後、公認大会の申請→エクセルをアップロードという流れ。
- ・3月1日以降、編集ボタンにて中止や延期などの変更を選択する（変更について基本は事前申請。コロナ等によるやむを得ない事象のみ事後申請可）。
- ・競技場の公認期限切れの表示に注意が必要だが、特例措置を受けている競技場についてはその表示あり。

②広告展示物規則PT (田中 康之 委員)

- ・道路競技（マラソン・駅伝・競歩競技）での、商標に関するチェック体制の整備と、あわせて大会要項、競技注意事項への「競技用の衣類/その他のアパレルに関する規程」の記載をお願いする。
- (1) チェック項目の整理
 - 1 ユニフォーム：違反は少なくなったが、ランパンとスパッツの重ね履きなどで違反が目立つ（ランパンとスパッツ双方に製造会社名/ロゴが掲出されてはいけない）。主催者側スポンサーがユニフォームを提供する競走大会/提供スポンサー名/ロゴの保護が必要。
 - 2 その他のアパレル：帽子、手袋、アームウォーマーでのチェック漏れが目立つ。
- (2) 関東学連競技会では、着用する可能性のあるものを写真で申告させ、事前にチェックを行っていた。これらの資料群を、今後の競技会でのチェックに活用してほしい。
- (3) 広告規程違反が見つかった時の現場での対応→「注意」と改善処置：マスキングやどちらか1枚の着用（重ね履き）、裏返しの着用等の処置。
- ・WRk申請競技会では、〔国内〕広告規程ガイドラインの適用となる。
- ・アスリートビブスの作成に関して、C7.4.8.2に誤訳があったので修正する。あわせて、競技規則TR5の〔国内〕規定を広告規程C7.4の8に、〔国内〕として移行する。これまでと実質の変更はない。

③審判ハンドブックPT (関 隆史 委員)

- ・新しいハンドブックを発刊するにあたり、コラムの充実を図り、広告規程に関する部分を新設した。
- ・例として、新コラム「写真判定を見やすくする工夫」の説明。

S級審判昇格審査報告

町田 紀子 幹事

- ・今年度の審査については、提出書類の不備が多く、本日現在まだ完了していない。
- ・次回より、書類不備に関して陸連から確認の問い合わせは行わない。
- ・審判講習会実績には、すべての講習会を記載してほしい。2023年度はこれまで通り直近6年度分を提出していただくが、2024年度からは直近年度のみの提出となる。
- ・審判手帳には必要事項を漏れなく記載いただくこと。

JT0s 育成セミナーについて

羽田 雄一 幹事

- ・2022年11月13日（日）に講義、11月20日（日）に認定試験を実施。
- ・25名が受験し7名合格。合格率28%。初の女性JT0（2名）が誕生した。
- ・2023年11月26日（日）に今回の不合格者を対象にJT0再試験を検討中。

JRWJs セミナーについて

町田 紀子 幹事

- ・2023年度に予定しているJRWJs認定試験で50%以上の合格を見据えてスキルアップを図る、ということを目的としている。

- ・2022年11月27日（日）に対面による研修会を実施した（16名参加）。
- ・今後、2023年11月26日（日）の認定試験に向けて4回のオンライン研修を予定。

2025年世界陸上について

鈴木 一弘 委員長

- ・東京2020大会の汚職事件・談合事件の影響で、東京都と陸連が競技運営組織に於けるガバナンス・コンプライアンスの整備に時間をかけており、組織委員会の設置や対外的発表はまだ行っていない。
- ・開催日程は2025年9月13日（土）～9月21日（日）の9日間。
- ・審判員や補助員の問題、国内競技会の日程調整など課題も多数あり、今後の調整となる。

<質疑応答>

（滋賀：長谷川氏）ユニフォーム「スパッツとランパンの違いの許容範囲」について、例えば、「女性のセパレートとランシャツの違い」は許容範囲かどうか。

（片岡裕委員）認識のとおり、許容範囲といえる。ユニフォームの形状が変わっても色やデザインから同じ学校（チーム）と認識できればよいと考える。また別件であるが、競技会には様々な企業からサポートいただいている。例えば電子機器など、提供していただいている機材などは丁寧に取り扱っていただきたい。

あいさつ

鈴木 一弘 委員長

本日、2023年度に向けてルールの変更をはじめ、必要と思われる内容を説明、報告させていただいた。皆様にご理解いただけたらと思う。競技運営委員会のメンバーも本務がある中、何とかわかりやすく伝えられるよう準備してきた。なかなか伝えきれない部分もあるが、今後ともリモートを含めた通信インフラを活用して、コミュニケーションを取り疑問点の解消を図っていただきたい。2023年度もよろしくお祈りします。

閉会あいさつ

風間 明 専務理事

冒頭から会議を聞かせていただいた。今年度の大会開催において、皆様のご尽力がなければ大会が開催できなかった。これに対して感謝申し上げます。WAの活動について、審判の構成、高潔性、多様性について色々手立てされており、2025年世界陸上でも女性審判員の割合についてはかなり高いパーセンテージで求められてくる様子。皆様がいて、選手が活躍できる。選手・審判・観客が一体となって素晴らしいイベントとして大会を作っていく。世界陸上については色々な意味で向かい風が吹く中ではあるが、2025年は日本陸連設立100周年を迎える年でもあり、準備期間が短いですが、皆様とともに成功への道をたどっていきたいと考えている。日々の大会を積み重ねていただきたい。ありがとうございました。

事務連絡

片岡 典子 幹事

- ・会議の短冊はすべての都道府県に送付します。S級昇格者のいる陸協には委嘱状と手帳も同封します。
- ・本日の全国会議報告を指定のフォルダーに収納します。準備ができ次第ご連絡します（2月20日頃の前定）。

以上

第106回日本陸上競技選手権大会・混成競技 報告

(一財) 秋田陸上競技協会

はじめに

大会開催にあたり2020年と2021年の2年間、秋田大会の競技運営マニュアルを作成し競技会全般を総括した高橋和夫混成競技係主任らの視察団が長野大会の視察をしました。その際には、多くの方々から競技運営全般についてご指導をいただき、本競技会をどうか開催することができました。ご教示をしてくださいました長野陸協、日本陸連の皆さまに感謝を申し上げます。また、大会前日に日本陸連の皆さまが会場入りした際には、私たち秋田陸協競技役員の不安が安心に変わり心強く感じたのを覚えています。大会期間中の多くの課題にも、日本陸連JTOの方々に対処していただき、2日間の競技会を無事に終えることができました。

【発生した問題点とその解決方法】

■競技運営全体について■

□AD規制□

競技が開始されるとすぐに監督やコーチが、選手控室等の立入禁止エリアに自由に入っている状況があり、至急、立入規制線と表示板を設置して対応しました。

これは、運営側の立入禁止規制が十分に機能していなかったことが原因で、直ちに対応しました。さらに、来年度はADカードで審判員、日本陸連関係者、監督・コーチを明確に区別できるような色分け等の工夫を行います。

□大型スクリーン未設置□

会場の秋田県営陸上競技場には、大型のスクリーンが設置されていません。そのため、本競技会では、レンタルで中型のスクリーンをフィニッシュ地点に2台設置して、スタートリストや記録の表示(担当:NISHI)を行いました。しかし、競技場内全体で多くの情報を共有するには少し小さいこと、場所によっては見えにくいという状況は払拭できず、大型スクリーンの代替とまではなりませんでした。

来年度は、選手控室や陸連ブース、大会本部、審判控室等に40~50インチ程度のスクリーンを設置して選手・競技役員が常に、組編成後のスタートリストや記録速報、競技者順位、欠場選手等の情報共有ができる状態が望ましいと考えています。大型スクリーンの設置については、秋田陸協から秋田県に要望をしているところです。

□EDMの動作確認□

選手権女子走幅跳のEDM動作確認を実施しましたが、何度やり直しても実測値よりも1cmプラスになるため、JTOに立ち会っていただき動作を確認して、ようやく原因が判明しました。このことで競技開始時間が数分遅れてしまいました。来年度に向けてEDMの動作確認の手順を、より正確に行う技術の習得を目指します。

□審判員の不足□

トラック種目終了後の選手の誘導、やり投と走高跳の助走やアップが第2曲走路のレーンにはみ出る場面での選手のコントロール(サブイベント大会の300mと時間が重なる場面)。これらをマーシャルにお願いしたかったが人数不足のため、他の審判員に依頼した

ケースがありました。また、前々日の会場準備、前日の選手の練習日に必要な審判員の不足により業務が難儀しました。来年度は適切な審判員の人数を把握した上で審判委嘱を行います。

□補助員への指示□

審判員は競技場内の状況をよく把握して、臨機応変に補助員の動きを指示する必要性がありました。例えば、走高跳の記録表示板の回し方です。観客は正面スタンド、監督はコーチングエリアに位置していたため、表示板は回転させなくてもスタンドと第4コーナーから見える位置に固定するなどの配慮をすること。また、競技開始時間が遅れた場合に、補助員が入場してくるタイミングを遅らせる指示などです。

■競技について■

□勘違い□

U20 男子走幅跳で、A選手が隣のピットのB選手の記録の読み上げを自分の記録と思い込んでしまい、表示された記録が「自分のものと違うのではないかと」質問にきました。その場で審判員が隣のピットの記録であると説明し、A選手は納得しました。解決策として、記録読み上げの混同を避けるために「Aピット、記録○m○○cm」とピット名も明確に伝えることにしました。

□抗議・上訴について□

選手権女子走幅跳の1回目の試技のピン差しの位置について、監督から抗議があり、審判長がそれを却下すると直ぐに監督から上訴がありました。ジュリー、担当総務員、審判長、担当審判員が、陸連科学委員会の撮影したビデオ映像を確認したところ、ピン差しの位置は正しいことが判明し、監督にも見せて納得していただき上訴が却下されました。

JTOの方々から適切なアドバイスをしていただいたお陰で、次の競技（やり投）に影響することなく対応することができました。混成競技は、次の競技が始まってしまうと前の競技の再試技ができなくなります。そのため、競技中に抗議・上訴が出た場合には時間に余裕を持って、次の競技が始まる前までに上訴の結果を出す必要があります。来年度に向けてスピーディーな対応策を検討したいと思います。また、ビデオ監察を増やして、フィールド競技のビデオ撮影を行う必要があります。

※参考報告書：第106回日本陸上競技選手権大会・混成競技 派遣報告書

JTO 羽田雄一 JTO 今野光人

おわりに

最終種目の1500mでは観客もグラウンドに降りて、会場みんなが選手達を拍手で応援しました。選手達がゴールし競技が終了すると、それまでの緊張もほぐれ、選手も観客もスタッフもみんながうれしそうな笑顔を浮かべていました。この競技会のフィナーレを迎えた瞬間にみんなが味わった「感動と達成感」が「やってみて高い効果」だと感じました。今年度のドキドキ感を来年度はワクワク感に変えて、秋田陸上競技協会は、第107回日本陸上競技選手権大会混成競技の運営を誠実にを行います。

文責 (一財)秋田陸上競技協会 競技委員長 金 宏明

令和4年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会 報告書

一般財団法人 徳島陸上競技協会
専務理事 難波 康夫

1. 期 日 令和4年8月3日(水)～8月7日(日)
2. 会 場 鳴門・大塚スポーツパーク ポカリスエットスタジアム
3. 大会運営

徳島陸上競技協会としては25年ぶりに全国規模の大会を運営することになり、審判員数や審判員の技量、補助員の人数など、非常に多くの不安を抱えて大会準備を始めた。

審判員数は、様々な勧誘による新規審判員の加入や大学生の協力と、四国3県や全国高等学校体育連盟陸上競技専門部(以降、全国高体連)・日本陸上競技連盟からの支援により、最低限の人員を確保することができた。

審判員の技量向上については、前年度からの日本陸上競技連盟による大会での実地研修を丁寧に実施して頂いたことや大会当日にも現場で指導も頂いたことで、審判技能を維持することができたことが大きな要因と思われる。ご協力頂いた関係各所の方々に深く感謝申し上げます。

4. 大会中、発生した問題点とその対処

- (1) 女子400m予選において、スタート後約5秒後雷管が暴発した。競技者がその音に反応することなく競技が進んだので不利があったとは判断せずレースを続行させた。結果発表15分後までに抗議がなかったためレース成立とした。
対応：抗議があった場合には対象組を準決勝に1組追加するなどの対応策を考えていた。スターターパートへは、暴発予防のマニュアルの徹底を再確認するよう伝え、再発を予防した。
- (2) 男子ハンマー投予選で投てきされたハンマーが補助ネット脇を抜けてテントに当たり、テント内の競技者選手の通路に落ちる重大なインシデントが発生した。幸いなことに周辺に競技者や競技役員はいなかったため怪我人等は発生しなかった。
対応：補助ネットの位置を調整すると共にテント間を空け通路を変更した。
- (3) 広告規定違反のTシャツが散見された。
対応：招集所のみでなく、現地での違反对応を行うこととした。成果は十分ではなかった。
- (4) 棒高跳において、跳躍した後にアップライトの位置が違っていたと抗議があった。
対応：審判がミス認め、5分待って再試技を行った。“設定後の連続試技は3分が正しいのでは”と課題を残した。
- (5) 男子走幅跳予選において、光波測定器の設定の不手際による遅れと以後の競技進行の遅れから、予選が3時間かかり決勝の招集まで45分しかとれなかった。
対応：女子の走幅跳予選では、A・Bピットを同時に進行し、約2時間で競技を終了することができた。
- (6) 男子八種競技110mHにおいて、ハードルに強い衝撃を与えると高さが落ちる(低くなる)ものが散見され、その交換に時間がかかった。
- (7) 男子やり投予選において1回目の試技で、ファール判定の誤審があり。抗議を受け、審判長が動画を確認し有効試技と判断した。
対応：審判長が誤審を認め、有効試技であると判断。1回目のやり直しとして全体の3回目試技終了後にその1回目の試技を行った。
- (8) 女子七種競技の走幅跳において、「計測地点を間違えていないか。」とTICに問い合わせがあった。審判長がビデオ監察で確認すると、着地点とは違う地点から計測を行っていた。
対応：審判長は誤審を認め、3回目の試技終了後にその追加試技を行った。
- (9) 4X400mリレーの予選において、次走者がコーナートップの整列にとまどう場面があった。
対応：以後のラウンドから、競技者(チーム)を判別し易いよう、全選手のビブスをレーンナンバーに変更した。
- (10) 女子走幅跳の決勝開始前に、Bピットのウレタン舗装の状況(暑さでウレタン表面が浮く)が、大変悪くなっていた。

対応：決勝をAピットで行うこととし、当日の全競技終了後、メーカーによる補修作業を行った。翌日には使用可能となった。

- (11) 女子七種競技やり投の穂先の痕跡判定について、「女子やり投時の痕跡判定と相違がある。」との指摘があった。

対応：これ以後、痕跡判定を担当する審判を固定し、裁量を統一した。

- (12) 競技の途中で無線インカム、大型映像装置及び空調の機器が原因不明の不調となった。

対応：施設管理者からメーカー連絡。また、再起動を行うなどによって対応した。

5. C級審判員について

審判員の不足は否めず、次のようにC級審判員で補った。当年度、5月以降に募集及び日本陸連登録を行った。

- (1) パート 4パート 合計15名

アナウンサー2名 放送部の生徒が、表彰式の進行を担当した。

出発係 4名 中学校での陸上競技経験者を中心に、競技者誘導や呼び出しを担当した。

競歩 5名 技術系情報通信コースの生徒を中心に、競歩における歩型判定結果のタブレット入力やレッドカードの累積集計などを担当した。(一部は大型映像装置のオペレーターを兼ねた)

風力 4名 マネージャーや中学校での陸上競技経験者により風力測定装置の操作を担当した。

配慮した点

- ・現役、陸上競技者以外から募集した。そのため、リハーサル大会には終始参加することができた。
- ・判定を必要とする部署にはつかないように配慮した。
- ・陸上競技の経験がある生徒を募集した。
- ・服装は補助員と同じで、胸章で区別するようにした。

改善の必要な点 大会期間中は十分な活動ができて運営に大いに貢献した。しかし、全国高校総体終了後も継続する意志を示す者は少なかった。

6. 効果を感じられたこと

- (1) 審判技量の向上においては、日本陸上競技連盟の丁寧な研修により、それまで全く全国大会を経験していなかった審判員も、全国高校総体の審判業務についての概要をイメージすることができ、大会本番につなげることができた。高い効果を感じられた。
- (2) 近隣の陸上競技協会から手薄なパートに優秀な審判員の協力を頂き、円滑に大会本番の広範な業務を果たすことができた。
- (3) 競歩審判員パートにおいて、その歩型違反の集計に専用アプリを作成し、タブレット通信で伝達することにより、集計の迅速性(失格伝達の迅速化)とアリーナの整然性確保に役立った。
- (4) アリーナ内に表彰式典と跳躍競技を同時に行うスペースが十分とれなかった。そこで、タイトな日程を円滑に行うため、メインスタンドロイヤルボックスで賞状授与セレモニーを行うこととし、跳躍競技の進行や表彰式待機の競技者に負担をかけず運営することができた。

2022年度全国競技運営責任者会議における報告

令和5年1月18日

一般社団法人福島陸上競技協会理事 二瓶 励

(大会総務、福島県中体連陸上競技専門部長)

1 大会名

第49回全日本中学校陸上競技選手権大会

2 主な内容

①発生した問題点とその解決方法等

○日本中体連と日本陸連と連絡を取り合いながら準備を進めることができた。

○新型コロナウイルスの感染状況が一番厳しい場合でも開催できるよう、事務局会を通し検討を重ね、準備を進めてきたが、国や県における新型コロナウイルスの対応策や日本中体連のガイドラインの変更に伴い、急遽変更を要する部分も発生した。特に、来場者制限人数については、難しい判断であった。

○競技役員については、県内全ての審判資格を持つ中学校教員に委嘱した。また、高校の教員を含めた本協会の審判員、福島大学陸上部の協力により、競技を運営することができた。当日の欠席等により、人数が足りない部署も出たが、他の部署と掛け持ちしながらの競技運営となった。

○ボランティア団体「うつくしまスポーツルーターズ」にAD規制系の役員協力を依頼した。派遣依頼についても、ボランティア団体の事務局と連絡を取り合い、負担なく進めることができた。また、大会当日もボランティアの方には、熱心に取り組んでいただいた。

○コロナ禍での大会運営から、中学生の補助競技役員については、必要最低限の人数とした。

○フィールドの一発決勝、中休み、トラックの2ラウンド制での実施により、選手としては、負担も少なくなるとともに、大会に照準を合わせやすかったのではないかと感じる。多くの大会記録・日本中学新記録樹立の1つの要因となったのではないかと感じる。

○暑熱対策としての中休みを設定し、競技時間を繰り下げたことで、競技役員・協力役員の拘束時間が

長くなった。中休みの間にもアップは行われていたり、規制ポイントや生徒・保護者受付系の業務は続いていたり、実際に役員で休める人は限られていた。解消するための工夫（例えば、朝の開場時間の繰り下げ、受付時間の固定化と周知、役員人数の増員によるローテーションなど）が必要と感じた。

○前年度視察が予定通りできなかったこともあり、それまで踏襲してきたことや各部署での詳細について不明確なことも多々あったが、福島県として最大限できることでの開催準備を進めた。前年度までの資料や担当者に助けられた部分も多く有難かったのは当然であるが、前年度等にとらわれすぎず、その開催地でできることを検討していくことが良いと感じた。

②C級審判員について

○競技役員が不足していた状況もあり、C級審判員の配置についても検討したが、今大会では感染症予防の観点から活用を見送った。

第77回国民体育大会いちご一会とちぎ国体 報告書

(一財) 栃木陸上競技協会

1. 開催期日 2022年10月6日(木)～10日(月)
2. 会場 カンセキスタジアムとちぎ(栃木県総合運動公園陸上競技場)
3. 実施種目 男子28種目 女子27種目 男女混合1種目 計56種目
4. 競技役員 418名
5. 新記録 U18日本記録 成年女子5000mW
日本高校記録 少年A男子ハンマー投
日本中学記録 少年B男子3000m
日本高校最高記録 男子300m
大会記録 成年男子110mH、成年女子5000m
成年女子やり投、少年A男子ハンマー投
少年女子Aやり投、少年男子B100mH
成年少年共通女子4×100mR
6. 発生した問題点とその解決方法

●事例1

成年少年女子共通4×100mRにおいて、予選4組2レーンのスターティングブロックの設置位置の間違え。800mのスタート位置に誤って設置。競技役員、選手も気づかずそのままスタート。出発後ブロックを片付ける際に出発係が気づき、本部に報告。

*対象チーム監督に説明・謝罪、救済として準決勝へ。

●事例2

少年女子共通三段跳において、3回目の正式記録と目測(痕跡場所と距離表示板)が明らかに違いすぎると3県から抗議。跳躍審判長が、光波計測器や距離表示板の位置などを確認するが問題はなかった。しかしながら各県が提出した映像を跳躍審判長、JTOが確認した結果、計測が適切になされなかった可能性があったため、抗議申し立てした3県のうち1県に対し抗議を認め3回目の試技についてやり直しをさせた。また、もう1県は、新たな映像を提出した上で上訴し、それを Jury が認めたため、3回目の試技についてやり直しをさせた。なお、残りの1県については3回目の試技やり直しは認めなかった。

2県の選手に3回目の試技のやり直しをさせた結果、当該2県選手がトップ8に入り順位が変動した。抗議前に決定していたトップ8から落ちた2都県がこの結果に対して抗議。3回目終了後に抗議申し立てをした3県のうち2県に対し、やり直しをさせた根拠と3回目のやり直しを実施した結果、順位が変動したことを伝えた。この抗議の裁定に対し2都県が上訴。上訴でも抗議で説明した通りと裁定を伝えたが、2都県は Jury からの説明を要望。そこで Jury が裁定を覆し、当該2都県の選手に4回目以降の試技を実施することを認めた。この後、一連の抗議・上訴・裁定に関する事で日本陸連役員の方針のもと、抗議・上訴・裁定のやり直しが行われ、2都県の上訴を棄却、2都県選手の4回

目以降の試技は実施しないことを決定し、通達した。2都県側はこれらの処遇に納得せず、主催者側が説明・説得を試みるも折り合いをつけることができなかった。次の日の朝、最終的に抗議をした2都県に対して、3回試技が終わった時点の順位（7位・8位）の入賞とその順位の点数の半分を与えた。また、救済でトップ8に入賞した2県の順位が7位・8位となり、点数が半分となることを了承していただいた。

* ジュリーが裁定を覆したことが大きな間違いであった。ジュリーは栃木県の審判員のみで構成していたが、他の都道府県にも派遣依頼するべきであった。

●事例3

成年少年男女混合4×400mR予選において、第2走者がトップで200m地点（コーナートップ）を通過したにも関わらず、競技役員の誘導ミスにより1番外側へ誘導してしまった。明らかに競技役員の誘導ミスによるもので、弁解の余地がなく、救済により決勝へ進出させた。

* 競技役員の誘導ミスはあってはならないことで、大会前の審判員打合せ等において綿密な確認を要する。

●事例4

成年少年男女混合4×400mR予選において、9レーン1走から2走の選手にバトンパスを完了した後、2走選手の前を5レーンの走り終わった選手が横断しようとするレーン内に入ったため、2走選手が避けるように走り、9レーンの選手が本来の進路を走行することができず不利益を被ったと判断し、5レーンのチームをDQとし、9レーンのチームを救済し、決勝進出とした。

* 男女混合のレースの走順によって男女の差が大きく、特に第1走者では、女子の選手が大きく遅れて第2走者にバトンを渡すことになる。バトンを渡し終えた選手は、まだバトンが渡っていないチームが後方からくることを確認しないと接触の恐れやレーンの侵害が発生してしまう可能性がある。この予選の事例を踏まえ、決勝では、競技役員（出発・マーシャル）にこのことを説明し、選手にも注意を促すこととした。

●事例5

成年少年男女混合4×400mR決勝の番組編成について、予選で8チームが決勝へ進出し、そこに救済を受けた2県が入り、決勝進出が10チームとなった。番組編成は、予選を通過した8チームと救済された2チームの2組とした。これに対して、救済を受けた2県からどうしてこの番組編成となったのか質問があった。結果的には、番組編成は、変更せず決勝は2組のタイムレースとなった。

* この件については、今後、救済されたチームがあり、番組編成が決勝2組のタイムレースとなってしまう場合は、5チームずつに分ける場合もあるなどの大会申し合わせ事項等で柔軟な対応をお願いする。

7. その他

コロナ禍の影響により延期・中止が続き、3年ぶりの国体開催となった。またコロナ禍で

の大会となり、事前の PCR 検査や抗原検査、検温、消毒などの対応や 2 階席を各都道府県選手団、3・4 階席を一般の観客席とした。1 日目と 2 日目が冷たい雨となったが、今大会において、U18 日本記録 1、日本高校記録 1、日本中学校記録 1、日本高校最高記録 1、大会新記録 7 など好記録が誕生した。最後に、今大会から実施された男女混合 4 × 4 0 0 m リレーで大会 5 日間が終了した。

本県での開催は、1980 年（昭和 55 年）栃の葉国体以来 42 年ぶりであり、全国規模の大会は、1993 年（平成 5 年）の栃木インターハイ以来 29 年ぶりとなった。審判員の課題として高齢化と人員不足、協力の依頼等大会直前まで苦勞した。今回の経験を今後にかせるように継承していきたい。

JOCジュニアオリンピックカップ
第16回U18・第53回U16陸上競技大会 報告書

一般財団法人愛媛陸上競技協会
専務理事 中山 桂

- 1 期 日 2022年10月21日(金)～23日(日)
- 2 場 所 愛媛県総合運動公園 陸上競技場
- 3 実施種目 【U-18】<男子>15種目(100m,300m,800m,3000m,110H,300H,3000mW、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投)
<女子>15種目(100m,300m,800m,1500m,100H、300H,3000W、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投)
【U-16】<男子>ターゲットナンバー種目 5種目(100m,走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投)
都道府県代表種目 6種目(150m,1000m,110H、三段跳、ジャベリックスロー、円盤投)
<女子>ターゲットナンバー種目 4種目(100m、走高跳、走幅跳、砲丸投)
都道府県代表種目 7種目(150m,1000m,100H、棒高跳、三段跳、ジャベリックスロー、円盤投)

4 大会概要

今年度が3ヶ年開催の2年目にあたるが、昨年コロナ対策で制約が多かったことを考えると、検温シールがなくなり、PCR検査の陰性証明が不要になったことで受付業務をスムーズに行うことができた。また、有観客での大会で選手のモチベーションが上がったのではないかと思われた。

昨年は追い風の影響が多かった印象があるが、今年度はグラウンドコンディションに恵まれなくとも、U-16=男子5・女子7の大会新記録、U-18=男子5・女子8の大会新記録を樹立した。そのうち、U-18女子100HではU18日本記録を、女子300HではU18・U20日本タイ記録を樹立して大会を盛り上げてくれた。日頃、大会で用いない種目のため、記録更新が起りやすいことを差し引いても、回を追うごとに競技レベルの向上を肌で感じた。そして、U16男女の三段跳で計6個の大会新記録が出たことは、特に女子の三段跳に対する取り組みの向上が技術の進歩を招き、記録に反映しているのではないかと思われた。

ただ、機器の不具合で記録が公認されなかったり、競技進行が遅れたりしたことは、選手、指導者、観客の皆様誠に申し訳なく思っています。次回大会におきましては、徹底的に準備、確認して同じようなことが起きないように運営していきたいと思っております。

5 競技運営上配慮したこと

(1) 大会のスリム化

昨年同様、NISHIの機器を使用することで、特に補助員の人数を抑えることができた、また、SISをU16にも導入することでスタート時のストレスから解放された。そして、昨年同様トラック種目の衣類運搬を100m,100H,110H,150mの決勝のみとして、予選は、待機場所に戻り、更衣後退場させた。それ以外の種目は、ゴール付近のテントで更衣し、スタート位置に各

自分で移動し、レース終了後は更衣し、第1ゲートから退場させた。これにより、補助員の数の削減につながり、選手等のレース中の無駄な動きが少なくなった。

(2) 競技開始の遅延を防ぐ

特に、跳躍競技のU16都道府県代表種目の三段跳の47名や棒高跳の42名は、遅れることが予想されていたため、競技開始時刻を早くしたり、招集についても選手がそろっていたら完了時刻より早くても移動させたり、最短距離を移動させるなどの方法を試みたが、遅れをすべて改善することはできなかった。競技開始時刻や招集完了時刻の再考が必要だと感じた。

(3) 表彰の場所

今大会が有観客で実施するため、表彰場所を幅、三段跳ピット前に表彰台を置いて実施した。スムーズに運営できたと思うが、1人1人出てきて表彰を受けるより、8人全員が最初から出てきて表彰台に上がり表彰を受けるなど工夫すれば、跳躍種目の競技進行を妨げる可能性が少なるよう思えた。

6 今大会での問題点と改善案

(1) 前回の150mにおいて番組編成について不公平があるということで、申込の統一を依頼したができなかったので決勝進出方法を0着+8とした。大きなトラブルはなかった。

(2) 資格審査について、1つの実施種目について突破しなければならない2種目目の資格種目が4~5種目あるが、その必要はないのではないかと考える。強化委員の方の経験と英知をもって、該当種目に関係する、相関の高い1~2種目を選定してもらいたい。それが、資格審査を正確、円滑に進めることができる方法だと考える。

(3) 練習会場の時間帯の再検討を実施する必要があることが判明したため、次回大会までに改善したい。

(4) 競技及び大会運営上の改善点

① 3000Wの申込において、5000Wの記録で申し込むように記載されているので、ロードの5kmの記録は認めないことを明記する。

② 3000Wでの混乱を防ぐため、アスリートビブスと腰ナンバーを統一する。

③ フィールド種目の試技数を2+3としたい。競技時間の短縮と世界で活躍する選手の育成に繋げていくために必要ではないかと考える。

④ U16三段跳の踏み切り板を、男子=11m・女子=9mに統一したい。今大会の参加者は、男女とも全員上回っていた。

⑤ 2日目のトラック種目が、150m,300m,300Hと水壕前を通過する種目が多いにもかかわらず、男女の走高跳があるため、双方に支障が出たため、トラック種目の日程を変えるか、高跳びの助走方向を変えるかしてスムーズで、安全性を確保した競技進行になるよう検討したい。次回大会までにトラック側に支柱ポイントを増設できるようになった。

⑥ U16の1000mの予選・決勝を2日間で実施できないか。また、タイムレースを2日間で実施するなど検討してほしい。体力的負担を少なくして記録向上の可能性を増やすため。

7 その他

(1) 小学生のレース参加者をプログラムに記載する。本県陸上競技の底辺拡大に大いに寄与するものと思う。

(2) 自由広場を全て借り上げて、そこで行う種目のウォーミングアップができるようにスペースを確保したい。

(3) 練習会場の閉鎖時刻を明記する。

第106回日本陸上競技選手権大会報告

公益財団法人大阪陸上競技協会

1. 大会についての概要

○4日間開催【6/9(木)～12(日)】

本年もU20を同時に開催した。

また、オープン競技として日曜日に小学生・マスターズ・デフの種目を実施した。

○自己記録

シニアでは男子50、女子47、U20では男子80、女子46の自己記録がでた。

○大会記録

シニアでは男子 3000mSC、女子 100mH、女子 3000mSC の3種目で、6つ。

U20 では、男子 3000m、男子走幅跳、女子ハンマー投の3種目で8つ樹立された。

○日本記録

なし

○オレゴン世界陸上内定

今大会で新たに男子8名、女子2名が内定。

○観客

1日目(1941人) 2日目(3576人) 3日目(2759人) 4日目(3536人)

○視聴率

6/9(木) BS1 18:00～20:00 1.1%

6/10(金) 総合 19:30～20:42 5.9%

6/11(土) 総合 16:00～18:00 5.1%

6/12(日) 総合 16:00～18:00 6.0%

○医務室対応人数

6/9(木)(8人) 6/10(金)(9人) 6/11(土)(6人) 6/12(日)(2人)

2. 競技運営等にかんして

- ・天候の崩れもなく(雨は3日目の午後のみ)、競技日程通りに実施できた。
- ・U20同時開催で日程が4日間となったため、特に木・金の審判員確保が大変であった。
- ・トラック競技は昨年より余裕のある競技日程に変更した。概ねスムーズに実施できたが、種目によってはタイトな部分もあり見直しが必要。また、開始時間が早くなり審判員の時間的負担は増加した。
- ・フライングによる失格はシニア男子1件、女子1件。U20は男子1件であった。また、YC(スタート時の警告)はシニア男子とU20男子にそれぞれ1件出された。
- ・最初の種目の競技開始時間 90分前に主任会議を実施した。(2日目はトラックとフィールドで開始時刻が大幅に違ったため実施せず。連絡事項はペーパーにまとめ、配布した。)
- ・NHKの放送に収まるように跳躍競技の進行に関する要望があり、対応した。
- ・盗撮について、アナウンスや電光掲示等で啓発を行ったが、疑わしき行為が多く見受けられた。マーシャルの審判員や補助員がプラカードを持って巡回を実施、また傍に立つなど注意を促した。陸連担当者が回られデータ削除を求めたケースもあったとのことである。

3. 抗議(質問)等に関して

- ・U20男子1500mで転倒した選手から救済が認められるのではとの抗議。 Juryも不可抗力であると裁定。
- ・シニア男子100mのフライングに関する質問。スターターから波形を示し説明する。抗議無し。
- ・シニア女子800mで妨害を受けたと抗議。救済なしの判定。ビデオを見せて説明。 訴無し。
- ・U20男子三段跳でファールをしたが、その際見たビデオは違うものではないか、確認したいとの申し出あり。ありえない事だが対応。ビデオを見せ、システムを説明した。

2023年度 日本陸上競技連盟競技規則 修改正案<2023.2.13>

競技運営委員会
競技規則検討 PT

(**太字** : 修改正、追加、挿入 修改正前 : 削除 修改正前&修改正 : 移動)

【一般的に適用される定義】

	修改正前	修改正
国際競技会	<p>別途定めのない限り、次の競技会をいう。</p> <p>1.1</p> <p>(a) ワールド・アスレティックス・シリーズ (WAS) に含まれる競技会。</p> <p>(b) オリンピック競技大会の陸上競技プログラム。</p> <p>1.2 WA が独占的な管理をせず、エリア、区域、または参加者が単一のエリアに制限されないグループの総合競技大会の陸上競技プログラム。</p> <p>1.3 参加者が単一のエリアに制限されない区域、またはグループの陸上競技選手権大会。</p> <p>1.4 複数の加盟陸連、またはエリア、またはその組み合わせを代表する異なった複数のエリアから参加するチームの対抗戦。</p> <p>1.5 WA がそのグローバル競技体制の一環として分類しカウンシルが承認した国際招待大会。</p> <p>1.6 1つのエリア陸連が主催したエリア選手権、およびその他のエリア内競技会。</p> <p>1.7 参加者が単一のエリアに制限されているエリア、地区あるいはグループの総合競技大会における陸上競技プログラムおよび、地区あるいはグループの陸上競技選手権大会。</p> <p>1.8 U18 および U20 のカテゴリーに属する競技会を除く、2以上の加盟団体、または同じエリアの加盟団体の組合せを代表するチームの対抗戦</p> <p>1.9 上記 1.5 に規定される以外の国際招待大会または競技会で、出場料、賞金、現金以外の賞品の価値が 総額で 5 万米ドルを超えるもの、または、種目別で 8,000 米ドルを超えるものが 1 種目でも含まれるもの。</p> <p>1.10 上記 1.5 に規定されていると同様なエリアのプログラム。</p>	<p>ワールドランキングコンペティションと同じ。</p>
ワールドランキング コンペティション	<p>—</p>	<p>ワールドランキングコンペティションとは、次の競技会をいう。</p> <p>1.1 WA が開催または認可する競技会:</p> <p>a. ワールド・アスレティックス・シリーズ (WAS)</p> <p>b. オリンピック競技大会</p> <p>c. 複数エリアからの参加者による総合競技大会の陸上競技プログラム、およびその他の陸上競技大会の陸上競技プログラム (競技会規則 (CR) および競技規則 (TR) の適用と遵守を条件とする)</p> <p>d. 一日開催の大会/サーキットとラベルロードレース</p> <p>e. 複数エリアからの参加者による国際競技会</p> <p>1.2 エリア陸連が開催または認可する競技会</p> <p>a. エリア選手権 (すべての種別や種目)</p> <p>b. エリア内選手権</p> <p>c. 参加者が単一のエリアに限定された総合競技大</p>

		<p>会の陸上競技プログラム、およびその他の陸上競技大会</p> <p>d. 一日開催の大会、サーキットとラベルロードレース。</p> <p>e. 国際対抗競技会（単一エリアからの参加者に限る）</p> <p>1.3 加盟団体（各国陸連）によって開催または認可する競技会：</p> <p>a. 各加盟団体選手権大会（世界陸上競技選手権大会および世界室内陸上競技選手権大会に含まれる種目）</p> <p>b. WA の競技会規則（CR）および競技規則（TR）に従って開催され、WA によって定められた条件に従い、承認の期限内に申請書が提出された、加盟連盟が特定するその他の国内大会</p>
--	--	---

【競技会規則（CR）】

条文番号	修正前	修正
CR1 他	「地域陸連」 「(各国の) 陸連、(選手の所属する) 陸連」	「 エリア陸連 」 「 加盟団体 」
CR2	<p>2.1 カウンシルは本規則に準拠して国際競技会を実施し、競技者、競技者代理人、大会組織者および複数の加盟陸連の関係を律する規定を定めることができる。カウンシルはこれらの規定をうまく適合するように変更または修正できる。</p> <p>2.2 WA および地域陸連は、適用できる規則や規定に確実に準拠しているのを確認するために、WA および地域陸連の許可証をそれぞれ必要とする国際競技会に参加する 1 名以上の代表者を指定できる。WA または地域陸連の要請により、そのような代表者は問題の国際競技会が終わってから 30 日以内に準拠性に関する報告書を提出する。</p>	<p>2.1 カウンシルは規則に基づいて開催される国際競技会の運営規程や、競技者、競技者代理人、競技会主催者および加盟団体の関係を律する規程を定めることができる。カウンシルは適宜、これらの規程を変更または修正することができる。</p> <p>2.2 WA およびエリア陸連は、適用される規則や規程が遵守されていることを確認するために、WA または エリア陸連の認可を必要とする国際競技会に出席する 1 名以上の代表者を 指名することができる。WA またはエリア陸連の要請により、指名された代表者は当該国際競技会終了後 30 日以内に「遵守に関する報告書」を提出する。</p>
CR8.2	クロスカントリー競走・道路競走・マウンテンレース・トレイルランニングにおいて ITOs が指名されたら、 <u>ITO は主催者に必要な支援を行う。ITO は自身に割り当てられた競技種目実施中ずっと競技場所</u> に <u>いなくてはならない。</u>	クロスカントリー競走・道路競走・マウンテンレース・トレイルランニングにおいて ITOs が指名されたら、 <u>ITO は主催者に必要な支援を行う。ITO は自身に割り当てられた競技種目</u> が行われている間は、常に 競技場所に <u>いなくてはならない。</u>
CR18.3	トラック競技審判長、場外競技審判長は、レースの順位について、審判員が順位に疑義があり順位を決定できない場合に限り、順位を決定する権限がある。但し、競歩競技の競歩審判員主任が責任を持つ任務の範囲には権限を持たないスタート審判長（スタート審判長が任命されていなければトラック競技審判長）は、もしスタートチームのスタート関連の判定に同意できなければ、当該スタートに関するどんな事実についても決定する権限を持つ。	トラック競技審判長、 競歩競技 審判長は、レースの順位について、審判員が順位に疑義があり順位を決定できない場合に限り、順位を決定する権限がある。但し、競歩競技の競歩審判員主任が責任を持つ任務の範囲には権限を持たない。 スタート審判長（スタート審判長が任命されていなければトラック競技審判長 または競歩競技審判長 ）は、もしスタートチームのスタート関連の判定に同意できなければ、当該スタートに関するどんな事実についても決定する権限を持つ。
CR19 グリーン	…。 別の方法として、審判員が本当の疑念がある場合には、赤旗を上げたうえで痕跡を保存するか、試技を計測したことを確認したうえでビデオ審判員に助言を求めることもできる。	…。 別の方法として、審判員が本当の疑念がある場合には、赤旗を上げたうえで痕跡を保存するか、試技を計測したことを確認したうえでビデオ審判 長 に助言を求めることもできる。
CR21.3	写真判定システムあるいはトランスポンダーシステムを使用する場合は写真判定員主任と適切な人数の写真判定員が任命されなければならない。	写真判定システム を使用する場合は、写真判定員主任と適切な人数の写真判定員が任命されなければならない。

CR22.3	<p>〔注意〕</p> <p>スターターは全走者を狭い視野に収められるような位置に立たなければならない。クラウチング・スタートを用いるレースでは、全走者が信号器を作動させる前の「用意」の状態 で静止しているのが確認できる場所に立つことが必要である。</p>	<p>〔注意〕</p> <p>スターターは全走者を狭い視野に収められるような位置に立たなければならない。クラウチング・スタートを用いるレースでは、全走者が信号器を作動させる前の「Set (用意)」の状態 で静止しているのが確認できる場所に立つことが必要である。</p>
CR23.4	<p>スターターが競技者に「位置について」を命じた時には、出発係は TR16.3 と 16.4 が守られていることを確認しなければならない。</p>	<p>スターターが競技者にスタートの位置に着くよう命じた時には、出発係は TR16.3 と 16.4 が守られていることを確認しなければならない。</p>
CR28	<p>〔注意〕</p> <p>計測機器の一連のチェックは当該機器を使用する次の競技が行われるまでの間に行う。競技中に正常に作動しないといった正当な理由がある場合には競技中に計測機器のチェックを行うが、その際には通常は検査済鋼鉄製巻尺を使用せずにチェックを行う。</p> <p>〔注釈〕</p> <p>距離を測るチェックポイントにゴルフのティー等でマークしておき、速やかにチェックできるようにしておくことよ。</p>	<p>〔注意〕</p> <p>計測機器の一連のチェックは当該種目の競技終了後にも、あるいは競技中に正常に作動しないといった正当な理由がある場合には競技中にも行うが、その際には通常は検査済鋼鉄製巻尺を使用せずに行う。</p> <p>〔注釈〕</p> <p>距離を測るチェックポイントにゴルフのティー等でマークしておき、速やかにチェックできるようにしておく。競技中や競技終了後のチェックでは、検査済鋼鉄製巻尺は使用せず、マークしたティー等の距離が競技開始前に計測した値と同じであることを確認する。</p>
CR31.14.5	TR32 と 34 のもとで行われる 400m (4×200mリレーおよび 4×400mリレーを含む) までのすべてのレースの世界記録の公認は、・・・	CR32 と CR34 の 対象となる 400m (4×200mリレーおよび 4×400mリレーを含む) までのすべてのレースの世界記録の公認は、・・・
CR31.21.3	スタート地点とフィニッシュ地点間全体の標高の減少は 1,000 分の 1 km (0.1%)、即ち 1 kmあたり 1mを超えてはならない。	スタート地点とフィニッシュ地点間全体の標高の減少は 1,000 分の 1 (0.1%)、即ち 1 kmあたり 1mを超えてはならない。
CR32	<p>男子</p> <p>写真判定・手動計時・トランスポンダー計時 道路競技 5 km 10km ハーフマラソン・・・</p> <p>女子</p> <p>写真判定・手動計時・トランスポンダー計時 道路競技 5 km 10km ハーフマラソン・・・</p>	<p>男子</p> <p>写真判定・手動計時・トランスポンダー計時 道路競技 1 マイル* 5 km 10km ハーフマラソン・・・</p> <p>女子</p> <p>写真判定・手動計時・トランスポンダー計時 道路競技 1 マイル* 5 km 10km ハーフマラソン・・・</p> <p>*記録の初回認定は 2023 年 9 月 1 日とし、男子 3 分 50 秒以内、女子 4 分 19 秒以内の記録を対象とする。その時点で上記記録が達成されていなかった場合、その時点でのベストタイムが世界記録となる。写真判定装置による 0.01 秒単位の記録、またはトランスポンダーシステムによる 0.1 秒単位の記録が認められる。</p>
CR32	<p>〔注意〕</p> <p>i 競歩競技を除く女子の道路競走については、WA は男女混合レース (男女混合) で達成された世界記録と女子レース (女子単独) で達成された世界記録という 2 つの世界記録を公認するものとする。</p> <p>ii 女子単独の道路競走は、男女異なるスタート時間を設けることで実施できる。その際、特にコースが同じ箇所を複数回通過するように設定されている場合は、助力、ペース調整、妨害の可能性を防ぐべく適切な時間差が設定されるべきである。</p>	<p>〔注意〕</p> <p>i 競歩競技を除く女子の道路競走については、WA は男女混合レース (男女混合) で達成された世界記録と女子レース (女子単独) で達成された世界記録という 2 つの世界記録を公認するものとする。</p> <p>女子の競歩競技については、男女混合レース (男女混合) または女子レース (女子単独) のどちらかで達成された 1 つの世界記録を公認するものとする。道路競技の 1 マイルについては、単一の性別者のみが出場したレースの記録を世界記録として公認する。</p>

		<p>〔注意〕</p> <p>ii 女子単独の道路競走は、男女異なるスタート時間を設けることで実施できる。その際、特にコースが同じ箇所を複数回通過するように設定されている場合は、助力、ペース調整、妨害の可能性を防ぐべく適切な時間差が設定されるべきである。</p>
CR37.10	<p>男子 写真判定・手動計時・トランスポンダー計時 道路競技 5 km 10km 15km 10 マイル・・・</p> <p>女子 写真判定・手動計時・トランスポンダー計時 道路競技 5 km 10km 15km 20km・・・</p>	<p>男子 写真判定・手動計時・トランスポンダー計時 道路競技 1 マイル* 5 km 10km ハーフマラソン・・・</p> <p>女子 写真判定・手動計時・トランスポンダー計時 道路競技 1 マイル* 5 km 10km ハーフマラソン・・・</p> <p>*初回認定は2023年12月31日とする。 写真判定装置による0.01秒単位の記録、またはトランスポンダーシステムによる0.1秒単位の記録が認められる。</p> <p>女子の競歩競技については、男女混合レース（男女混合）または女子レース（女子単独）のどちらかから達成された1つの日本記録を公認するものとする。 道路競技の1マイルについては、単一の性別者のみが出場したレースの記録を日本記録として公認する。</p>

【競技規則 (TR)】

TR1	<p>…〔国際〕… 国際競技会定義に定められた競技会は、World Athletics (以下、WA) 競技規則に基づいて行われなければならない。 …</p> <p>〔国際－注意〕 WA 加盟団体は、自国内の競技会運営にあたってはWA 競技規則を適用することを推奨する。</p>	<p>…〔国際〕… ワールドランキングコンペティションは、WA 競技会規則 (CR)、競技規則 (TR) および WA が定める諸規則に従って行われなければならない、WA グローバルカレンダーに記載されるものとする。 …</p> <p>〔注意〕 ワールドランキングコンペティションに該当しない競技会であっても、加盟団体は WA 競技会規則 (CR)、競技規則 (TR) および WA の定める諸規則を適用して実施するべきである。</p>												
TR3.1	<p>〔国内〕 国内のユース、ジュニアの競技会では年齢区分の下限は設けない。</p>	<p>〔国内〕 国内の U18、U20 の競技会では年齢区分の下限は設けない。</p>												
TR5.2	<p>—〔国内〕— 競技用靴に関する主要規則</p>	<p>〔競技用靴に関する規程 主要項目抜粋〕</p>												
TR5.2	<p>・靴底の最大の厚さ（購入時から装着されているオリジナルのインナーソールを含む）は、2024年10月31日までは以下の通りとする。</p> <table border="1" data-bbox="293 1854 887 2033"> <thead> <tr> <th>種目</th> <th>靴底の最大の厚さ</th> <th>要件・備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フィールド種目 (除：三段跳)</td> <td>20mm</td> <td>全投てき種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く、長さを競う跳躍種目に適用。</td> </tr> </tbody> </table>	種目	靴底の最大の厚さ	要件・備考	フィールド種目 (除：三段跳)	20mm	全投てき種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く、長さを競う跳躍種目に適用。	<p>・靴底の最大の厚さ（購入時から装着されているオリジナルのインナーソールを含む）は、2024年10月31日までは以下の通りとする。</p> <table border="1" data-bbox="922 1854 1516 2033"> <thead> <tr> <th>種目</th> <th>靴底の最大の厚さ</th> <th>要件・備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フィールド種目 (除：三段跳)</td> <td>20mm</td> <td>全投てき種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く、長さを競う跳躍種目に適用。</td> </tr> </tbody> </table>	種目	靴底の最大の厚さ	要件・備考	フィールド種目 (除：三段跳)	20mm	全投てき種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く、長さを競う跳躍種目に適用。
種目	靴底の最大の厚さ	要件・備考												
フィールド種目 (除：三段跳)	20mm	全投てき種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く、長さを競う跳躍種目に適用。												
種目	靴底の最大の厚さ	要件・備考												
フィールド種目 (除：三段跳)	20mm	全投てき種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く、長さを競う跳躍種目に適用。												

		全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。			全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。	三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 (800m未満の種目、ハードル種目を含む)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。	トラック種目 (800m未満の種目、ハードル種目を含む)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (800m以上の種目、障害物競走を含む)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは、道路競技と同じとする。	トラック種目 (800m以上の種目、障害物競走を含む)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは、道路競技と同じとする。
クロス カントリー	25mm スパイクシューズ または 40mm ノン・スパイクシューズ	競技者はスパイクシューズでもノン・スパイクシューズ（ロードシューズなど）を履くことができる。スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは25mmを超えてはならない。ノン・スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは40mmを超えてはならない。	クロス カントリー	25mm スパイクシューズ または 40mm ノン・スパイクシューズ	競技者はスパイクシューズまたはノン・スパイクシューズ（ロードシューズなど）を履くことができる。スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは25mmを超えてはならない。ノン・スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは40mmを超えてはならない。
道路競技 (競走、競歩)	40mm		道路競技 (競走、競歩)	40mm	
マウンテンレースと トレイルレース	制限なし		マウンテンレースと トレイルレース	制限なし	

・靴底の最大の厚さ（購入時から装着されているオリジナルのインナーソールを含む）は、2024年11月1日からは以下の通りとする。

種目	靴底の最大の厚さ	要件・備考
トラック種目 ハードル種目 障害物競走	20mm スパイクシューズ または ノン・スパイクシューズ	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。競技場内で行う競歩競技の靴底の厚さは、道路競技と同じとする。
フィールド種目	20mm スパイクシューズ または ノン・スパイクシューズ	全跳躍種目で、本規程10.3および10.4に記載のとおり、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない（前足の中心は、靴の内部の長さの75%にある靴の中心点。踵の中心は、靴の内部の長さの12%にある靴の中心点）。
道路競技 (競走・競歩)	40mm	
クロス カントリー	20mm スパイクシューズ または 40mm ノン・スパイクシューズ	競技者はスパイクシューズまたはノン・スパイクシューズ（ロードシューズなど）を履くことができる。スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは20mmを超えてはならない。ノン・スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは40mmを超えてはならない。

		<table border="1"> <tr> <td>マウンテンレースと トライレース</td> <td>制限 なし</td> </tr> </table> <p>重要告知：本規程 5.3 に従い、2024 年 11 月 1 日以降、靴底厚が上記の表に記載されている最大の厚さを超える既存靴は承認されなくなり、対象競技会では着用できなくなる。</p>	マウンテンレースと トライレース	制限 なし
マウンテンレースと トライレース	制限 なし			
TR5 〔国内〕	ii アスリートビブス（ビブス）の大きさは、横 24 cm 以内×縦 16 cm 以内とし、個人を識別する文字や数字等の大きさは縦最低 6cm～最高 10cm する。腰ナンバー標識は 12cm×18cm を標準とする。	ii アスリートビブス（ビブス）の大きさは、横 24 cm 以内×縦 16 cm 以内とする。個人を識別する文字や数字等の大きさは、 競技会における広告および展示物に関する規程参照 。腰ナンバー標識は 12cm×18cm を標準とする。		
TR5 〔注意〕	iii アスリートビブス（ビブス）上部の広告（スポンサー一名）は、縦 6 cm 以内、横 24 cm 以内とする。 iv アスリートビブス（ビブス）の広告は、男女別および種目別に分けることができる。 v アスリートビブス（ビブス）の下部の大会名等は、縦 4 cm 以内とする。 vi アスリートビブス（ビブス）の広告を含め、競技者がアスリートビブス（ビブス）を切ったり、曲げたり、文字を隠したりした時は、出場停止にすることができる。	（詳細は広告および展示物に関する規程参照）		
TR6.2	〔注釈〕 <u>TR7 ならびに TR8 でいうラウンドとは、予選や決勝などのことであり、走高跳、棒高跳でのある高さ、他のフィールド競技における試技回数とは異なる。</u>	<移動> TR7.4 へ		
TR6.3.4	何らかの機械的補助を利用すること。ただし、そうした補助を利用しても、利用しない他の競技者よりも有利にならないと考えられる場合を除く。	何らかの機械的補助を利用すること。ただし、 機械的補助用具規程（the Mechanical Aids Regulations） に従って許可（承認）された、あるいは認められた、障がいのある競技者が使用することを除く。 機械的補助用具規程参照。		
TR7.4	<TR6.2 から移動>	〔注釈〕 <u>TR7 ならびに TR8 でいうラウンドとは、予選や決勝などのことであり、走高跳、棒高跳でのある高さ、他のフィールド競技における試技回数とは異なる。</u>		
TR9 グリーン	TR9.2.1 の目的は 5000m 以上の長距離種目の実施を促進することであり、より長い種目の場合に 1 人または 2 人の男子もしくは女子選手が出場した場合に（例えば、10,000m 以上の競歩競技）、…	TR9.2.1 の目的は 5000m 以上の長距離種目の実施を促進することであり、より長い種目の場合 で男女のいずれかまたは男女ともに少数の競技者が出場する場合に （例えば、10,000m 以上の競歩競技）、…		
TR11.1	競技者の記録は、本連盟規則に基づいて準備された競技会で、かつ本連盟が認めた用器具を競技者が使った時でなければ有効としない。	〔国際〕 <u>ワールドランキングコンペティションで達成された記録のみを有効とする。</u> 〔国内〕 競技者の記録は、本連盟規則に基づいて準備された競技会で、かつ本連盟が認めた用器具を競技者が使った時でなければ有効としない。		
TR11.2.1	CR1 に規定されている統括団体（加盟団体）が認めている種目であること。	CR1 に規定されている 競技会統括団体が開催を承認している競技会 であること。		
TR11.2.2	その競技に公認審判員が委嘱され、審判員によって運営されていること。	公認審判員が指名され、当該競技会の審判にあたっていること。		
TR11.2.3	必要に応じて規則に合致した用器具が用いられていること。	規則に準拠した 機器や用器具が使用 されていること。		
TR11.3.1	CR1 に規定される統括団体（加盟団体）が競技会の開催を公認している。	CR1 に規定されている 競技会統括団体が開催を承認している競技会 であること。		
TR11.3.2	公認審判員が指名され、当該競技会の審判にあたっている。	公認審判員が指名され、当該競技会の審判にあたっていること。		

TR11.3.3	規則に準拠した機器や用器具が使用されている。	規則に準拠した機器や用器具が使用されていること。
TR13	…採点方法は、競技開始までに参加チームの合意を得なければならない。ただし、適用される規則で規定がある場合はその限りではない。	…採点方法は、競技開始までに参加する加盟団体またはチームの合意を得なければならない。ただし、適用される規則で規定がある場合はその限りではない。
TR14.1	…。 縁石を撤去しコーンまたは旗で代用する（代用縁石を含む）方法は、水濠を越えるためにメイントラックを離れる障害物競走、TR17.5.2によるグループスタートの外側、そして縁石設置のない直走路にも・・・	・・・。 縁石を撤去しコーンまたは旗で代用する（代用縁石を含む）方法は、水濠を越えるためにメイントラックを離れる障害物競走、TR17.5.2による第1グループと第2グループの走路の境界、縁石設置のない直走路にも・・・
TR15.3	…〔国際〕… 国際競技会定義 1.1～1.3、1.6 に該当する競技会、… CR32 あるいは CR34 のもとで世界記録として…	…〔国際〕… 国際競技会定義 1.1～1.3、1.6 に該当する競技会、… CR32 あるいは CR34 の対象となる世界記録として…
TR16.2.3	〔国内〕 スタートの準備が全て整っていない、スタートを中断しようと考えた場合には、「立って」の言葉を用いる。	〔国内〕 スタートの準備が全て整っていないと判断したり、スタートを中断しようと考えた場合には、「立って」の言葉を用いる。
TR16.7. グリーン	…。 しかし、ピストル発射前に手や足を動かしてなくても、何らかの連続的な動きで効果的にスタートしようとする「ローリングスタート」があったとスターター（またはリコーラー）が判断したなら、レースはリコール（呼び戻し）されなくてはならない。リコール（呼び戻し）はスターターやリコーラーによってなされるが、競技者が動き始めたとき、ピストルを撃って呼び戻すべきと判断できる最良に位置にいるのはスターターである。このケースではスタート合図前に競技者が動作を開始したとスターターが確信するなら、不正スタートが課せられるべきである。 〔注意〕ii に従って立ち姿勢からスタートする種目では、…	…。 しかし、スターターによる号砲前に競技者が手や足を動かしてなくても、号砲のタイミングを予想し、何らかの連続的な動きで効果的にスタートしようとする「ローリングスタート」があったとスターター（またはリコーラー）が判断したなら、レースはリコール（呼び戻し）されなければならない。リコール（呼び戻し）はスターターまたはリコーラーによって行うことができるが、競技者が動き始めたとき、「ローリングスタート」の有無を判断できる最適な立場にあるのはスターターである。スターターが、号砲の前に競技者が動作を開始したと確信するなら、不正スタートが与えられるべきである。 〔注意〕ii に従って立位（スタンディングポジション）でスタートする種目では、…
TR17.2.2	別の競技者が上記妨害行為を引き起こしたと審判長が判断した場合、	別の競技者が上記妨害行為を意図的に引き起こしたと審判長が判断した場合、
TR17.14	途中時間や予想優勝時間は、公式にアナウンスまたは表示することができる。2 か所までの指定された場所で時間を読み上げることができる各 1 名を、許可あるいは指名できる。審判長より事前に承認を得ない限り、いかなる者も競技区域内で時間を競技者に知らせはならない。こうした許可が与えられるのは、レースに参加している競技者全員が途中時間を知ることができるような地点や環境下に、競技者が視認できる時間表示がない場合に限定される。 本規則に違反し途中経過時間を知らされた競技者は、助力を受けたと見なし、TR6.2 を適用する。	途中時間や予想優勝時間は、公式にアナウンスまたは表示することができる。審判長は、レースに参加している競技者全員が途中時間を知ることができるような地点や環境下に視認できる時間表示がない場合に限り、2 か所まで場所を指定し、その場所で時間を読み上げることができる各 1 名を、許可あるいは指名できる。審判長より事前に承認を得ない限り、いかなる者も競技区域内で時間を競技者に知らせはならない。 本規則に違反し途中経過時間を知らされた競技者は、助力を受けたと見なし、TR6.2 を適用する。
TR19.10.1	トラックレースでは、ちょうど 0.1 秒で終わる以外は、次の 0.1 秒として変換され記録される。すなわち、10 秒 11 は 10 秒 2 と記録される	トラックレースでは、ちょうど 0.1 秒で終わる以外は、次のより長い 0.1 秒として変換され記録される。 例 10.11 → 10.2
TR19.10.2	レースの一部または全部が競技場外で行われる場合の計時は、ちょうど秒で終わる以外は、次の秒として変換され記録される。	レースの一部または全部が競技場外で行われる場合の計時は、0.1 秒単位が厳密に「.0」にならない場合は、次のより長い 1 秒として変換され記録される。
TR19.17	…この場合、画像上に表示された時間はいかなる状況においても公式記録と見なされないが、画像は競技者間の順位を判断し、時間差を調整するための有効な材料として用いることができる。	…この場合、画像は競技者間の順位を判断し、時間差を調整するための有効な材料として用いることができる。

TR19.19	<p>…。</p> <p>写真判定員主任はトラック競技審判長とスターターの協力を得て、そのシステムが自動的にスターターの信号器の合図で承認された写真判定装置が TR19.13.2 に定められた時間内 (0.001 秒以内) で正しく作動するかどうかのゼロ・コントロールテストを、各セッション (午前の部または夜の部) の開始前に実施しなければならない。</p>	<p>…。</p> <p>写真判定員主任はトラック競技審判長とスターターの協力を得て、写真判定システムがスターターの信号器の合図によって自動的に、TR19.13.2 に定められた時間内 (0.001 秒以内) で正しく作動するかどうかのゼロ・コントロールテストを、各セッション (午前の部または夜の部) の開始前に実施しなければならない。</p>
TR19.23.3	(新規追加)	<p>〔注意〕</p> <p>道路競技の 1 マイルは、次のより長い 0.01 秒に変換する (切上げる)。</p>
TR19.24.5	(新規追加)	<p>〔注意〕 ii.</p> <p>道路競技の 1 マイルは、次のより長い 0.1 秒に変換する (切上げる)。</p>
TR23.4	<p>〔例 2〕 (9 レーン・外水濠・第 1 障害の移動)</p> <p>スタートラインから最初の 1 周に入るまで障害物を置かない 39m280</p> <p>最初の 1 周に入ってから第 1 障害物までの距離 15m104</p> <p>スタートラインから最初の障害物まで 70m</p> <p>(第 1 障害物を移動する距離 15m616)</p> <p>第 1 障害物から第 2 障害物までの距離 84m592</p>	<p>〔例 2〕 (9 レーン・外水濠・第 1 障害の移動)</p> <p>スタートラインから最初の 1 周に入るまで障害物を置かない 39m280</p> <p>スタートラインから最初の障害物まで 70m</p> <p>最初の 1 周に入ってから第 1 障害物までの距離 30m720</p> <p>(第 1 障害物を フィニッシュライン側 に移動する距離 15m616)</p> <p>第 1 障害物から第 2 障害物までの距離 84m592</p>
TR24.11	<p>リレー競技のチームの編成は、各ラウンドの第 1 組の招集完了時刻の 1 時間前までに正式に申告しなければならない。一度申告したらその後の変更は、招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り、認められない。</p>	<p>リレー競技のチームの編成は、各ラウンドの第 1 組の招集完了時刻の 1 時間前までに正式に申告しなければならない。一度申告したらその後の変更は、その組の招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り、認められない。</p>
TR24.13.2	はじめの二人の走者はレーンで走り、・・・	第 1 走者と第 2 走者 はレーンで走り、・・・
TR25.3	<p>…。</p> <p>各マーカーが単一のものであることの要件は、審判長によって分かりやすく解釈されるべきである。例えば製造業者が 2 つの部品を使用して、そのように使用することを意図した単一の構造を作る場合、それは許されるべきである。同様に競技者がマーカーを同じ場所に置くことを選択した場合、または走高跳で、テープを細かく裂きより鮮明に目立たせる目的で異なる形の単一マーカーを作った場合は、それぞれ許容されるべきである。</p>	<p>…。</p> <p>各マーカーが一体構造のものであることの要件は、審判長によって分かりやすく解釈される必要がある。例えば、製造業者がそのように使用することを意図した一体構造物を作るために 2 つの部品を使用することは許されるべきである。同様に、複数の競技者がマーカーを同じ場所に置くことを選択した場合、または走高跳で、テープを細かく裂きより鮮明に目立たせる目的で異なる形状のマーカーを作った場合も、それぞれ許容されるべきである。</p>
TR25.6	(新規追加)	<p>〔注意〕</p> <p>v 国際競技会定義 1.5、1.9、1.10 の競技会では、当該競技会に適用される規則または主催者が決定する他の方法によって、競技者はシード、ランク付け、競技順序が割り当てられる場合があるが、その内容は事前に競技者とその代理人に通知されることが望ましい。</p>
TR25.12	〔国内〕 予選通過標準記録および決勝の競技者数など予選の条件は、主催者が決める。	〔国内〕 予選通過標準記録および決勝の競技者数など予選 通過 の条件は、主催者が決める。
TR25.17	<p>担当審判員は競技者に試技を開始するための用意が完了していることを示さなくてはならず、この瞬間から試技時間のカウントダウンが始まる。</p> <p>棒高跳における時間は、競技者からの事前の申告に従ってバーが調整された時から開始する。さらに調整するための追加時間は認められない。</p> <p>競技者が試技時間内に競技を開始していれば、試技の完了前に試技時間が超過しても、その試技は認められ</p>	<p>担当審判員は競技者に試技を開始するための用意が完了していることを示さなくてはならず、この瞬間から試技時間のカウントダウンが始まる。</p> <p>棒高跳における時間は、競技者からの事前の申告に従ってバーが調整された時から開始する。さらに調整するための追加時間は認められない。</p> <p>競技者が試技時間内に競技を開始していれば、試技の完了前に試技時間が超過しても、その試技は認められ</p>

	<p>る。 試技時間のカウントダウンが始まった後に競技者がその試技を行う意思がない場合、制限時間が過ぎるのを待って無効試技として扱う。 次の試技時間は通常は超えてはならない。試技時間を越えたら TR25.18 を除き、無効試技として記録する。</p>	<p>る。 試技時間のカウントダウンが始まった後に競技者がその試技を行わないと決めた場合、制限時間が過ぎるのを待って無効試技として扱う。 次の試技時間は超えてはならない。試技時間を越えたら TR25.18 を除き、無効試技として記録する。</p>
TR25.17	<p>** 単独種目・混成競技ともに、残っている競技者数に関係なく適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。</p>	<p>** 単独種目・混成競技ともに、残っている競技者数が2名以上の時に適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。</p>
TR25.17 グリーン	<p>…。審判員と審判長は特に時計をスタートさせる時間を決定するときや、「タイムアウト」となり無効試技を宣告するとき、現在置かれている競技会の環境を十分に理解していなければならない。</p>	<p>…。審判員と審判長は特に時計をスタートさせる時間を決定するときや、「タイムアウト」となり無効試技を宣告するときには、イベントプレゼンテーションの指示の内容も含めた競技会の進行状況を十分に理解していなければならない。</p>
TR27.8	<p>…。 バー止めはバーの両端の下辺と同じ高さとする。</p>	<p>…。 バー止めはバーの両端直下の踏切場所の地面から同じ高さでなければならない。</p>
TR28.12 グリーン	<p>(1) 競技者がタッチしたクロスバーがバー止め上で震えることがよくある。審判員主任はクロスバーの位置に応じてバーの揺れを止めるタイミングを決め、特に TR20.10 と TR28.4 に含まれる特別な状況を見極め、適切な旗を掲げなければならない。</p>	<p>(1) 競技者がタッチしたクロスバーがバー止め上で揺れていることがよくある。審判員主任はクロスバーの位置に応じてバーの揺れを止めるタイミングを決め、特に TR26.10 と TR28.4 に含まれる特別な状況を見極め、適切な旗を掲げなければならない。</p>
TR29.12	<p>風速は競技者が踏切板から走幅跳で 40m、…</p>	<p>風速は競技者が踏切線から走幅跳で 40m、…</p>
TR31.4	<p>〔国内〕 踏切板は砂場の近い方の端から男子 13m、女子 10m よりも短くしないことが望ましい。</p>	<p>〔国内〕 踏切線は砂場の近い方の端から男子 13m、女子 10m よりも短くしないことが望ましい。</p>
TR32.14 グリーン	<p>TR32.14.2 の注釈の追加は、砲丸投、円盤投またはハンマー投で…</p>	<p>TR32.14.2 〔注意〕は、砲丸投、円盤投またはハンマー投で…</p>
TR38.1 TR38.8 TR38.9	<p>握り</p>	<p>グリップ</p>
TR38.1	<p>…。上記以外の投げ方は認められない。</p>	<p>…。正常とはいえない投げ方は認められない。</p>
TR38.7	<p>柄は先端に向け尖った金属の頭部とつながっていなければならない。先端部分はすべて金属でなければならない。頭部の表面が全体的に滑らかで均一であることを条件として、穂先の先端に別の合金で補強した先端を取り付けてもよい。先端の角度は 40 度を超えないものとする。</p>	<p>柄は穂先に向けて金属の頭部とつながっていなければならない。頭部は全て金属製でなければならない。頭部の表面が全体的に滑らかで均一であれば (TR33.4 参照)、頭部の端に別の合金で補強した先端部を取り付けてもよい。先端部の角度は 40 度を超えてはならない。</p>
TR38.9	<p>切断面はどこでも完全に円形でなければならない（〔注意〕 i 参照）。柄の最大直径は握りの直前でなければならない。握りの下の部分を含む柄の中央の部分は、筒状かやりの後方に向かって幾分細くなるようにするが、直径の減少は握りの直前、直後について 0.25 mm を超えてはならない。握りのところから、やりは先端と末端に向かってだんだん細くする。</p> <p>握りのところから先端および末端に至る縦断面は直線であるか、もしくは、わずかなふくらみがあってもよいが（〔注意〕 ii 参照）、穂先の直前の部分および握りの直前、直後の部分を除き、やりの長さの全体を通して直径に急な変化をつけてはいけない。やりの穂先の後ろの部分における直径の減少は 2.5 mm 以下とし、…</p>	<p>切断面はどこでも完全に円形でなければならない（〔注意〕 i 参照）。柄の最大直径はグリップの直前でなければならない。グリップの下の部分を含む柄の中央の部分は、筒状かやりの後方に向かって幾分細くなるようにするが、グリップの直前から直後までの直径の減少は 0.25 mm を超えてはならない。やりは、グリップから先端部の先と後部末尾に向かってだんだん細くなっていなければならない。 グリップから先端部の先および後部末尾に至る縦断面は直線であるか、もしくは、わずかなふくらみがあってもよいが（〔注意〕 ii 参照）、頭部の直前の部分およびグリップの直前、直後の部分を除き、やりの長さの全体を通して直径に急な変化をつけてはならない。やりの頭部の後ろの部分における直径の減少は 2.5 mm 以下とし、…</p>

TR38.9	〔注意〕 ii …、やりと直定規の間に 0.20 mm 厚のフィラー・ゲージが入る隙間があってはならない。ただし、これは穂先と柄の接合部分については適用しない。	〔注意〕 ii …、やりと直定規の間に 0.20 mm 厚のフィラー・ゲージが入る隙間があってはならない。ただし、これは 頭部 と柄の接合部分については適用しない。																																
TR38.12	金属製穂先の角度は 40 度を超えてはならない。穂先の先端から 150 mm のポイントでの直径は柄の一番太いところの 80% を超えてはならない。重心と金属製穂先の先端との中間点において、直径は柄の一番太いところの 90% を超えてはならない。	金属製 頭部の先端部 の角度は 40 度を超えてはならない。 頭部の先端部 から 150 mm のポイントでの直径は柄の一番太いところの 80% を超えてはならない。重心と金属製 頭部の先端部 との中間点において、直径は柄の一番太いところの 90% を超えてはならない。																																
TR38.13 グリーン	C. 落下域において距離を計測するための痕跡を確認する審判員。もし、やりが角度線の外に落下した場合、この審判員もしくはプリズムを持っている審判員は、その事実を、腕を外に付けるようなしぐさで伝える。有効試技の場合はこのような合図は不要である。	C. 落下域において距離を計測するための痕跡を確認する 1 名ないし 2 名 の審判員。もし、やりが角度線の外に落下した場合、この審判員もしくはプリズムを持っている審判員（ 角度線に近い方のどちらか ）は、その事実を、腕を外に向けて まっすぐ示すようなしぐさで伝える。やりが頭部から先に着地しなかったと判断した場合にも適切な合図が必要で、旗以外の何らかの合図で伝えることを推奨する。 有効試技の場合はこのような合図は不要である。																																
TR39.9 グリーン	…。 TR39.9 には競技会における単独種目ごとに 1 つの計時システムのみが適用されるとあるので、すべての競技者は手動計時用の混成競技採点表を使用して、手動時間に基づいてポイントを決める。 他の種目ではすべての競技者が写真判定で計時できた場合、その種目は写真判定用の混成競技採点表を使用することができる。	…。 TR39.9 には競技会における単独種目ごとに 1 つの計時システムのみが適用されるとあるので、 異なる計時システムが用いられた場合 、すべての競技者の ポイント は手動計時用の混成競技採点表を使用して決定する。 他の種目ですべての競技者が写真判定で計時できた場合、その種目は写真判定用の混成競技採点表を使用して ポイントを決定 することができる。																																
TR54.7.3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>距離（その長さを含む）</th> <th>時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,000m・5km まで</td> <td>30秒</td> </tr> <tr> <td>10,000m・10km まで</td> <td>1分</td> </tr> <tr> <td>20,000m・20km まで</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>30,000m・30km まで</td> <td>3分</td> </tr> <tr> <td>35,000m・35km まで</td> <td>3分30秒</td> </tr> <tr> <td>3分30秒</td> <td>4分</td> </tr> <tr> <td>50,000m・50km まで</td> <td>5分</td> </tr> </tbody> </table>	距離（その長さを含む）	時間	5,000m・5km まで	30秒	10,000m・10km まで	1分	20,000m・20km まで	2分	30,000m・30km まで	3分	35,000m・35km まで	3分30秒	3分30秒	4分	50,000m・50km まで	5分	<table border="1"> <thead> <tr> <th>距離（その長さを含む）</th> <th>時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,000m・5km まで</td> <td>30秒</td> </tr> <tr> <td>10,000m・10km まで</td> <td>1分</td> </tr> <tr> <td>20,000m・20km まで</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>30,000m・30km まで</td> <td>3分</td> </tr> <tr> <td>35,000m・35km まで</td> <td>3分30秒</td> </tr> <tr> <td>40,000m・40km まで</td> <td>4分</td> </tr> <tr> <td>50,000m・50km まで</td> <td>5分</td> </tr> </tbody> </table>	距離（その長さを含む）	時間	5,000m・5km まで	30秒	10,000m・10km まで	1分	20,000m・20km まで	2分	30,000m・30km まで	3分	35,000m・35km まで	3分30秒	40,000m・40km まで	4分	50,000m・50km まで	5分
距離（その長さを含む）	時間																																	
5,000m・5km まで	30秒																																	
10,000m・10km まで	1分																																	
20,000m・20km まで	2分																																	
30,000m・30km まで	3分																																	
35,000m・35km まで	3分30秒																																	
3分30秒	4分																																	
50,000m・50km まで	5分																																	
距離（その長さを含む）	時間																																	
5,000m・5km まで	30秒																																	
10,000m・10km まで	1分																																	
20,000m・20km まで	2分																																	
30,000m・30km まで	3分																																	
35,000m・35km まで	3分30秒																																	
40,000m・40km まで	4分																																	
50,000m・50km まで	5分																																	
TR54.12	競技者は競技役員への許可と監視下にある場合、歩くべき距離を短くしない条件ならば、示されたコースを離れることができる。	競技者は競技役員への 許可を得て、かつその監督下にある場合は、コースを離れたことにより歩くべき距離が短くならないことを条件に 、示されたコースを離れることができる。																																
TR54.13	審判長が審判員、監察員またはそれ以外の報告により、競技者がコースをはずれ距離を短くしたと判定した場合、競技者は失格となる。	審判長が審判員、監察員またはそれ以外の 大会関係者 の報告により、競技者がコースをはずれ距離を短くしたと判定した場合、競技者は失格となる。																																
TR55.1	道路競技の標準となる距離は、5km、10km、15km、20km…	道路競技の標準となる距離は、 1 マイル 、5km、10km、15km、20km…																																
TR55.2	〔注意〕 i 標準距離の道路競走においては・・・50%以下とする。世界記録の公認については CR32.21.2 を参照すること。	〔注意〕 i 標準距離の道路競走においては・・・50%以下とする。世界記録の公認については CR31.21.2 を参照すること。																																
TR55.3	〔注意〕 iv 標準距離の道路競走においては、スタートとフィニッシュ地点の 2 点間の標高の減少は全体として 1,000 分の 1(0.1%)を超えないことが望ましい(即ち 1 km あたり 1m)。記録の公認については CR32.21.3 を参照すること。	〔注意〕 iv 標準距離の道路競走においては、スタートとフィニッシュ地点の 2 点間の標高の減少は全体として 1,000 分の 1(0.1%)を超えない ものとする (即ち 1 km あたり 1m)。 世界 記録の公認については CR31.21.3 を参照すること。																																

TR55.5	<p>〔国際〕 ロードリレーでは、…10mにも引く。引継ぎは、主催者が別途規定しない限り、前走者と次走者との間で受け渡すことを指し、そのすべての動作がこの引き継ぎ区域内で完結しなければならない。</p>	<p>〔国際〕 ロードリレーでは、…10mにも引く。引継ぎは、主催者が別途規定しない限り、前走者と次走者との間で身体的接触によって行われなければならない、そのすべての動作がこの引き継ぎ区域内で完結しなければならない。</p>
TR55.9	<p>道路競技で競技者は競技役員の許可を得て、かつその監督下にある場合は、コースを離れたことにより走行距離が短くならないことを条件に、示されたコースを離れることができる。</p>	<p>競技者は競技役員の許可を得て、かつその監督下にある場合は、コースを離れたことにより走るべき距離が短くならないことを条件に、示されたコースを離れることができる。</p>
TR56.5	<p>…。主催者が具体的に明記していない限り、走者間での受け渡しはこのゾーンの中で前走者と次走者の体の「タッチ」によって行われなければならない。</p>	<p>…。主催者が具体的に明記していない限り、走者間での受け渡しはこのゾーンの中で前走者と次走者の身体的接触によって行われなければならない。</p>

機械的補助用具規程 (WA : C2.1B MECHANICAL AIDS REGULATIONS)

〔注意〕 原文との解釈に相違がある場合は原文を優先する。

特定用語の定義

この規程で使用される単語および語句は、憲章および一般定義で定められているものと同義とする。以下のものは次の通りとする。

対象競技会

WA、エリア陸連、または各国連盟のいずれかによって開催が認可された競技会を意味し、WA の関連するすべての規程および規則が遵守され、その結果として、世界ランキングポイントが獲得される競技会。

(<https://www.worldathletics.org/world-rankings/introduction> 及び
<https://www.worldathletics.org/world-ranking-rules/basics> 参照)

さらに、各国連盟が開催を認可した競技会の場合、各国連盟は WA の統計および結果の取扱いの目的に合致するものとして、当該競技会を承認しなければならない。

該当者

インテグリティ行動規範 (Integrity Code of Conduct) の規則 1 に該当する個人と団体。

申請書

本規程 4.1 に従い、WA に提出される申請書 (WA のウェブサイトから入手可能。審査委員 (Review Officer) からの要求に応じて利用可能)。

事務総長 (または事務総長から任命された者)

WA 事務総長または事務総長から任命されたスタッフ。

独立した専門家

事務総長 (または事務総長から任命された者) によって随時任命される生体力学 (バイオメカニクス) やその他の適切な資格のある専門家。本規程にもとづいて生じる各種の問題についてテストや検討を行う。

跳躍種目

競技規則 (TR) で定義されている走高跳、走幅跳、棒高跳、三段跳。

マッシュ (MASH)

最大許可身長 (Maximum Allowable Standing Height)。競技者が競技に出場するに際して認められる最大の身長。世界パラ陸上競技連盟 (WPA) の定める公式によって算出する。両下肢欠損症によりパラ陸上競技会に出場する資格があり、競技を行うために両足ともに義足を使用する必要がある者に適用される (この公式は競技者の下肢以外の測定値に基づく)。その競技者はパラ陸上競技の競技クラス T/F61 または T/F62 に出場する。

機械的補助用具

(1) 身体に障がいのある競技者が競技会に出場できるようにするために使用する、1 つまたは複数のパッシブ (受動的) 補助義肢用具 (ランニング専用義肢を含む)、または、(2) WA によって機械的補助用具として随時指定される、その他の補助用具または器具。

機械的補助用具審査パネル

カウンシルによって任命された委員による委員会。その委任事項に従い本規程に関する申請を受け、申請事項に対する決定を行う。また、カウンシルから随時委任される、その他の役割と責任を果たす。

競歩種目

競技規則 (TR) で定義されているものと同じ。

本規程

機械的補助用具規程 (the Mechanical Aids Regulations)。随時、修正される。

審査委員

本規程に関して生じる問題について WA に代わって行動する WA 事務総長 (または任命された者) から指名されたスタッフ (または更に任命された者) のメンバー。

競走種目

競技規則 (TR) で定義されている道路競技種目、トラック競技種目、クロスカンントリー、マウンテン&トレイルレース。

スタッフ

WA のために、または WA の代理人として仕事をするために雇用されている者、またはその任務に従事し

ている者（特に明記されていない限り、インテグリティユニットで雇用または当該任務に従事している者を含む）。

競技規則（TR）

WA 体系：C2.1 に定められている規則。 <https://www.worldathletics.org/about-iaaf/documents/book-of-rules> より入手可能。

投てき種目

競技規則（TR）で定義されている円盤投、ハンマー投、やり投、砲丸投。

ワールドアスレティックスシリーズ大会（WAS 大会）

世界陸上競技選手権、世界室内陸上競技選手権大会、世界リレー、U20 世界陸上競技選手権、世界ロードランニング選手権、世界競歩チーム選手権および世界クロスカンントリー選手権大会。

ワールドパラアスレティックス（WPA・世界パラ陸上競技連盟陸連）

国際パラリンピック委員会によって承認された、パラ陸上競技のための国際連盟。

1.概要

1.1 WA は陸上競技の世界的なガバナンスと規制を担う国際連盟として、身体的障がいのために機械的補助用具を使用する競技者が、対象競技会へ支障なく参加できるように、WA 憲章 4.1(a)(c)(d)(e)(j)および TR6.3.4 に加えて、以下の義務に基づき、本規程を採用する。

1.1.1 WA は陸上競技スポーツに関与し、以下のことを実現するために、競技と競技規則を確立する必要がある。

(a) スポーツの基本的な価値と意義を示し、賛美し、公正で有意義な競技を保証する。

(b) 陸上競技の本質を定義し、保護し、特に陸上競技でのパフォーマンス（記録を含む）は、テクノロジーではなく人間の優位性によって達成されることを示す。

(c) 参加者の健康と安全を守る。

1.1.2 WA は競技や競技規則はできる限り包括的なものであることが望ましいと考えるが、場合によっては、特定の競技者の資格要件にも影響を与える可能性があることを認識している。

1.1.3 WA はスポーツの基本的な性質、価値、意義を守るために必要な範囲で、身体的障がいのために機械的補助用具を使用する競技者に対して、対象競技会への参加を勧め、促進する。その際には競技会規則（CR）および競技規則（TR）で定められている公平で有意義な競技会の実現を図り（特に競技者への助力の禁止）、競技者の健康と安全を守る。

1.1.4 本規程で確立している機械的補助用具の使用許可（承認）および許可（承認）要件、手続きや条件は、陸上競技の公平性を保証することのみを意図している。そこには機械的補助用具を使用する競技者の尊厳に対するいかなる種類の攻撃といった意図は一切なく、競技者の尊厳とプライバシーを尊重し、守り、障がいを理由とする不適切な差別や汚名を着せることを避けるが最も重要なこととしている。本規程に関連して生じるあらゆる問題は、慎重に取り扱われるべきものであることを認識し、公正に、一貫性を持って、機密性の高い方法で処理および解決しなければならない。

1.2 本規程は 2022 年 3 月 25 日から発効するが、各案件の発生が本規程発効日の前後を問わず、いずれの場合も本規程が適用される。本規程は拘束力があり、競技者、加盟団体、エリア陸連、競技者代理人、加盟団体役員およびその他すべての該当者によって遵守されなければならない。本規程は関係する科学的、医学的、その他の進歩を考慮して定期的に見直され、WA によって随時修正される可能性がある。修正があれば、WA が修正を公表した際に指定する日付から効力を持つ。

1.3 本規程はグローバルに運用し、国際レベルの競技会への参加に関する規則を定めている。このため、国レベルや地域レベルの法令を参照することなく、独立かつ自律的した条文として、更には上述の本規程の意義を守り、推進するという意味で解釈され、適用される。

1.4 本規程で予見していない問題が生じた場合、WA は上述の本規程の意義を守り高めていくという考えで対処する。

2.本規程の適用

2.1 本規程は身体に障がいがある競技者が、対象競技会で機械的補助用具を使用することが許可（承認）されるための手続きを明確化するものである。

2.2 機械的補助用具を使用して対象競技会に参加することを希望する競技者は、参加条件として以下のことに同意する。

2.2.1 本規程を完全に遵守すること。

2.2.2 本規程に基づいて任命された 審査委員および機械的補助用具審査パネルに対して、迅速かつ誠実に協力すること。そこには以下の内容を含む。

(a) 規則を遵守していることの競技者自身による評価と、本規程で言及されている適格条件が継続的に遵守されていることをチェックするために、必要とされる全ての情報と証拠を両者に提供するこ

と。

(b)WA からの要請に基づいて、身体検査およびパフォーマンステスト、MASH 測定値の収集、本規程 4.2.2 および 5.2 に準拠するその他の調査に、完全かつ誠実に参加すること。

2.2.3 モナコ公国における個人情報保護およびその他の法令で求められる最大限の範囲で、本規程を効果的に実施し適用するために必要な情報（機密性の高い個人情報を含む）の収集、処理、開示および使用に同意すること。

2.2.4 本規程への異議申立および本規程に基づいてなされた決定に対して上訴する場合は、本規程 7 に定められた手続きに従うこと。本規程の定め準じていない裁判所やその他の法廷に訴訟を提起しないこと。

2.3 競技者は理由を明示するか否かを問わず、本規程 2.2 に従って行った同意をいつでも取消すことができる。その場合、競技者は本規程 3（3.2.2 を除く）での機械的補助用具の使用許可（承認）取得請求を取り下げたと見なされ、当該競技者が既に機械的補助用具の使用許可（承認）を受けていたとしても、本規程 4 に準拠した対象競技会では、その許可（承認）は自動的に取り消される。

2.4 本規程 5.8 に従って WA に情報提供を行うことにより、WA の管轄下におかれる全ての該当する個人及び団体（該当者）は、

2.4.1 本規程に拘束され、本規程を完全に遵守する必要がある。特に、正確で完全な情報を提供することが求められているので、悪意を持って、あるいは不適切な目的で情報提供を行わないことも含まれる。

2.4.2 本規程に基づいて任命された審査委員および機械的補助用具審査パネルに対して、迅速かつ誠実に協力しなければならない。

2.5 本規程の適用と実施において、各加盟団体は WA に協力し、WA を支援し、本規程 8 に定められた守秘義務を厳守しなければならない。

2.6 各加盟団体は、本規程が適用される競技会を除き、加盟団体独自の競技会では、機械的補助用具を使用して参加する競技者の適格性を判断するために、独自の規則を適用する権利がある。尚、誤解がないように付言すれば、国レベルの競技会で加盟団体による独自規則の適用有無は、機械的補助用具を使用する競技者の対象競技会（ワールドランキング対象競技会）の出場資格に、何ら影響をもたらさない。対象競技会の競技者の出場資格は、あくまでも本規程を参照することによってのみ決定される。

3.一般禁止事項および許可（承認）の要件

3.1 対象競技会で競技者が機械的補助用具を使用することは、以下の場合に限定される。

- (1)本規程 4 の手続きに従って、WA によって事前に使用が許可（承認）されている場合、または、
- (2)本規程 3.2.2 に従って、許可（承認）されている場合。

3.2 許可（承認）のある場合と許可（承認）のない場合

3.2.1 競技者が WA から機械的補助用具の使用を許可（承認）されている場合

- a. 競技者は対象競技会で機械的補助用具を使用して競技を行う資格がある。但し、常に本規程 5.2 に従い、本規程 4.3.2 および 3.5 の条件に従う。
- b. 競技会主催者は、障がいを持つ競技者の結果と他の競技者の結果を同一カテゴリーと一緒に表示する。該当する場合は、WPA クラス分け規則に従った競技者の競技クラスも表記する。当該競技者の記録は、WA の記録対象として有効なものとして扱われる。

3.2.2 競技者が申請手続きに従わなかった、本規程 2.3 により競技者が同意を取消した、競技者の申請が承認されなかったことにより、競技者が WA から機械的補助用具の使用を許可（承認）されていない場合

- a. 競技者は WAS 大会およびオリンピック競技大会の陸上競技種目を除く対象競技会で、機械的補助用具を使用して競技をする資格がある。但し、常に本規程 3.5 に従う。
- b. 競技会主催者は、障がいを持つ競技者の結果と他の競技者の結果を別のカテゴリーに分けて表示する。該当する場合は、WPA クラス分け規則に従った競技者の競技クラスも表記する。当該競技者の記録は、WA の記録対象として無効なものとして扱われる。

3.3 本規程 3.4 に従い、対象競技会で競技者が機械的補助用具を使用することを許可（承認）するかどうかを決める際、WA は以下の点を考慮する。

3.3.1 機械的補助用具の使用によって、競技者に総合的な競技上の優位性をもたらす可能性があると考えられるかどうか、下記(a)と(b)を比較する。

- (a)機械的補助用具を使用する競技者が、障がいを持っていることにより機械的補助用具を使用することで達成できるパフォーマンス と、
- (b)同じ競技者が、障がいを持っていないことによりその機械的補助用具を使用しないで同じ種目で達成できるであろうパフォーマンス。

機械的補助用具が競技者に総合的な競技上の優位性をもたらすと考えられる場合は、その使用を許可

(承認)しない。

3.3.2 「総合的な競争上の優位性」を考えるにあたっては、機械的補助用具が運動パフォーマンスに与える長所と短所を比較し検討する。機械的補助用具を使用する競技者が総合的な競技上の優位性を持つとは、機械的補助用具の使用を必要としない競技者が持たない(達成できない)優位性を持つということである。

3.3.3 WA が競技者に機械的補助用具の使用を許可(承認)しない場合、WA はその機械的補助用具を使用することが競技者に総合的な競技上の優位性を与えると証明する責任がある。その際には、優位性を比較考量することを基準とする。

3.4 WA が本規程 3.1 および 4 に従って行われた申請を検討する際には、以下の競技者は、機械的補助用具を使用しても総合的な競技上の優位性は得られないという推定がなされる利益を受ける。

3.4.1 両脚または両脚の一部を欠損していて、(WPA の適切な委員によって評価および決定された) MASH 以下で、競走種目や競歩種目や投てき種目で機械的補助用具の使用許可(承認)を申請する競技者。

3.4.2 片脚または片脚の一部を欠損していて、競走種目や競歩種目や投てき種目で、または三段跳以外の跳躍種目で機械的補助用具を使用しない(義肢を使用しない)方の脚で踏切を行う場合の、機械的補助用具の使用許可(承認)を申請する競技者。

3.4.3 片方または両方の腕、または両腕の一部を欠損していて、競走種目や競歩種目や跳躍種目で機械的補助用具の使用許可(承認)を申請する競技者。

3.4.4 片方の腕または片方の腕の一部を欠損していて、競走種目や競歩種目や跳躍種目で、または投てき種目で機械的補助用具を使用しない(義肢を使用しない)方の腕で投てきを行う場合の、機械的補助用具の使用許可(承認)を申請する競技者。

総合的な競技上の優位性は得られないという推定は、審査委員の持つ本規程 4.2.2 に定められている裁量や、5.2 で定められている何時でも追加調査ができる権限を制限するものではなく、WA による当該推定への反論(あるいは反論を試みる)ができなかったとしても、関連するいかなる場合においても、WA がその権利を放棄したことにはならない。

3.5 誤解がないように付言すれば、

3.5.1 競技者が本規程に定められた機械的補助用具の使用許可(承認)で課される義務、即ち、
(a) 機械的補助用具の使用有無にかかわらず、WA が定める規則に基づき、全ての競技者に適用される他の資格要件や、
(b) (該当する場合は) 関係する全期間を通して適用されなければならない、特定の競技会に適用される資格要件や申込基準、その他の要件
には、影響を与えない。

3.5.2 他の全ての規則および規程を遵守することを条件として、競技を行う際に機械的補助用具の使用する必要のない障がいのある競技者(例えば、聴覚障がいのある競技者や部分的に視覚障がいのある競技者)は、対象競技会に先立って本規程に基づいた申請を行う必要はない。障がいのある競技者が出場する場合、審判長は CR18.8 に定められている裁量を行使するかどうかを検討することができる。

4.使用許可(承認)の申請手順

4.1 許可申請(承認)

4.1.1 対象競技会で機械的補助用具の使用許可(承認)を得たいと考える競技者は、申請書と許可(承認)申請に関連する全ての根拠情報を記載した書類を審査委員に提出しなければならない。両下肢が欠損していて、競技を行うために2本の義足を使用する必要がある競技者が機械的補助用具の使用許可(承認)申請を行う際には、WA に申請書を提出する前に、該当する WPA パネルが MASH を評価し、決定している必要がある。誤解がないように付言すれば、こうした競技者は、その時点の WPA シーズンに適用される WPA の MASH 評価結果を証明資料として、申請書とともに WA に提出しなければならない。WPA クラス分けマスターリストからの抜粋は、証明書として認められる。

4.1.2 申請書は以下の必要書類を添付して提出しなければならない。

- (a) 競技者の障がいを示す証拠。
- (b) 使用許可(承認)を求める特定の機械的補助用具に関する情報(製造元とモデル、関連する設定状況と特注品で構成された部分を含む)。
- (c) 使用許可(承認)を求める該当種目情報。
- (d) 該当する場合、競技者の MASH および身体の測定値(WPA クラス分けパネルによって測定および計算された値)。
- (e) 該当する場合、機械的補助用具審査パネルでの検討内容に関連すると考えられる、機械的補助用具を使用する競技者に対して実施した生理学的パフォーマンスデータ、およびバイオメカニカルテスト

トのデータ（ならびに、そのデータの分析結果と専門家の意見）。

(f) 機械的補助用具審査パネルでの検討に関係すると競技者が考える、その他の証拠。

4.1.3 競技者には提供する情報が正確かつ完全であることを保証する責任があり、機械的補助用具審査パネルの個別評価に関係するもの全てを提出する。

4.1.4 該当する場合、当該競技者を担当する医師から審査委員および機械的補助用具審査パネルに対して、機械的補助用具審査パネルが評価に必要と考えるあらゆる情報を審査委員が満足する形で開示するよう、競技者は適切な同意と免責を与えなければならない。

4.1.5 本規程 4.3.4 に常に従い、用具の使用許可（承認）が適切な時期に得られるようにするために、競技者は参加希望の対象競技会の少なくとも 24 週間前に、申請書を審査委員に提出しなければならない。但し、実際には使用許可（承認）決定が簡単に行われ、決定までの時間がとても短い場合がある。その場合には、審査委員はこの申請期限と結果を示す期限を厳格に適用することはない。

競技者が特定の競技会に出場することを希望する場合、競技者はその競技会の資格規則をよく理解し、それらの規則に従って有効な資格記録が得られるよう、適切な時期まで用具の使用許可（承認）が下りるよう手続きを進めておく必要がある。（尚、使用許可（承認）が下りないこともあるので、本規程 7 による上訴申立に十分な時間が確保されているよう、手続きをすべきである）

4.2 WA による申請の確認と調査

4.2.1 審査委員は申請書を受取ったら申請書と添付文書を確認し、必要に応じ競技者および競技者代理人と連絡を取り、明らかな不備を是正するようを通知する。

4.2.2 申請内容に応じて、またはその独自の裁量により、審査委員は追加調査と問い合わせを行い、以下の追加の証拠（これらに限定されない）を収集することができる。

- a. WA の他の委員会、ワーキンググループおよび部門、または他の関係者との連絡、調整および助言を得ること。
- b. 特定の問題について独立した専門家から意見を得ること。
- c. 独立専門家にパフォーマンステストと分析を委託すること。
- d. 競技者から MASH の測定値（WPA クラス分けパネルによって測定および計算された値）を得ること。

4.2.3 審査委員が本規程 4.2.2 に従って裁量権を行使し、追加調査と問い合わせを行い、追加の証拠を収集したら、審査委員は機械的補助用具審査パネルに提出し、あわせて審査委員はそのコピーを競技者にも渡す。

- a. 許可（承認）申請に対する WA の勧告。
- b. 許可（承認）するにあたっての条件（例えば、「特定の種目でのみ使用を認める」「特定モデルのみ（特定ブランドのみ）使用を認める」「特定の機械的補助のみ使用を認める」）。
- c. 独立した専門家からの証拠等、信頼できる証拠。
- d. その他の報告書。
- e. 申請書および申請書に添付された全ての文書。

これらは申請書の受領後、合理的な範囲で可能な限り迅速に提出する。

WA は申請を合理的な範囲で可能な限り迅速に処理する必要があることを認識しているが、複雑な問題に関する完全で有効な調査と検討を行うことに妥協してはならない。

4.2.4 機械的補助用具審査パネルへの WA の勧告内容が、対象となる機械的補助用具の申請書通りの使用許可（承認）以外のことであった場合、競技者は WA の勧告を受取ってから通常 2 週間以内に、WA の勧告事項に関連するもの（当初の申請日時点では入手できなかった、新たな裏付けとなる証拠も含まれる）を審査委員に提出することができる。審査委員はその提出されたものを機械的補助用具審査パネルに提出する。

4.2.5 申請した競技者が本規程 4.2.4 に従って検討に値するものを提出した場合、WA は申請した競技者からの意見書を受取ってから通常 2 週間以内に、WA の勧告事項に関連するもの（当初の申請日時点では入手できなかった、新たな裏付けとなる証拠も含まれる）を機械的補助用具審査パネルに提出することができる。あわせて WA はそのコピーを競技者にも渡す。

4.3 機械的補助用具審査パネルによる申請に対する決定

4.3.1 本規程 4.2 で想定している最終勧告または提出物を受取ってから通常 2 週間以内に、機械的補助用具審査パネルは必要とする追加情報（機械的補助用具審査パネルが求める形式等による）を当事者に要求し、申請書について吟味し、WA と競技者に対して合理的な決定を下す。

4.3.2 機械的補助用具審査パネルが競技者による機械的補助用具の使用を許可（承認）する場合、条件を付す場合がある（例えば、「特定の機械的補助用具のみ使用を認める」「特定の種目（種目群）でのみ使用を認める」）。機械的補助用具審査パネルは、競技者による使用を許可（承認）した機械的補助用具の仕様（寸法、ブランド等）や、該当する場合は競技者の MASH、出場する競技会に競技者自

らが持参するといった条件を含む、承認内容が確認できる公式文書（証明書等）を発行することができる。

- 4.3.3 機械的補助用具審査パネルの決定は最終的なものであり、全ての関係者がその決定に拘束される。不服な場合は、本規程 7 に従って上訴によってのみ異議を申し立てることができる。
- 4.3.4 機械的補助用具審査パネルは申請された全ての事案について、合理的な範囲で可能な限り迅速に、理想としては本規程 4 に定められた期限内に評価を行う。但し、いかなる場合であっても（特に承認の検討が競技者による申請によるのか、WA による調査によるのかを問わず）、WA または機械的補助用具審査パネルのメンバーは、WA または機械的補助用具審査パネルが評価を完了するまでに要した期間の長さの結果として、競技者または他の誰かが被ったいかなる損害についても責任を負わない。
- 4.4 競技者または審査委員は、本規程 4 に定められた期限の延長を機械的補助用具審査パネルに対して請求することができる。これに対して、機械的補助用具審査パネルは独自の裁量により、期限延長の請求を認めたり拒否したりする。

5. 遵守状況（コンプライアンス）の監視／調査

- 5.1 審査委員は競技者の本規程の遵守状況を監視し、通知の有無や、無作為または指名による対象者決定方法を問わず、適切な手段によって競技者の使用する機械的補助用具の検査および評価をいつでも行うことができる。該当する場合、競技者の身長を測定し、MASH 以下で競技しているかについて検査および評価を行うことができる。競技者はこの目的のための全ての合理的な要求に同意すること。
- 5.2 審査委員（または審査委員から任命された者）は本規程 5.1 に加え、対象競技会で適切な資格を持ち承認された役員または審判長に対して、機械的補助用具の検査を行うように、該当する場合には、競技者の身長を測定し MASH 以下で競技しているかについて検査するように指示することができる。
- 5.3 本規程 4.3.2 に従い機械的補助用具審査パネルから使用許可（承認）証明書が発行された競技者は、審査委員または適切な資格を持ち承認された役員または審判長による検査のために、求めに応じていつでも提示できるように証明書を準備しておく必要がある。
- 5.4 競技者が本規程 5.2 による検査または計測で不合格になった場合、または本規程 5.3 による証明書の提示を行わなかった場合、対象競技会では機械的補助用具の使用は認められない。競技者は本規程 3.2.2 に従って対象競技会に限り出場することができるが、WAS 大会またはオリンピック競技大会では競技資格を有さない。
- 5.5 審査委員は本規程および機械的補助用具使用許可（承認）の条件が継続的に遵守されているかを監視する一般的な権限を持つことに加え、以下の点についていつでも調査することができる。
 - 5.5.1 対象競技会で 1 つまたは複数の機械的補助用具を使用している、または使用していると思われる競技者の、補助用具の使用許可（承認）の有無。
 - 5.5.2 以前から本規程によって、1 つまたは複数の機械的補助用具の使用許可（承認）を得ている競技者に対し、（その後の状況、学習、経験等での変化を理由として）更なる情報提供、独立した専門家による性能テストと分析ならびに、機械的補助用具審査パネルによる追加承認の必要性。
 - 5.5.3 本規程および許可（承認）条件に対する潜在的な違反を示す状況。
これらに該当する場合には、疑義のある競技者はその調査に完全かつ誠実に協力しなければならない。
- 5.6 競技会の公平性および完全性、または競技者の安全を確保するために必要な場合には、WA の代行者として行動する審査委員は暫定的に以下の点を停止（留保）することができる。
 - 5.6.1 当該競技者の WAS 大会やオリンピックへの出場。
 - 5.6.2 当該競技会での当該競技者の結果の扱い。
 - 5.6.3 疑義が解決するまで、当該競技者に対して以前に付与された許可（承認）。
但し、こうした場合には合理的に実行可能な限り迅速に調査を完了するために、あらゆる合理的な努力が払われる必要がある。こうした暫定的な停止（留保）または許可（承認）の停止に対しては、本規程 7.2.1 に従って上訴申立を行うことができる。
- 5.7 本規程 5.2 に基づいて調査を開始できるのは審査委員のみであり、誠意をもって合理的な理由からの調査のみを行う。例えば、競技者自身から、競技者が所属する加盟団体から、全国レベルの競技会または対象競技会の役員または審判長からの情報を調査する。
- 5.8 全ての個人の尊厳を尊重しなければならない。あらゆる形での虐待や嫌がらせは禁止される。以下に限定されないが、特に、
 - 5.8.1 本規程に基づいて検討を行うために審査委員に対して情報提供を行う該当者やその他の個人または団体は、次の厳格な義務を負う。
 - (a) 情報が正確かつ完全であることを保証する。
 - (b) 悪意を持っての情報提供、競技者への嫌がらせ行為、汚名を着せること、その他不適切な目的で名声を傷つけることはしない。

これらの情報は本規程 8 に従い、厳秘に取り扱われる。

- 5.8.2 障がいや理由として汚名を着せたり不適切な差別を行ったりすることは許されない。(これに限定されないが) 特に、競技者の外見や機械的補助用具の使用のみを理由とした迫害や宣伝活動は認められない。そうした行為は本規程の重大な違反と見なされる。
- 5.9 本規程 3.2.2 に基づく場合を除き、競技者が許可(承認)なしに、または許可(承認)条件を逸脱して機械的補助用具を使用し、対象競技会に出場したと判断される場合には、いつでも、取りうる可能性のあるその他の行為が妨げられることなく、審査委員は対象競技会で競技者を失格とすることができる。その競技会の結果に基づいて与えられるメダル、ランキングポイント、賞金、その他の報酬の没収を含む、全ての結果を無効とする。

6.懲戒手続

6.1 対象

- 6.1.1 競技者が WA の許可(承認)なく、1つまたは複数の機械的補助用具を使用して、対象競技会に出場した場合(本規程 3.2.2 に従っている場合を除く)。
- 6.1.2 WA が機械的補助用具を使用して対象競技会に出場することを承認していた競技者が、WA の使用許可(承認)条件を逸脱し、機械的補助用具を使用して対象競技会に出場した場合(本規程 3.2.2 に従っている場合を除く)。
- 6.1.3 WA から機械的補助用具を使用して対象競技会に出場することが承認され、その競技会への参加資格を放棄していない競技者が、本規程および使用許可(承認)条件が継続的に遵守されているかを判断する審査委員の努力に、完全にかつ誠実に協力しなかった場合。
- 6.1.4 該当者やその他の個人または団体が、競技者による本規程違反や不履行に加担した場合。
- 6.1.5 個人または団体が本規程 5.8 に違反した場合。
- 6.1.6 本規程に関して何らかの違反や不履行があった場合。
WA は該当者やその他の個人または団体による本規程に違反する可能性について、AIU(Athletics Integrity Unit)に付託することがある。該当者やその他の個人または団体による本規程違反の可能性は、インテグリティ行動規範(the Integrity Code of Conduct)違反に該当する可能性があり、AIU 報告・調査・訴追規則(非ドレーピング)に基づき、AIU による調査と起訴や懲罰裁定機関規則に基づく審理の対象となる場合がある。
- 6.2 本規程 6 に従って行われる懲戒手続において、本規程または本規程に基づいて下された決定に対し、競技者は異議申立を行うことはできない。その代わりに本規程 7 に従って、上訴申立または仲裁申立を行うことができる。
- 6.3 本規程 6 に基づく懲戒手続には、案件の状況に応じて課せられる可能性のある処分(制裁)として、以下のものがある(但し、これらに限定はされない)。
- 6.3.1 将来の行動に対する注意、訓告または警告。
- 6.3.2 対象競技会での失格処分。その競技会の結果に基づいて授与されるメダル、ランキングポイント、賞金、その他の報酬の没収を含む、全ての結果の無効。
- 6.3.3 対象競技会への一定期間の参加資格停止。
- 6.3.4 競技者に付与された機械的補助用具使用許可(承認)期間の撤回、一時停止、修正。
- 6.3.5 罰金。
- 6.3.6 違反が加盟団体のナショナルチームの 2 名以上が関係している場合、またはそうしたチームに係る違反が複数ある場合には、チームおよび加盟団体に対する相応の制裁(例:チームの失格処分、将来の対象競技会への参加資格の一定期間停止、罰金)。

7.紛争の解決

- 7.1 本規程の有効性に関する異議は、CAS(スポーツ仲裁裁判所)に対する通常の申立手続きによって、あるいは本規程 7.2 に従って CAS 対して行われる上訴の一部としてのみ行うことができる。
- 7.2 本規程に基づいて下された以下の決定(以下に限る)に関しては、本規程 7 に従って CAS に仲裁申立を行うことができる。
- 7.2.1 競技会への競技者の出場を暫定的に停止する、あるいは本規程 5.6 により競技者に以前に与えた許可(承認)を停止とする審査委員の決定に対して、競技者は上訴することができる。その場合、WA が相手方となる。
- 7.2.2 競技者が機械的補助用具を使用して対象競技会に出場できないとする機械的補助用具審査パネルの決定に対して、競技者は上訴申立を行うことができる。その場合、WA が相手方となる。
- 7.2.3 競技者が機械的補助用具を使用して対象競技会に出場できるとする機械的補助用具審査パネルの決定に対して、WA は上訴申立を行うことができる。その場合、競技者が相手方となる。
- 7.3 こうした異議申立または仲裁申立は英語で行われ、WA 憲章、規則や規程(特に本規程)に準拠しモナコ

公国の法律が補助的に適用される。

これらの WA 規程等とスポーツ仲裁関連 CAS 規則 (the CAS Code of Sports-Related Arbitration) 間で矛盾がある場合は、WA 規程等が優先する。

CAS はスポーツ仲裁関連 CAS 規則に従って、異議申立や仲裁申立の内容について審問し、最終的に決定を下す。

申立を行ったものは上訴陳述書 (Statement of Appeal) から 15 日以内に上訴趣意書 (Appeal Brief) を提出する必要がある、相手方は上訴趣意書を受取ってから 30 日以内に答弁書を提出する必要がある。

CAS による決定が出るまでは、CAS が特段の命令をしない限り、異議対象となっている規則または仲裁申立の対象となっている決定は、引続き完全な効力を持つ。

- 7.4 CAS の決定は最終的なものであり、その決定は全ての当事者を拘束する。スイス連邦国国際私法 (the Swiss Federal Code on Private International Law) 第 12 条で規定されている場合を除き、いかなる理由であっても、当該決定に対する上訴やその他の異議申立を行う権利はない。

8. 守秘義務

- 8.1 本規程に関して生じる全ての案件、特に本規程に基づいて WA に提供される競技者の全情報、実施された検査結果と評価については、常に厳重に取り扱われる。

競技者に関する全医学的情報とデータは機密性の高い個人情報として取り扱われ、審査委員は常に、適用されるデータ保護およびプライバシー保護に関する法令に従って処理されることを保証する。

こうした情報は本規程にかかる目的以外で使用するのではなく、以下を除いて第三者に開示されることはない。

(a) 本規程を効果的に適用し施行するにあたり真に開示が必要とされる場合。

(b) 法令によって開示が義務付けられている場合。

- 8.2 WA は関連する一般的な手続き内容や科学的な内容の説明を別とすれば、係争中の特定事案について公式コメントはしない。但し、競技者または競技者代理人の公式コメントへの回答は除く。

- 8.3 機械的補助用具審査パネルの各委員は、パネルの委員としての作業に関連し、適切な利益相反申告書と秘密保持契約書に署名しなければならない。

9. 費用

- 9.1 WA が実施する調査とテストの費用および、WA の要請により独立した専門家が行うテストに参加する競技者の本規程を適用し遵守させるために必要な費用は (WA が必要とするテストや分析に参加する競技者の関係者または代表者の旅費および宿泊費を含む)、合意された合理的旅費および宿泊費を除き、関連する競技者が負担する。

- 9.2 機械的補助用具審査パネルの設置に伴う経常費用は WA が負担する。

10. 責任制限

- 10.1 いかなる状況においても、WA、機械的補助用具審査パネル委員、WA スタッフ、役員、代表者あるいは本規程の管理に関与するその他の者は、本規程に関連して誠実に行われる行為、あるいは行われない行為に関して、いかなる責任も負わないものとする。

派遣報告書（アジア U18 選手権大会）

下記の大会に派遣されましたので、報告いたします。

1. 大会名 第4回アジア U18 選手権大会(10/13~16)
2. 派遣期間 2022年10月11日(火)~18日(火)
3. 派遣場所 クウェート
4. 報告内容



10/11 22:30 成田 (EK319) → 4:50 ドバイ

10/12 7:00 ドバイ (FZ0053) → 7:45 クウェート

10/12 10:00 テクニカルミーティング

・欠場届の提出、欠場届を提出しなかった際の扱いについて

・ Final Confirmation の代わりに欠場届を使用する説明

・ 競技日程

・ アスリートビブスなど配布物の確認

・ Vertical Jump の最初の高さ及びバーの上げ方

・ 三段跳の踏切板の位置などが討議された。

Starting heights and the raising of the bar

High Jump	Men	1.70, 1.80, 1.85, 1.89, 1.93 1.95, 1.97 +2cm
	Women	1.35, 1.45, 1.50, 1.55, 1.60, 1.65, 1.69, 1.73 1.75 +2cm
Pole Vault	Men	3.70, 3.90, 4.00, 4.10, 4.20, 4.30, 4.35 +5cm
	Women	3.00, 3.20, 3.30, 3.40, 3.45, 3.50 +5cm
Decathlon	High Jump	1.60 +3cm
	Pole Vault	2.50 +10cm
Heptathlon	High Jump	1.20 +3cm



16:00 競技場視察

投てき物のチェックと FOP の視察の 2 チームに分かれて作業を行った。

用器具庫で使用予定の投てき物の規格をチェックし、検査後の投てき物として検査済みシールが張られた。(写真の丸いマークが WA 認証マーク、四角の小さいシールに ITO のサインが書いてあり点検済みという意味になっている)

FOP の点検では、投てきサークル、囲いの点検・走幅跳の着地場所、助走路、踏切板の点

検・棒高跳、走高跳のピットの点検、その他使用する器具の点検を実施した。やり投や走高跳で縁石を外すことあるため、あらかじめコーンの準備もお願いした。

競技場内のマーキングやハードルなどの点検も行った。ハードルが曲がったりしているものは交換あるいは修理をお願いした。

10/13 大会第1日目(AM)



5000 m W (Girls)

他の競歩種目がエントリー数が少なかったため、I RWJの派遣が2名となり、その補助を行った。選手は2名が参加し、集計表の作成を行った。

10/13 大会第1日目(PM)

High Jump Dec

10種の走高跳を担当、現場で試技時間や高さの確認などを慎重に行いながら、競技を実施した。地元審判員には単独種目と混成種目の試技時間の違いを意識しておらず、何回か質問を受けたが、ルールブックを参照しながら丁寧に説明した。

終盤、選手から休憩時間が欲しいとか自分の指定する高さで跳びたいなどの要望が来たが、すべてルールでできないことになっていると説明し、競技を続けた。

競技終了後、次の400mまで30分取れないことからTDに相談し、400mの開始時刻を変更した。混成審判長がいれば混成審判長にお願いしたいところだが、この競技会には配置されていなかった。



10/14 大会第2日目(AM)

Discus Throw Dec

10種円盤投 光波計測、記録表示を1人の業者が担当、地元審判員も記録を書き取り、最後に照らし合わせ、最終的に本部に報告という形式をとっていた。

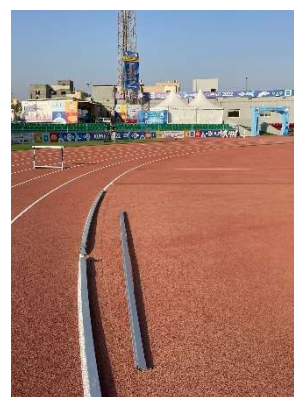
Discus Throw Girls

午前中の暑い時間帯での競技となった。TDと確認を取り、選手の準備ができ同意が取れたので、10分ほど前倒しで競技開始となった。

その他特になし。

10/14 大会第2日目(PM)

400m Girls Final B2



400m Boys Final B2

110m H Boys Final Rws 1-5

100m H Girls Final Rws 1-5

1500m Dec B2

トラック競技で監察員を補助した。400m Boys Final B2 で2レーンの選手が第2曲走路で内側のラインを踏み越して50mほど走行した。監察員が黄旗を上げたが、通信方法が確立しておらず、トラック審判長に連絡するのに時間がかかった。また、報告書がアラビア語で記述されたため、審判長（ITO）も内容を理解できなかった。ただし、審判長もこの選手が第1曲走路で内側のラインを踏み越えて走行したのを確認していたため、問題にならなかった。

10/15 大会第3日目（AM）

業務担当なし

10/15 大会第3日目（PM）

Triple Jump Girls

三段跳のピットが1ピットしかないこと、選手層の幅が広く、資格記録が10m～14mと幅が広がったため、踏切板を9mと11mを併用しながら実施することとなった。9名が参加で2名が9mの踏切板、7名が11mの踏切板を使用したいと事前申告があった。



競技開始前に1名の選手から11m→9mの踏切板に変更したいと申し出があったが、すでに踏切板の使用申請に基づき試技順を変えていたことから申請通りの踏切板で跳ぶよう指示した。練習の様子を見ていても危険な状況は生まれないと判断し、競技を続行した。

計測は当初、11mからの跳躍は光波計測器、9mからの跳躍はメジャーでとTDから指示が出ていたが、光波計測器とデータ処理をうまく組み合わせ、データから2m引くことで9mからの跳躍も処理できると業者から提案があり、TDが了承し、その方法で計測された。



10/16 大会第4日目（AM）

Javelin Hep

7種やり投

競技前、混成のやり投はやりが先端部分から落下することが多くはないので、落下地点でしっかりとやりの落下位置を確認してほしいことを伝えた。実際、落下が先端部分からでなく、無効試技になる投てきが続出した。

10/16 大会第4日目 (PM)

Pole Vault Girls

棒高跳

試技時間や高さを入念にチェックしながら競技を進行した。

特に大きな問題はなし。

全体を通して

ITO が7人参加した大会だった。この競技会のことだけでなくそれぞれが持つ様々な大会での経験が情報交換できた。

例えば、香港でも日本の JTO に似た制度があり大規模大会では一定の水準で競技会ができるよう工夫していることとか、ヨーロッパの大会での「競技者としてあるまじき行為」に該当する項目で、ユニホームを脱いだり、破いたりする事例とその対処方法。基本的にはケースバイケースの対応となるが、基本的にダメなものはダメと毅然とした対応が求められること。例として、父親が亡くなってすぐのすぐの大会で優勝し、表彰台上った選手がユニホームを脱いだ、ユニホームの下に着ていたのは亡き父親の肖像画が描かれていた T シャツだった。事情が分かっている審判員なら理解できるがそうでない人から見れば禁止されている宗教的な活動・政治的な活動と思われかねない行為として注意した事例やジュニアの大会でスタート時のピク付きで1回目のイエローカード、フィニッシュ後同じチームの第4走が優勝して興奮し、バトンを放り投げて2回目のイエローカードで失格→除外となった事例などが雑談の中で協議でき、有意義な体験となりました。

派遣されたことに感謝します。

31st Sea Games 派遣報告書

派遣期間：2022年5月12日(木)～5月20日(金)

派遣先：ベトナム・ハノイ

上記大会に ITO として派遣されましたので、以下の通り報告いたします。

5/12 成田空港 (9:30) →ハノイ・ベトナム (13:20)

Vietjet という LCC 航空会社で移動しました。飛行時間 5 時間 30 分でした。LCC ということもあり、食事もドリンク、エンターテイメントの提供もなくひたすら到着を待っていました。到着後、大会のデスクを探しホテルまでの送迎を依頼しました。1 時間程度待ったのち、ホテルへ移動。AD カードユニホームの支給は明日(5/13)になるとの連絡を受け、到着後少しして PCR 検査を受検し、大会開催に備えました。

5/13

朝、インフォメーションボードを見ると AD カードユニホームの支給は本日 13:00 からで、14:00 からスタジアムに移動するので、集合するよう指示がありました。

スタジアムでは全体でのミーティングの後、部署別のレクチャーなどが行われていました。

- ① SIS の操作説明、スタートチームの役割
- ② TIC の機能や役割
- ③ 招集の手順確認 などが行われていました。

5/14 (大会第 1 日目)

Morning Session



ハンマー投げ会場設営

・囲いは規格通りのものではなく、少し小さめだった。補助パネルを出す位置を決めてマーキングをして、同じように移動できるよう準備したが、全員右利きだったため徒労に終わった。

・競技開始前に EDM のチェックを実施→問題なし

・投てき物の確認→女子のハンマー投げから

だったが、男子の規格のハンマーが置いてあったので、女子の規格のものに変え、弦の長さなど確認した。また、アジア記録等が出ることに備え、投てき物に番号をつけ管理した。

200m 予選曲走路での監視も行った。

Evening Session

主にトラックレースで曲走路の監視に当たった。

5/15 (大会第2日目)

・トラック審判長として任務に就くことになった。

・ゼロコントロールテストの実施

・トラック全体の状況の確認

・縁石を外した場所でのコーンの設置状況などを確認し、競技開始を待った。

・トラックレースの役割分担として①トラック審判長②スタート審判長③インターナショナルスターター④第1曲走路監視⑤第2曲走路監視⑥フィニッシュ直線走路の監視など役割分担して競技を監視し、トラック審判長にすべての情報を集約しながら競技を進行した。

・3000mSCの大障害の置き方について地元審判に誤解があったようで、ルールブックを使って説明をおこなった。大障害の上の部分の端が縁石の上に来ていればいいと思っていたらしく、ルールブックを使って大障害の足を縁石につけて内側に30cmほど入ることを説明し、理解してもらい、すべての大障害が同じようにおけるよう指示していただいた。

・3000mSCも5000mも周回遅れがたくさん出ることもなく、終了した。

・周回記録も4人の女性の担当、周回板に1人それを主任が監督するという形で整然と審判業務が行われていた。

5/16(大会第3日目)



ハードルが旧タイプのもので高さを調整した後、おもりを動かすタイプのもので確認するのに時間がかかりました。

800m女子決勝でフィニッシュ直前で1人倒れましたが、特に押された状況もなく、確認できたので、レース成立としました。抗議もなく、終了しました。

5/17(大会第4日目)

400H男女決勝では抜き足の高さに注意するようITOや地元の審判員に注意喚起した。幸いにそのような事例は見受けられなかった。

女子7種競技の最終種目を15分ほど早めて実施した。選手や審判員には特に問題はなかったが、メディアに連絡がいかず、優勝戦選手のインタビュー等に影響が出てしまった。

5/18(大会第5日目)



午前中はセッションがなく、夕方から競技開始。

10000m で周回のカウントミス。3 位に入賞した選手が1 周多く走り、4 位に判定された。該当国からすぐさま抗議があがり、対応した。順位の訂正と記録の訂正を依頼。



もう一件抗議が上がった。2 位に入賞したベトナムの選手が認可されていないシューズを着用して走ったとの抗議。該当選手を呼び、シューズの確認を行おうとしたが、ベトナムには計測する機器がないとのこと。リストで確認したところ、確かに認可されていなかった。TD

と相談のうえ、WA のシューズ担当者に問い合わせることとし、25mm 以上の厚さが確認された場合は DQ の判定をする事で決着がついた。

5/19(大会第 6 日目)

5:00～ マラソン

6:10～ 20km 競歩



会場を別々に行われた。給水と周回のチェックを競歩会場で行った。特に問題なし。

5/20

0:30 ベトナム・ハノイから成田空港へ移動。7:30 頃成田空港着。

成田空港で PCR 検査実施、到着後 2 時間半で陰性が確認され、無事に隔離期間なしで解放された。





**4TH Asian U18 Athletics Championships
13-16/2022**

KUWAIT



Team Manual

Contents

General Information

1. Organization
2. AAA Council Member/AAA Delegates
3. LOC
4. Schedule
5. Information about Kuwait
16. Medal Ceremony
17. Implements
18. Marker
19. Competition Procedure

Team service and Accreditation

1. Arrival
2. Accreditation
3. Accommodation
4. Transportation

Competition Information

1. Competition Management
2. Technical Officials
3. Dates
4. Competition Venue
5. Competition Events
6. Competition Schedule
7. Eligibility
8. Entries
9. Stadium Tour
10. Starter's Session
11. Technical Meeting
12. Athletes' Bibs
13. Team uniform
14. Spikes
15. TIC (Stadium)/ CID (Hotel)

Sporting Facilities

1. Stadium (Team Seats)
2. Coaches' Seats (Field Events)
3. Combined Events
4. Warm Up Area
5. Training Venue
6. Medical Service
7. Physiotherapy
8. Distribution of ice

Doping Control

Insurance

Agreement of Team Manual

Others (Appendix)

- Competition Schedule
- Implements List
- Maps

1. General

1.1 Organization

◆ WA

President: Lord Sebastian Coe

Address: 6 Quai Antoine 1er BP359 - MC 98007 Monaco

TEL: (377) 92 05 70 68

FAX : (377) 92 05 70 69

Web: <https://worldathletics.org>

◆ AAA

President: General Dahlan Al Hamad

Secretary General: A Shuggumarran

Address: 134 TUSC, Chiangrak Rd, Klongluang, Pathumthani

12121, THAILAND

Web: <http://athleticsasia.org/>

Mail : sec@asianathleticsassociation.org

◆ KAF

President: Sayar S. AL ANEZI

General Secretary : Dr. Manea Al Ajmi

Address : Fahad Barrak Al-Subaih Street,

Block 1 Kaifan stadium, KUWAIT

TEL : +965 248 37676 / +965 6691 6660 FAX : +965 24849535

Web : <http://www.kuwaf.org/site/en/> Mail : kuw@mf.worldathletics.org

1.2 AAA Council Members & AAA Delegates

Council Members

President	GEN. DAHLAN JAMAN B AL-HAMAD (QAT)
Senior Vice President	GEN. SURAPONG ARIYAMONGKOL (THA)
Vice President	MS WANG NAN (CHN) MR HIROSHI YOKOKAWA (JPN) MR MOHAMMAD JUMAH (KUW) GEN. (R) MUHAMMAD AKRAM SAHI (PAK) MR ANDREY ABDUVALIEV (UZB)
Secretary General	MR A SHUGGUMARRAN (SGP)
Individual Members	MR KWAN KEE (HKG) MR CHING CHENG WANG (TPE) MR TIGOR M. TANJUNG (INA) MR ROLAND SAADE (LBN) MR KARIM BIN IBRAHIM (MAS) MR TSEWANG RINZING (BHU) MR SHAGEA MOHAMMED AL-MAQDASHI (YEM) MAJ (R) MD TALIP MD TAHIR (BRU)
Women Members	MS STEPANISHEVA TATYANA (TKM) MS MALA SAKONHNINHOM (LAO) MS FILOMENA BARROS DOS REIS (TLS)

[AAA Delegates)

ORGANISATIONAL DELEGATE		MR.KWAN KEE (HKG)
TECHNICAL DELEGATES	1)	MR YUKIO SEKI (JPN)
	2)	MR JESUS TUBOG (PHI)
MEDICAL/DOPING DELEGATE	1)	DR SEYED ASHKAN ORDIBEHESHT (IRI)
DOPING CONTROL DELEGATE	2)	DR YEUNG SAI MO, SIMON (HKG)
JURY MEMBERS	1)	GEN.SURAPONG ARIYAMONGKOL (THA)
	2)	GEN. MUHAMMAD AKRAM SAHI (PAK)
	3)	MR C.K. VALSON (IND)

INTERNATIONAL TECHNICAL OFFICIALS (ITOs)

- 1) MR CHAN MAN HAU (HKG)
- 2) MR DWI PRIYONO (INA)
- 3) MR SEKINE HARUYUKI (JPN)
- 4) MR KOO BON CHIL (KOR)
- 5) MR SUPPIAH CHINATAMY(MAS)
- 6) MS OBIENA MA JEANETTE (PHI)
- 7) MR ABDUL HAKEEM AL-AMERI (QAT) CHIEF
- 8) MR VADIM NIGMATOV (TJK)

INTERNATIONAL WALK JUDGE (IWJs)

- 1) MS YEUNG MAN CHUN (HKG)
- 2) MR SARDJITO (INA) CHIEF
- 3) MR TOMOYA ISHII (JPN)
- 4) MR CHUNG YOUNGHOON (KOR)
- 5) MR HAMAD ABDULLAH A.AL-HINIW (KSA)
- 6) MR SINNAPPAN GOVINDARAJU (SGP)

INTERNATIONAL PHOTO FINISH JUDGE

- 1) MS NONGLUX PORNSIRISUTHANONT (THA)

INTERNATIONAL STARTER

- 1) MS MYLVAGANAM JAYALAXMI (SGP)

MEDIA PERSON

- 1) MR KARABALIN SUNKAR BOLATOVICH (KAZ)

INTERNATIONAL PHOTOGRAPHER

- 1) MR EDWIN KOO KAH HENG (SGP)

1.3 Schedule

Oct 11 th			Arrival of Teams	
Oct 11 th		18:00	Deadline for submitting Questions for the Technical Meeting	Hotel CID
Oct 12 th		10:00	Technical Meeting	Hotel
Oct 12 th		11:30	Stadium Tour	Conference hall, Stadium
Oct 12 th		14:00~16:00	Practice with Official Starter	Main Stadium
Oct 12 TH		19:00 (tbc)	AAA Dinner (by invitation only)	
Oct 13 th		14:30	Opening Ceremony (14:00 Pre-Event)	
		18:00	Final Banquet / Closing Ceremony	
Oct 17 th			Departure of Teams	

1.4 Information about Kuwait

1.4.1 Local Time

Kuwait is 3 hours ahead of the Greenwich Mean Time (GMT)

1.4.2 Currency: Kuwait currency is Kuwaiti Dinar

1KD : 3.30USD

Currency exchange services are available at the airport and banks (Please check the opening hours).

1.4.3 Tipping

Not required in Kuwait.

1.4.4 Drinking water

Tap water is not safe to drink in Kuwait.

1.4.5 Electricity

In Kuwait the power plugs and sockets are of type C and G. The standard voltage is 240 V and the standard frequency is 50 Hz.

In Kuwait the power plugs and sockets are of type C and G. Check out the following pictures.

- Type C: also known as the standard "Euro" plug. This socket also works with plug E and plug F.
- Type G: this type is of British origin. This socket only works with plug G.



Type C: This socket also works with plug E and F



Type G: This socket has no alternative plugs

1.4.6 Climate

The weather in Kuwait is comfortable with average temperature fluctuating between 19.9°C (67.8°F) and 14.7°C (58.5°F).

1.5 Information about Kuwait Prefecture

Kuwait, country of the Arabian Peninsula located in the northwestern corner of the Persian Gulf. Kuwait is one of the smallest countries in the world in terms of land area but they are in the top-10 of the wealthiest countries in the world (per capit

2.Team Service and Accreditation

2.1 Visa Information

The Organizer will issue Visa for all Participating countries. The Team are requested to submit their passport well in advance to avoid delay.

2.2 Arrival

2.2.1 Welcome Service at the Airport

The LOC will extend you a warm welcome at Kuwait International Airport, with staffs holding the Championships' signboard. Transportation from the airport to the Hotels will be provided without any delay.

2.2.2 Volunteer

There will be no team attaches, however, volunteers will be assigned at hotels, stadium, airport. and other necessary places to assist you.

2.3 Accreditation

Accreditation card will be prepared for security reason, and you are requested to wear the AD card at all times. **AD cards will be Issued upon arrival at the Hotel. In order to receive the AD cards and hotel keys, the team leader must settle all extra costs, and there will be NO exception to this rule.**

For access to some areas, special passes are needed together with personal accreditation, and this will be explained at the Technical Meeting. **Two TIC** passes will be given to each team.

2.4 Accommodation

2.4.1 Headquarters Hotel Crown Plaza will be AAA Officials Hotel

2.4.2 Athletes' Hotel

After we close the final entry, we will assign each team to one of the following hotels.

1. Hotel Courtyard
2. Hotel Residence inn
3. Millennium Central
4. Panorama
5. Ibis
6. Swiss Belinn Bneld Alger
7. Swiss Belinn sharq
8. Alhamra Sharq

2.4.3 Accommodation Payments

For each team, full-board accommodation (with twin sharing basis and 3 meals for officials and athletes within the number of quotas will be paid by the LOC during the specified period. The official period will be for arrival on October 11th and on Depart on 17th October 2022 **Accommodation costs for officials and athletes outside of quota, for single room occupancy, and for stays outside the above specified periods, are at the charges of each Member Federation.** A team leader will be accommodated in a single room except in special circumstances where number of single rooms are restricted. Other team officials will be accommodated on twin-sharing basis. For additional persons

or extra days, please refer to the following for the charges per person including 3 meals per day.

Please note that the Accommodation Invoice for Teams will be based on the information submitted on the Final Entry Forms. When your federation receives the invoice, you are requested to settle the amount by credit card by informing us of your credit card information or by making remittance to the bank account. The account details for wiring the cost will be attached to the invoice. **NO cancellation of rooms will be accepted after 25th September 2022 and it will be subject to 100% cancellation charge. Cancellation of rooms within the Quota is liable to 100% cancellation charge as well, and each ME must pay the cost.**

■ Additional cost for all Hotels are as follows:

Single Room including 3 meals	USD 145/per room
Twin Room including 3 meals	USD 180/per room

■ Check in/out time for all Hotels

Check in time 1400hrs and checkout time 1100hrs.

If you need to use the rooms before the check-in time or after the check-out time, you must contact the LOC at kuw@mf.worldathletics.org in advance to make reservation for extra hours at your own cost.

2.4.4 Meals

Restaurants will be set up at each hotel and will be admitted to these restaurants by presenting AD cards. The opening hours for the restaurants will be adjusted in accordance with competition schedule and will be posted at the CID of each hotel.

In consideration of religious and cultural dietary prohibitions and differing individual nutritional policies, meals will be served in buffet style, and menu cards displaying main ingredients will be provided for each menu.

2.4.5 Internet

Internet access will be available at the Stadium's Team Area and in all hotel rooms free of charge.

2.4.6 Meeting Room

A reservation for a Meeting Room can be arranged at the CID, but the cost must be borne by each team. Availability of the room depends on the situation of the hotel and is not always guaranteed.

2.4.7 Religious Services

There is religious service room available in the hotel and stadium.

2.5 Transportation

Transportation between Kuwait International Airport and each hotel will be provided. During the Championships, shuttle bus services will be provided between each hotel and the Stadium. The bus schedule will be displayed at the CID of each hotel. AD card will be required to use the bus services.

3. Competition Information

3.1 Competition Management

KAF shall be responsible for the organization and management of the athletics competition under the guidance of AAA. The athletics competition shall be held in accordance with the current WA Rules. In case of disagreement over the interpretation of the Rules, the English text shall prevail. Any unforeseen incidents not covered by the Rules shall be resolved by Technical Delegates in accordance with the AAA Constitution and the Rules of the WA.

3.2 Technical Officials

The Championships shall be conducted by KAF accredited Technical Officials. The AAA shall appoint International Technical Officials (ITOs) for the management of this athletics competition.

3.3 Dates

The 4th Asian Youth Athletics Championships shall take place from October 13th to 16th October 2022.

3.4 Competition Venue

The venue of the competition will be Ahmed Al Rashdan Track & Field Stadium. The stadium has WA Class 2 Certificate with eight-lane synthetic track.

3.5 Competition Events

There are 40 events, including 20 boy's and 20 girl's events. The events are as follow

EVENTS FOR BOYS (20)	EVENTS FOR GIRLS (20)
<p>↔ Track Events: 11</p> <p>100m</p> <p>200m</p> <p>400m</p> <p>800m</p> <p>1500m</p> <p>3000m</p> <p>110m Hurdles</p> <p>400m Hurdles</p> <p>2000m Steeplechase</p> <p>10000m Walk</p> <p>Medley Relay</p> <p>↔ Jumping Events: 4</p> <p>High Jump</p> <p>Pole Vault</p> <p>Long Jump</p> <p>Triple Jump</p> <p>•!• Throwing Events: 4</p> <p>Shot Put</p> <p>Discus Throw</p> <p>Hammer Throw</p> <p>Javelin Throw</p> <p>•!• Combined Events:1</p> <p>Decathlon</p>	<p>↔ Track Events: 11</p> <p>100m</p> <p>200m</p> <p>400m</p> <p>800m</p> <p>1500m</p> <p>3000m</p> <p>100m Hurdles</p> <p>400m Hurdles</p> <p>2000m Steeplechase</p> <p>5000m Walk</p> <p>Medley Relay</p> <p>•!• Jumping Events: 4</p> <p>High Jump</p> <p>Pole Vault</p> <p>Long Jump</p> <p>Triple Jump</p> <p>↔ Throwing Events:4</p> <p>Shot Put</p> <p>Discus Throw</p> <p>Hammer Throw</p> <p>Javelin Throw</p> <p>•!• Combined Events:1</p> <p>Heptathlon</p>

3.6 The Competition Schedule

The competition schedule is attached in the Appendix.

However, this schedule is subject to change depending on the final number of participating athletes. Updated competition schedule will be delivered at the Technical Meeting on 12th October 2022 at 10:00hrs. Final competition schedule is to be confirmed each day by Technical Delegates after final confirmation.

3.7 Eligibility

3.7.1 Eligibility

Only competitors whose countries and regions are members of the AAA and complying with the Constitution and Rules of the AAA are entitled to participate.

3.7.2 Individual events

Each AAA Member Federation may enter 2 competitors for each individual event.

However, the Host Country may enter three (3) competitors for each individual event.

3.7.3 The maximum number of events that an athlete can compete in is two individual events

plus the Relay. If the two individual events are Track Events, only one of these

two individual races may be longer than 200m.

3.7.4 Relay events

Each team may enter maximum of 6 athletes for each relay event. Any four athletes from among those entered for the competition, whether for that relay or any other event, may be used in the composition of the relay team for any round. However, once a relay team has started in a competition, only four additional athletes may be used as substitutes in the composition of the team. If a team does not follow this Rule, it shall be disqualified.

3.8 Entries

3.8.1 Preliminary Entry and Final Entry

The deadline for sending the Preliminary Entry Form was September 2nd, 2022, and the Final Entry Form was by September 22nd, 2022. After the final entry deadline, there shall be no additions or changes of events between the athletes already entered.

3.8.2 Final confirmation form

Official representatives of each team must submit final confirmation of athlete's entries at the Technical Meeting to be held on October 12th at the Stadium conference hall at 10:00am for the first day events, and subsequently by not later than 9:00 am on the day prior to the 2nd, 3rd, and 4th day of the competition. Final confirmation forms can be submitted all together at once ie for all competition days, or for one day at a time as above at the Hotel CID or Stadium TIC. The composition and order of a relay team must be officially declared at Stadium TIC no later than 1 hour before the published Call Time.

3.8.3 Failure to Participate

Any athlete who, after the Final Confirmation has been submitted, or after qualifying during a qualifying round or a heat for any event, fails to participate in the event without giving a valid reason (e.g. a medical certificate provided by and based on an examination of the athlete by the Medical Delegate appointed under Rule 113), shall be excluded from participation in all further events in the competition, including Relays (see WA Rule 142.4).

3.8.4 Withdrawals

Withdrawals after Final Confirmation have to be submitted on the official Withdrawal Form to the TIC. If the athlete is entered in another discipline (including relays) of the Championships, the reason for the withdrawal has to be specified in detail, confirmed by the Medical Delegate, being its acceptance, the responsibility of the Technical Delegates based on the WA Rules.

3.9 Stadium Tour

The tour of the stadium will be conducted for the team representatives on 12th October 2022 at 11:30hrs after the Technical Meeting.

3.10 Starter's Session

Practice session with the starters will take place on 12th October 2022 from 14:00hrs to 16:00hrs at the Main Stadium.

3.11 Technical Meeting

Technical Meeting will be held on 12th October 2022 from 10:00hrs at the Stadium Conference Hall. A maximum of 2 official representatives from each team may attend. All questions and proposals concerning the Championships must be made before hand on the form provided. This form must be returned to the Hotel CID by no later than 18:00hrs on 11th October 2022. Technical Delegates will answer only questions submitted in advance. The starting heights and the raising of the bar in the high jump and pole vault, including for boy's decathlon and girl's heptathlon, will be decided by the Technical Delegates and announced at the Technical Meeting.

3.12 Athletes' bibs

The bibs will be distributed at the Technical Meeting. Each athlete will receive 2 bibs with safety pins. For jumping events, only one bib may be worn on either the chest or the back. Athletes taking part in the track events will also be given 2 adhesive hip numbers in the Call Room. Athletes taking part in the relay events will wear the bib on their back and the country code on their chest. Bibs with country codes will be distributed at the Technical Meeting. Bibs must not be folded or cut in any way.

3.13 Team uniform

Each team must present their team's uniform (running singlet/ pants) in all its variations to CID to be photographed. Competitors are required to wear the registered uniform, and it must conform to the WA Competition Rules and Advertising Regulations. Only the officially registered team uniform will be approved for use when competing in the competition. Medal ceremonies are considered as part of the competition.

WA Rule 5.1 will be strictly applied. Please make sure to follow the WA Advertising Regulations in force. Clothing and items not conforming to this rule and the current WA Advertising Regulations will be removed/taped at the Call Room.

3.14 Athlete's Shoes

Rule 5 of the Technical Rules applies to all competition shoes and wearing non-approved shoes may lead to competition results not being valid (i.e' UNC TR5.5 Uncertified'). Athletes and Member Federations can check the status of their competition shoe on the approved list published on the World Athletics website (<https://www.worldathletics.org/about-iaaf/documents/technical-information>).

3.15 TIC (Stadium) / CID (Hotel)

Information for each team will be available at the Technical Information Center (TIC) located at the Stadium and/or at the Competition Information Desk (CID) located at each Hotel. 2 TIC Passes will be given to each team to have access of the Stadium's TIC.

TIC/CID is responsible for, but not limited to, the following:

[TIC - stadium]

Opening Hour	11th OCT	9:00-20:00
	12 th OCT	9:00-20:00.
	13-16 OCT	2 hours before the start of competition to 1 hour after the competition

- Main Functions:
- Display on the relevant notice board of official communications to teams including Start Lists, Results and Call Room reporting times.
 - Protests and Appeals
 - Answers to general competition questions
 - Request for doping control tests
 - Acceptance of Personal Implements
 - Receipt of Final Confirmations
 - Distribution and acceptance of Withdrawal Request Form
 - Distribution and acceptance of Relay Order
 - Distribution of urgent notices to the delegations from the Technical Delegates and competition management. It is the Team Leader's duty to collect this kind of information in due time.
 - Distribution of Special Passes the day before the respective event such as Combined Events Rest Zone Passes.
 - Distribution of items confiscated at the Call Room

[CID- each Hotel]

Opening Hours: 11th OCT 08:00-20:00
12th OCT 08:00-20:00
13th TO 14th OCT 08:00-20:00

Main Functions: - Display on the relevant notice board of official communications to the teams including Start Lists and Results
- Distribution of information and answering of queries related to accommodation, meals, transport and the Championships in general
- Receipt of Final Confirmations
- Receipt of written questions for the Technical Meeting(deadline:11 Oct, 18:00)

3.16 Medal Ceremony

3.16.1 Medal Ceremony

Medal Ceremonies will be held, if possible, after the completion of each event. However, for some events, athletes will be notified to report the next day at an assigned time for the ceremony. Participants must wear their official team uniform.

3.16.2 National Flag and Anthem

Each team will be asked to confirm the national flag and anthem upon arrival.

3.16.3 Medal and Diploma

At the medal ceremony, medals for the first to third place winners of individual events and relay events will be awarded. Diplomas for the 1st to 8th places participants will be delivered to the team before departure.

3.16.4 Opening Ceremony

Opening ceremony will be held from 14:30 13th Oct. We request all members of the team to take part. Details will be announced at the Technical meeting.

3.17 Implements

All implements and equipment, which the LOC provides for the competition, training and warm up conforms to WA rules. The list of throwing implements is attached.

Personal implements shall also be allowed, provided that:

- they have WA certification
- they are not on the LOC's Official Implement list
- they have been presented to the TIC by 15:00 on the day prior to the competition
- they are made available to all the other competitors until the end of the final
- they are in good conditions and the brand is easily recognized

Personal implements will be returned at TIC 30 minutes after the conclusion of the final event.

Vaulting Poles will be transported from the Airport to the Stadium by the LOC. Vaulting Poles must be labeled with stickers, which will be provided by the LOC, bearing the athletes' name, gender, country, and departure schedule. All vaulting poles will be stored at the Stadium's equipment room. In case of training, the athlete him/herself must go to the equipment room to get the poles. On the competition day, poles may not be used in the warmup area and will be transported from the warm-up area to the competition site by officials. After the closing of the Championships, poles will be transported to the airport by LOC.

3.18 Markers

Athletes are not allowed to use their own markers. For field events, competitors are required to use the markers provided by the LOC. These will be available at the event site. For the relays, athletes will be provided with adhesive tape (one each) by the officials at the final call room.

3.19 Competition Procedure

3.19.1 Call Room

Call Room will be set up as shown on the Appendix. In the Call Room, the following will be checked in accordance with WA rules:

- Athlete's Bibs
- Shoes and spikes
- Uniforms
- Bag and personal belongings (the use of video or cassette recorders, radios, CD, radio transmitters, mobile phone or similar devices will not be permitted in the field ofplay as per WA rule

All items not authorized by WA Rules & Regulations will be retained by officials, who will give a receipt to the athlete. The athletes will be able to collect such items at TIC once their event has finished, on presentation of their receipt. Team Officials are not allowed to access the Call Room.

After Roll Call is completed at the Call Room, athletes will be taken to the Holding Area nearby, and toilets are available in the Holding Area. Athletes in track events will leave their personal belongings including tracksuits in the Holding Area, and enter the Field of Play (FOP) ready to compete. Their personal belongings will be transported to Post Event Control for collection after their event. In case of cold or rainy weather, athletes will be allowed to enter wearing their tracksuit and their belongings will be collected at the start line and taken to Post Event Control.

Deadline for reporting to the Call Room is as follows:

	Call Time (Call Room Closing Time)	At Competition Site
Track Events (Except Hurdle · Relay)	30min before	10min before
Relay	40min before	15min before
Hurdle	35min before	15min before
Long Jump · Triple Jump	50min before	30min before
High Jump	60min before	40min before
Pole Vault	80min before	60min before
Throwing Events	40min before	30min before

3.19.2 Procedure to Exit from FOP

All athletes will leave the competition area through the Mixed Zone, where the accredited media personnel can conduct short interviews. Combined Events athletes will go through the Mixed Zone at the end of each day, however there could be exceptions in special circumstances. The Post Event Control Room is located at the end of the mixed zone, where baskets containing athletes' clothing and bags will be delivered.

Officials in charge of doping control will notify athletes appointed for doping control tests at the post event control room, and athletes will be escorted to the doping control room.

Officials in charge of medal ceremonies will escort the medal-winning athletes to the medal ceremony gathering area. Athletes are asked to attend the press conference when requested by press.

3.19.3 Protest and Appeal

Jury of Appeal will be comprised by the members of the AAA Council and ITO. Protests will be resolved according to the WA Rule 8. Protests concerning the result or conduct of and event must be made within 30 minutes of the official announcement of the result of that event. Any protest shall, in the first instance, be made orally to the Referee by an athlete, by someone acting on his/her behalf, or by an official representative of a team. An appeal to the Jury of Appeal must be made within 30 minutes:

- (a) of the official announcement of the amended result of an event arising from the decision made by the Referee; or
- (b) of the advice being given to those making the protest, where there is no amendment of any result.

It shall be handed to TIC in writing, signed by a responsible official on behalf of the athlete or team, and shall be accompanied by a deposit of USD100, or its equivalent, which will be forfeited if the appeal is not allowed.

3.19.4 Race Walking Events

The Race Walk events will be conducted using the "Pit Lane" Rule as stated at the WA Rule 54.7.3.

4. Sporting Facilities

4.1 Stadium (Team Seats)

All accredited team members will have seating available at the stadium for all competition sessions. The team seating area is located as shown in Appendix.

4.2 Field event coaches' seats

A selected number of seats will be reserved for the team coaches whose athletes are taking part in the field events each day.

4.3 Combined Events

There will be a waiting room for athletes taking part in combined events. Access to this room is limited to competitors and maximum of 2 officials for each athlete who are in possession of special passes. These passes can be collected at TIC.

4.4 Warm-Up Area

During the competition, warm up is available at a warm-up stadium next to the Main Stadium. Warm up for throwing events are held in a separate area

Opening hours: Oct 11th to 16th

An area for each team will be set up near the main entrance of the Stadium.

4.5 Training Venue

Warm-up Stadium

Opening dates and time

Oct 11th to 12th

11:00 - 17:30

Oct 13th to 16th

13:00 – 15:00

Oct 13th to 16th

20:00 ~ 1 hour after finish of competition

Main Stadium

Opening hours: Oct 12th

16:00 ~ 18:00

(Starters Practice 14:00 to 16:00)

Weight Training

Opening hours: Oct 11th to 16th

11:00 ~ 15:00

4.6 Medical Service

The LOC will provide medical services at the Headquarters Hotel, main stadium and warm-up stadium. Free medical service will be provided by the LOG for all accredited team members at these LOC medical facilities. For any assistance at the Headquarters Hotel, please contact the CID. When the CID is closed, please contact the Hotel reception. For any assistance at the Stadium or at the warm-up area, please contact the Medical Room/Station in each place. Cases which cannot be dealt easily will receive medical care at hospitals in the vicinity. Please note any costs caused by further medical care in hospitals other than these on-site medical facilities must be paid by the respective teams. It is the responsibility of each team to have their own medical, travel and/or any other insurances.

4.7 Physiotherapy

Local physio room will be set up at the warmup area to assist only in case of urgent treatment is necessary. There will be no team physio space at the hotel, and no beds and/or other equipment will be provided, so each team will need to bring their own if necessary. If your team needs a dedicated physio room for your own, please make

reservation in advance at your own cost by contacting the LOC, however the availability depends on the situation of the Hotel and is not guaranteed.

4.8 Distribution of Ice

Ice cubes will be provided at each Hotel, however, the amount available is limited so there can be cases that distribution is not available.

At the Stadium, ice cubes are available at the LOC physio room at the warm up area.

5. Doping Control

Doping Control tests will be carried out in accordance with the latest IAAF Anti-Doping Rules and Regulations. Athletes will be notified for doping control tests at the post event control room, and will be escorted to the doping control room. Failure or refusal to report to the doping control room after notification may result in anti-doping rule violation. Athlete who sets an Asian/Asian Junior Record will have to report to the TIC for doping control test. (In this case, the cost will be borne by LOC) Those who set new national records and need doping control tests for the ratification of the national records will have to apply at TIC immediately after each event. For this, each team must bear the cost which is 300 US\$ for urine standard test and 700 US\$ for urine standard plus EPO test, and this test fee must be paid in cash to TIC when requesting for the doping control test. If the payment is not made, the result of the doping control test will not be notified to the team.

Each team can find out whether their athletes have been taken to doping control room at the TIC. One team official may accompany the appointed athlete, and a special pass will be given at the TIC

6. Insurance

Each Federation is responsible for making arrangements of their travel, medical, and any other insurances necessary for unforeseen accident, injury and illness on their own before travelling to Japan.

7. Team Manual

This team manual had been approved by AAA.

Appendix: Competition Schedule(subject to change)

DAY -I
13.10.2022

TIME	EVENTS	GENDER	ROUNDS
8.30	5000M RACE WALK	GIRLS	FINAL
9.00	100M	BOYS	DECATHLON 1
9.30	100M	GIRLS	ROUND1
9.40	LONGJUMP	BOYS	DECATHLON 2
10.00	100M	BOYS	ROUND1
10.30	400M	GIRLS	ROUND 1
10.50	400M	BOYS	ROUND 1
11.15	SHOT PUT	BOYS	DECATHLON 3
11.20	HAMMER THROW	GIRLS	FINAL

AFTERNOON

17.00	1500	GIRLS	FINAL
17.05	POLE VAULT	BOYS	FINAL
17.10	LONGJUMP	GIRLS	FINAL
17.20	1500M	BOYS	FINAL
17.25	HIGH JUMP	BOYS	DECATHLON 4
17.30	SHOT PUT	BOYS	FINAL
17.40	5000 RACE WALK	GIRLS	MEDAL CEREMONY
17.50	400M	GIRLS	SEMI FINAL
18.00	HAMMER THROW	GIRLS	MEDAL CEREMONY
18.10	400M	BOYS	SEMI FINAL
18.25	100M HURDLES	GIRLS	ROUND 1
18.35	1500M	GIRLS	MEDAL CEREMONY
18.50	110M HURDLES	BOYS	ROUND 1
19.10	1500M	BOYS	MEDAL CEREMONY
19.20	SHOT PUT	BOYS	MEDAL CEREMONY
19.30	400M	BOYS	DECATHLON 5
19.40	LONG JUMP	GIRLS	MEDAL CEREMONY

DAY -II
14.10.2022

TIME	EVENTS	GENDER	ROUNDS
8.30	10000M RACE WALK	BOYS	FINAL
9.45	110M HURDLES	BOYS	DECATHLON 6
10.00	110M HURDLES	BOYS	SEMI FINAL
10.15	100M HURDLES	GIRLS	SEMI FINAL
10.20	DISCUS THROW	BOYS	DECATHLON 7
11.30	POLEVault	BOYS	DECATHLON 8
11.40	DISCUS THROW	GIRLS	FINAL

AFTERNOON

17.00	100M	BOYS	SEMI FINAL
17.10	HIGH JUMP	GIRLS	FINAL
17.15	100M	GIRLS	SEMI FINAL
17.20	JAVELIN	BOYS	DECATHLON 9
17.30	10000M RACE WALK	BOYS	MEDAL CEREMONY
17.40	400M	BOYS	FINAL
17.50	DISCUS THROW	GIRLS	MEDAL CEREMONY
18.00	400M	GIRLS	FINAL
18.05	TRIPLE JUMP	BOYS	FINAL
18.10	400M	BOYS	MEDAL CEREMONY
18.20	400M	GIRLS	MEDAL CEREMONY
18.25	JAVELIN THROW	BOYS	FINAL
18.30	110M HURDLES	BOYS	FINAL
18.40	HIGH JUMP	GIRLS	MEDAL CEREMONY
18.50	100M HURDLES	GIRLS	FINAL
19.00	1500M	BOYS	DECATHLON 10
19.10	110M HURDLES	BOYS	MEDAL CEREMONY
19.20	TRIPLEJUMP	BOYS	MEDAL CEREMONY
19.30	100M	BOYS	FINAL
19.40	100MHURDLES	GIRLS	MEDAL CEREMONY
19.50	JAVELIN THROW	BOYS	MEDAL CEREMONY
20.00	100M	GIRLS	FINAL
20.10	DECATHLON	BOYS	MEDAL CEREMONY
20.20	100M	BOYS	MEDAL CEREMONY
20.30	100M	GIRLS	MEDAL CEREMONY

DAY III
15.10.2022

TIME	EVENTS	GENDER	ROUNDS
8.30	100M HURDLES	GIRLS	HEPTATHLON 1
8.45	800M	BOYS	ROUND 1
9.05	800M	GIRLS	ROUND 1
9.10	400M HURDLES	BOYS	ROUND 1
9.15	HIGH JUMP	GIRLS	HEPTATHLON 2
9.35	400M HURDLES	GIRLS	ROUND 1
9.50	200M	BOYS	ROUND 1
10.10	200M	GIRLS	ROUND 1
10.25	HAMMER THROW	BOYS	FINAL

AFTERNOON

17.00	400M HURDLES	BOYS	FINAL
17.05	SHOT PUT	GIRLS	HEPTATHLON 3
17.10	HAMMER THROW	BOYS	MEDAL CEREMONY
17.15	TRIPLE JUMP	GIRLS	FINAL
17.20	400M HURDLES	GIRLS	FINAL
17.25	JAVELIN THROW	GIRLS	FINAL
17.30	3000M	BOYS	FINAL
17.35	HIGH JUMP	BOYS	FINAL
17.50	400M HURDLES	BOYS	MEDAL CEREMONY
18.00	400MHURDLES	GIRLS	MEDAL CEREMONY
18.10	3000M	GIRLS	FINAL
18.30	TRIPLE JUMP	GIRLS	MEDAL CEREMONY
18.40	JAVELIN THROW	GIRLS	MEDAL CEREMONY
18.50	800M	BOYS	FINAL
19.00	3000M	BOYS	MEDAL CEREMONY
19.10	3000M	GIRLS	MEDAL CEREMONY
19.20	200M	GIRLS	HEPTATHLON 4
19.20	800M	BOYS	MEDAL CEREMONY
19.30	800M	GIRLS	MEDAL CEREMONY
19.40	HIGH JUMP	BOYS	MEDAL CEREMONY

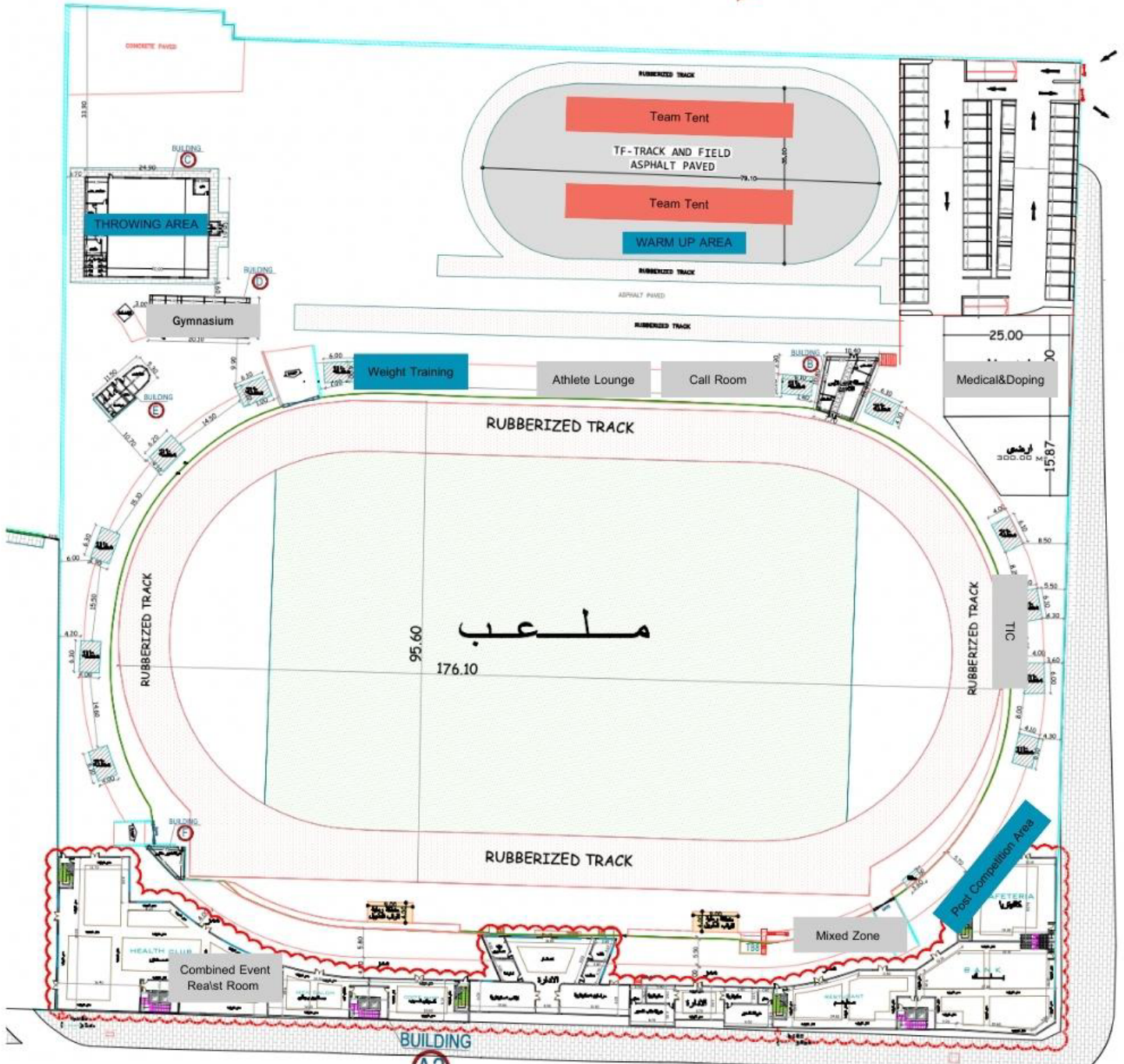
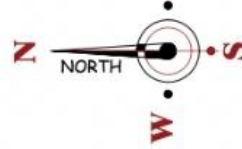
DAY IV.
16.10.2022

TIME	EVENTS	GENDER	ROUNDS
8.30	LONG JUMP	GIRLS	HEPTATHLON 5
8.45	MEDLEY RELAY	BOYS	ROUND 1
9.05	MEDLEY RELAY	GIRLS	ROUND 1
9.45	JAVELIN THROW	GIRLS	HEPTATHLON 6

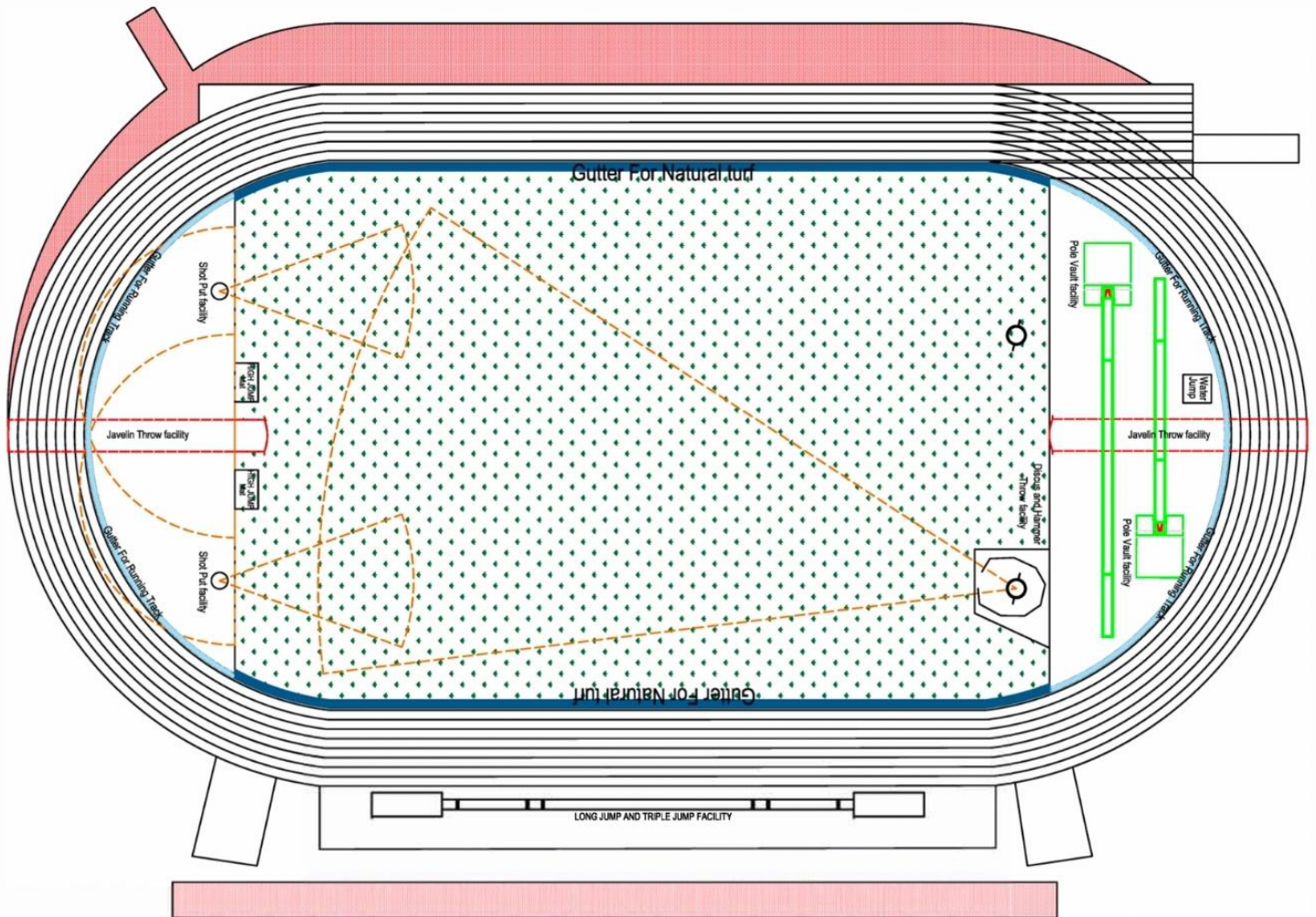
AFTERNOON

17.00	LONG JUMP	BOYS	FINAL
17.05	POLEVAULT	GIRLS	FINAL
17.10	SHOT PUT	GIRLS	FINAL
17.20	DISCUS THROW	BOYS	FINAL
17.30	2000M SC	BOYS	FINAL
17.45	2000M SC	GIRLS	FINAL
18.05	SHOT PUT	GIRLS	MEDAL CEREMONY
18.10	800M	GIRLS	HEPATHLON 7
18.20	LONG JUMP	BOYS	MEDAL CEREMONY
18.30	200M	GIRLS	FINAL
18.40	POLEVAULT	GIRLS	MEDAL CEREMONY
18.50	DISCUS THROW	BOYS	MEDAL CEREMONY
19.00	200M	BOYS	FINAL
19.10	2000MSC	BOYS	MEDAL CEREMONY
19.20	2000M SC	GIRLS	MEDAL CEREMONY
19.30	MEDLEY RELAY	BOYS	FINAL
19.40	HEPTATHLON	GIRLS	MEDAL CEREMONY
19.50	200M	BOYS	MEDAL CEREMONY
20.00	MEDLEY RELAY	GIRLS	FINAL
20.10	200M	GIRLS	MEDAL CEREMONY
20.20	MEDLEY RELAY	GIRLS	MEDAL CEREMONY
20.30	MEDLEY RELAY	BOYS	MEDAL CEREMONY

ANNEXURE



Lay Out Plan of Track



GIRL'S SHOT PUT 3Kg			
Catalogue. No.	Company	Description	Certification No.
N1118H	Nelco	Turned iron 97 mm	I-13-0636

GIRL'S HAMMER 3Kg			
Catalogue. No.	Company	Description	Certification No.
N1122HT	Nelco	Turned iron 92 mm	I-14-0686

GIRL'S DISCUS 1Kg			
Catalogue. No.	Company	Description	Certification No.
N1105USC	Nelco	Ultra Spin 78m	I-01-0246
N1105GD	Nelco	Gold Rimglide 75m	I-99-0096
N1105B	Nelco	Super spin Rimglide 70m	I-99-0092
N1104CS	Nelco	Olympia Rimglide 67m	I-01-0246
N1104C	Nelco	Lo spin Rimglide 65m	I-99-0131

GIRL'S JAVELIN 500g			
Catalogue. No.	Company	Description	Certification No.
500SC40	Nemeth	Special Competition 40m	I-11-0541
7914704	Nordic	Diana 500 NTS ATC, steel	I-12-0549

BOY SHOT PUT 5Kg			
Catalogue. No.	Company	Description	Certification No.
N1118D	Nelco	Turned 114 mm	I-11-0509
PK-5/100	Polanik	Turned Steel 100 mm	I-12-0582

BOY HAMMER 5Kg			
Catalogue. No.	Company	Description	Certification No.
PM-5/100	Polanik	Steel 100 mm	I-99-0157
N1122DSA	Nelco	Olympic Steel 95 mm	I-11-0510

BOY DISCUS 1.5Kg			
Catalogue. No.	Company	Description	Certification No.
N1104BC	Nelco	Steel Rimglide 65m	I-02-0259
N1104B	Nelco	Olympia Rimglide 67m	I-14-0684

BOY JAVELIN 700g			
Catalogue. No.	Company	Description	Certification No.
AF 10-600	Polanik	Competition Air Flyer, duraluminium	I-11-0500
SM13-600	Polanik	Competition Space Master 600,	I-13-0654
SM10-600	Polanik	Competition Space Master, duralluminium	I-11-0502

10th Asian Indoor Athletics Championships



10th ASIAN INDOOR ATHLETICS CHAMPIONSHIPS

Astana | 2023

TEAM MANUAL



GENERAL PARTNER



CONTENTS

1 GENERAL INFORMATION – 5 – 9

- 1.1 AAA Council Members & International Officials
- 1.2 Local Organizing Committee
- 1.3 Information about Astana
- 1.4 General Programme

2 TRAVEL TO ASTANA – 10 - 11

- 2.1 Official Airport and Arrival Information
- 2.2 Entry Visas
- 2.3 Insurance

3 ACCREDITATION – 11 – 12

- 3.1 Accreditation Centre
- 3.2 Accreditation Procedures and Payments
- 3.3 Quota and Financial Support
- 3.4 Arrivals Outside Accreditation Centre Opening Times
- 3.5 Special Passes

- 3.6 Loss of Accreditation Card

- 4 ACCOMMODATION – 13 – 14**
 - 4.1 AAA Family Hotel
 - 4.2 Teams' Hotels Costs
 - 4.3 Teams' Hotels Check-in Procedures
 - 4.4 Services in the Teams' Hotels
 - 4.5 Meals

- 5 TRANSPORT – 15**
 - 5.1 Travel Times
 - 5.2 Public Transport System

- 6 INFORMATION CENTRES – 16 – 17**
 - 6.1 Technical Information Centre (TIC)
 - 6.2 Competition Information Desks (CID)
 - 6.3 Event Information Desk
 - 6.4 AAA Competitions Department Offices
 - 6.5 Documents Distribution

- 7 COMPETITION FACILITIES, EQUIPMENT AND IMPLEMENTS – 18 – 19**
 - 7.1 Main Stadium
 - 7.2 Warm-up Area
 - 7.3 Training Venue
 - 7.4 Training at the Competition Venue
 - 7.5 Sports Equipment
 - 7.6 Official Implements

- 8 ENTRIES AND FINAL CONFIRMATIONS – 20**
 - 8.1 Age Categories
 - 8.2 Entry Standards and Entry Rules
 - 8.3 Final Entries
 - 8.4 Final Confirmations
 - 8.5 Withdrawals
 - 8.6 Athletes Acknowledgement and Agreement Forms

- 9 COMPETITION PROCEDURES – 21 – 25**
 - 9.1 Technical Meeting
 - 9.2 Orientation Visit for Team Leaders and Coaches
 - 9.3 Timetable
 - 9.4 Athletes' Bibs
 - 9.5 Athletes' Clothing
 - 9.6 Personal Belongings
 - 9.7 Call Room Procedures
 - 9.8 Track Events
 - 9.9 Field Events
 - 9.10 Timing and Measurement
 - 9.11 Post Competition Procedures

- 9.12 Medal Ceremonies
- 9.13 Protests and Appeals
- 9.14 Competition Awards

10 MEDICAL SERVICES – 26 – 27

- 10.1 General Plan
- 10.2 Emergency Contact Numbers
- 10.3 Medical Services in the AAA and Teams' Hotels
- 10.4 Venues Medical Services
- 10.5 Procedures in case of injury or illness
- 10.6 Massage Services offered by the LOC
- 10.7 Designated Medical Institutions
- 10.8 Other Information

11 DOPING CONTROL – 27

12 DEPARTURES – 27-28

1. GENERAL INFORMATION

1.1 AAA Council Members and International Officials AAA Council

President	GEN. DAHLAN JAMAN B AL-HAMAD (QAT)
Senior Vice President	GEN. SURAPONG ARIYAMONGKOL (THA)
Vice President	MS WANG NAN (CHN) MR HIROSHI YOKOKAWA (JPN) MR MOHAMMAD JUMAH (KUW) GEN. (R) MUHAMMAD AKRAM SAHI (PAK) MR ANDREY ABDUVALIEV (UZB)
Secretary General	MR A SHUGGUMARRAN (SGP)
Individual Members	MR KWAN KEE (HKG) MR CHING CHENG WANG (TPE) MR TIGOR M. TANJUNG (INA) MR ROLAND SAADE (LBN) MR KARIM BIN IBRAHIM (MAS) MR TSEWANG RINZING (BHU) MR SHAGEA MOHAMMED AL-MAQDASHI (YEM) MAJ (R) MD TALIP MD TAHIR (BRU) MS STEPANISHEVA TATYANA (TKM)

MS MALA SAKONHNINHOM (LAO)

International Officials

Organizational Delegate: GEN.SURAPONG ARIYAMONGKOL (THA)

Technical Delegates: -MR YUKIO SEKI (JPN)
-MR VADIM NIGMATOV (TJK)

Jury of Appeal:

- 1) MR KWAN KEE (HKG)
- 2) GEN MUHAMMAD AKRAM SAHI (PAK)
- 3) MR MAHMOUD A H ABUL (KUW)

Medical/Anti-Doping Delegate: DR SEYED ASHKAN ORDIBEHESHT (IRI)

Press Delegate: MR SURESH NAIR

English Announcer: Vacant

Photo Finish Judge: MS NONGLUX PORNSIRISUTHANONT (THA)

International Starters: MR MICHAEL LIU HANG CHIU (HKG)

ITOs: MR A. HAKEEM A M AL-AMERI (QAT) CHIEF

- 1) MR FUNG WANG TAK (HKG)
- 2) MR STANLEY JONES (IND)
- 3) MR SEKINE HARUYUKI (JPN)
- 4) MR S CHINATAMBY (MAS)
- 5) MS MA JEANETTE OBIENA (PHI)

Local Organizing Committee Athletics Federation of Kazakhstan:

President: DANIAL AKHMETOV

Secretary General: ASKHAT SEISEMBEK

Conference member: DENIS RYPAKOV

Executive director: PAVEL KUKIN

Chairman of the judge secretariat: OLGA USTYANCEVA

Managers: SULTAN MUKHTAR
ALIYA MAKISHEVA
ARAY SERIKBAYEVA

1.2 Information about Astana

Astana is the capital city of Kazakhstan.

The city lies on the banks of the Ishim River in the north-central part of Kazakhstan, within the Akmola Region, though administered as a city with special status separately from the rest of the region. A 2020 official estimate reported a population of 1,136,008 within the city limits, making it the second-largest city in the country, after Almaty, which had been the capital until 1997. The city became the capital of Kazakhstan in 1997, since then it has grown and developed economically into one of the most modern cities in Central Asia. And, in 2021, Astana was selected as one of the top 10 tourist destinations in Kazakhstan.

Modern Astana is a planned city, following the process of other planned capitals. After it became the capital of Kazakhstan, the city dramatically changed its shape. The city's master-plan was designed by Japanese architect Kisho Kurokawa. As the seat of the government of Kazakhstan, Astana is the site of the Parliament House, the Supreme Court, the Ak Orda Presidential Palace and numerous government departments and agencies. It is home to a range of futuristic buildings, including many skyscrapers.

1.2.1 How to spend your days in Astana

Dining

The cuisine was hugely influenced by the nomadic lifestyle that developed amidst the changing habitats throughout this vast country. From mountainous regions to the great steppes, from arid deserts to rich ecohabitats with forests, rivers and lakes; all this geographical diversity resulted in the creation of the variety of national dishes in different regions of Kazakhstan. In the more frigid regions, people have been seen to adopt a meat-based diet full of protein, fat and nutrients, whereas in the more temperate climates people are used to adding a lot of fresh vegetables and cereals to their dishes.

The people local to this harsh climatic region are fond of meat in all its glorious forms and do know quite a lot on how to make some of the most delicious meat dishes one could ever think of. So good you'd want to come back for some over and over again.

Also, in Nursultan you will find a huge variety of dishes of various nationalities, be it European, Asian, Georgian, Turkish. Everyone will find something to their liking.

Arts & Culture

If the city of Nursultan is in the green zone of quarantine measures, you will be able to visit many amazing places.

Stroll Nurzhol Bulvar to spot Astana's most striking contemporary constructions. The architecture-exhibition boulevard runs between the impressive Ak Orda – the imposing, palatial building where the president works – and Khan Shatyr, a wacky off-centre tent-like structure and one of Astana's most incredible buildings. The centrepiece of Nurzhol Bulvar is the 97m-tall Bayterek Monument, a white-latticed tower topped with a golden egg, a tribute to a Kazakh legend. A lift whisks visitors to the top for unforgettable views of the city and buildings such as Ak Orda, the blue-green rippling 'Northern Lights' skyscrapers. Across the Ishim River, the bold glass-and-steel pyramid of the Palace of Peace & Accord was designed by Norman Foster as a place of harmony where leaders of various religions could meet for the triennial

Congress of World and Traditional Religions. A guided tour of the building takes in the basement opera hall, the striking atrium, the diagonally rising lifts, the hanging gardens and the light-filled tip of the pyramid with stained-glass doves' courtesy of British artist Brian Clarke.

Astana may be a modern city, but it's still possible to hear the sounds of the dombra (a two-stringed, long-necked Turkic lute) and the kobyz (an ancient, fiddle-like string instrument) at folk music concerts. The most prestigious venue for these concerts is the Central Concert Hall, a curvy, flower-like structure designed by Italian architect Manfredi Nicoletti.

Explore the Kazakhstan history in the giant National Museum of the Republic of Kazakhstan, which is a remarkable collection of all things Kazakhstani. The entrance hall is magnificent, with a soaring golden eagle under the Kazakh sun, and exhibits run the gamut from archaeology and pre-history to WWII, the Gulags and contemporary Kazakh art. The Hall of Gold showcases the treasures unearthed from the many burial mounds scattered around the country, while the Hall of Ethnography delves into the nomadic way of life.

Get acquainted with the opera and ballet of Kazakhstan in such major theaters as the Astana Opera and the Astana Ballet.

1.2.2 General Information

Population	Population of Astana city - 1 217 600
Language	Kazakh
Currency:	KAZ currency is the tenge (KZ) Indicative exchange rate as of October 2021: 1 TENGE = \$ 0,0021 USD Currency exchange is available at the Nursultan Nazarbayev Airport as well at local bank branches.
Time zone:	Standard time in Kazakhstan is either UTC+05:00 or UTC+06:00.
Altitude Astana:	347 meters
Hours of daylight:	07:51 – 18:05
Shop opening hours:	Monday – Saturday: from 10:00 until 22:00 Sunday: from 10:00 until 22:00
Post Office / Bank opening hours:	Post Office - Monday – Friday: from 9:00 until 21:00 Bank – Friday: from 9:00 until 18:00

Electricity specifications

Kazakhstan the power plugs and sockets are of type C and F. The standard voltage is 220 V and the standard frequency is 50 Hz.

In Kazakhstan the power plugs and sockets are of type C and F.

Type C: also known as the standard "Euro" plug. This socket also works with plug E and plug F.

Type F: also known as "Schuko". This socket also works with plug C and plug E.

Dialing Codes

Country Code: +7

Area Code: +7 71 72

Useful Telephone Numbers

Emergency number: 112

Police: 102

Medical: 103

Fire: 101

Tourist Information: <https://visitkazakhstan.kz/en/>

Drinking water

Please drink only boiling, filtering water or water in bottle.

Climate

Average temperature for Astana in February

Average High Temperature: - 11°C

Average Low Temperature: - 20°C

Average Temperature: -16°C

Average Monthly Precipitation: 23.11mm (0.91 inches)

1.3 General Programme

8 February – Team Arrivals and Accreditation (Hotel Hilton)

9 February – 11:00 – Technical Meeting at the Conference Hall at the Main Stadium

9 February – 12:00 – Stadium Tour

10 February – Opening Ceremony at the Stadium

Friday 10 – Sunday 12 February - 10th Asian Indoor Athletics Championships

Monday, 13 February - Team Departures

2. TRAVEL TO ASTANA

2.1 Official Airport and Arrival Information

Nursultan Nazarbayev International Airport (NQZ) is the official airport. It is within 20 minutes driving time from all the important locations (Accreditation Centre, Teams' Hotels, etc.)

****If quarantine measures are introduced by the state to prevent the spread of coronavirus infection, this will be reported additionally.***

After leaving the plane, teams and officials go through passport control. There will be a special line for 10th Asian Indoor Championships attendees so please look for signage in the airport. After collecting luggage at the Baggage Claim Area, please proceed to one of the Welcome Desk located at each end of the airport. LOC volunteers will then guide attendees to the PCR testing and then to the shuttle that will take them to their hotel.

Effective June 8, 2022, Kazakhstan canceled mandatory requirement on provision of the vaccination passport and PCR certificate with a negative result for Covid while crossing the border.*

This means that foreign citizens and KZ citizens no longer need a PKI certificate / vaccination passport to arrive in Kazakhstan. Such measure applies regardless of the type of transport by which arriving persons cross the Kazakhstan border.

If you need to conduct PCR testing before your departure from Kazakhstan, please send a request to our official mail and we will organize all the necessary measures (each country passes the PCR test at its own expense).

Vaulting poles will be transferred from the airport directly to the training area at the Main Stadium. Be sure to arrange for travel on airlines that are able to transport your vaulting poles.

2.2 Entry Visas

No on arrival visa will be issued. All participant has to apply for Entry Visa through Kazakhstan Embassy in your own country. The Organizing Committee will issue an invitation letter for all participants to apply visa. The Application should be sent to the Councilor Embassy well in advance.

2.3 Insurance

All Member Federations are responsible for their own insurance to cover illness or injury to any member of their Delegation and/or team when travelling to and from AAA competition and during the event itself.

All Member Federation are responsible for subscribing to an insurance policy that covers illness and/or injury to any members of their delegation and/or team travelling to and from Asian Athletics competitions and during itself. Furthermore, proof of such insurance is now required in most cases to obtain visas.

All Member Federations taking part in the Asian Indoor Athletics Championships must include insurance coverage for all infectious diseases, including COVID-19, subject to compliance with all measures taken in the Member Federations' own country and in the country hosting the Asian Indoor Athletics Championships, in this case in Kazakhstan. Please follow all COVID-19 related procedures and protocols in place when leaving your country, arriving and whilst in Kazakhstan. Please note that the Travel & Medical insurance policy will not cover the costs of being put in quarantine. Please contact the Medical Delegate for any information concerning any medical issue that arises at the event.

3. ACCREDITATION

3.1 Accreditation Centre

The Teams' Accreditation Centre will be located in the track and field complex "Qazaqstan". Opening Dates and Times will be as follows:

- 8 February 9:00 – 19:00
- 9 February 9:00 – 19:00
- 10 February 12:00 – 17:00
- 11 February 12:00 – 17:00
- 12 February 12:00 – 17:00

3.2 Accreditation Procedures and Payments Team Leader

The Team Leader will have to report to the LOC / Organizing Committee Offices at the accreditation centre before collecting his card in order to complete the following formalities:

- Uniform Check
- LOC Accommodation Invoice
- Final Confirmation of Entries

Member Federations will be asked to complete the accounting procedures and settle any extra payments (for team members above quota, use of single rooms, extra days, etc.) before arrival or on the day of arrival. After completion of all banking procedures Team Leader can collect the accreditation card, which will be given upon presenting a document stating all procedures have been completed.

Athletes and Officials

All Athletes and Officials will check into their hotel before any accreditation is collected, but access cards to the rooms will be provided only after the Team Leader completes all procedures. Once checked in the Team Manager will be directed to Team Processing (only present at the track and field complex "Qazaqstan") to settle any outstanding payments.

**We request you to notify the Organizing Committee in advance about when you will make payment for accommodation outside the quota (on the day of arrival or before arrival), you will be billed for payment.*

NB: To shorten procedures and avoid delays, it is strongly advised to settle payment prior to arriving into Astana. The LOC Finance Team will be getting in contact with all teams to settle their Accommodation Invoice in advance of their arrival.

3.3 Quota and Financial Support

Quota for the 10th Asian Indoor Athletics Championships for each country – 5 athletes and 1 official.

3.4 Arrivals outside the Accreditation Centre Opening Times

Athletes and Team Officials arriving at the hotels after the closing of the Accreditation Centre will be able to access the hotel for the night. The next morning, they must proceed to the Team's Accreditation Centre to finalize the procedures and collect the official Accreditation Cards.

3.5. Special Passes

AAA shall provide special passes as required for the following categories:

- Field Event Coaches.
- Combined Events Rest Room (two per athlete for coach and physiotherapist)
- TIC Pass
 - o for collecting items from the pigeonhole
 - o for Team Officials' access to the Post Event Area

3.6 Loss of Accreditation Card

The Accreditation Card must be worn visibly at all times and must be presented upon request. It is personal and non-transferable. In case of loss or theft, please report immediately to the Teams' Accreditation Centre or TIC at the Main Stadium. In order to obtain a new Accreditation Card, the Team Member must proceed to the Accreditation Centre, accompanied by his/her Team Leader or the higher official in his/her Delegation, carrying a passport or an appropriate identification document.

4. ACCOMMODATION

4.1 AAA FAMILY HOTEL



HILTON

46 Sauran Street, Astana

4.2 Teams' Hotels Costs

For all athletes in the Quota the LOC will offer free accommodation in single/twin rooms in all hotels during the official period (arrival, 8 February 2023 – departure, 13 February 2023), for a maximum of five nights. Single rooms will be charged a supplement as detailed below.

All Prices per person per day Full Board (in USD)	Official Period from 8 to 13 February (5 nights)		Outside the period (Full Board) per person	
	Twin	Single	Twin	Single
Marriot - Wyndham Garden - Park Inn by Radisson Astana - Radisson Astana				
Athletes in quota	Paid by LOC		160 USD per person (320 USD – twin room)	160 USD
Officials and Athletes outside the quota from 8 February to 13 February	110 USD per person (220 USD – twin room)	110 USD	* requires additional advance booking	* requires additional advance booking

The accommodation invoices will be based on the information (number of persons and

arrival / departure details) provided in the Final Entries.

Payment of extra costs can be made:

- By credit card: MasterCard, Visa
- In cash: US Dollars

4.3 Teams' Hotels Check-in Procedures

Team Managers must report to the LOC Accommodation Desk, which will be located next to the Hotels Main Reception Desk, to complete the check in procedure. The Accommodation Team will confirm the rooming list as previously provided by the Team and then issue the room keys. All team members must have on them a valid identification document (Passport or Identity Card) for check-in.

Once checked in, the Team Manager will be directed to 'Team Processing' to settle payment. Once payment has been settled the Team Manager can collect his/her accreditation.

If other hotel services are required, the individual must scan the credit card at the main reception desk to activate these extra services (telephone, laundry, minibar, etc.).

Please note: Each Team will check in at the Hotel they have been allocated to but will settle their accommodation payment and pick up their accreditation at the Accreditation Centre.

4.4 Services in the Teams' Hotels Accommodation Desk

For questions related to check in, hotel registration and travel our Accommodation team will be happy to assist you. In each hotel will have an Accommodation desk that can also provide help with general event questions.

Internet access

Wi-Fi will be available in all hotels

4.5 Meals

Athletes and team officials will be admitted to the meal service area in the team hotel upon presentation of their accreditation cards. However, access to this area will only be possible in the hotel where they are staying. Meals will all be served in buffet style and, to the extent possible, will be similar in all hotels. Cuisine will cater for special diets and religions and all food shall be appropriately labelled in English. Meal times shall be as follows:

- Breakfast: 07:00–11:00
- Lunch: 12:30–15:30
- Dinner: 19:00–23:00

5. TRANSPORT

Teams' transport between hotels and other locations will be provided by the Local Organizing Committee. Transport will be provided by buses, minibuses, or vans. Detailed schedules will be posted in the official information points of the Championships (Hotel Information Desks, CIDs and TIC).

5.1 Travel Times Marriot - Wyndham Garden - Park Inn by Radisson Astana - Radisson Astana

Below are the approximate time and distances between the key locations.

№	Name of the Hotel	Distance from the Arena to the hotel			Distance from the Hotel to the arena			Distance from the Hotel to the Airport	
		Distance	Taking into account traffic jams	Excluding traffic jams	Distance	Taking into account traffic jams	Excluding traffic jams	Distance	Taking into account traffic jams
1	Hilton	2.9 km	11 min	8 min	3,4 km	15 min	10 min	10 km	16 min
2	Wyndham Garden Astana	4 km	15 min	7 min	4 km	15 min	7 min	9 km	15 min
3	Park Inn by Radisson Astana	5 km	20 min	12 min	5 km	20 min	11 min	13 km	30 min
4	Radisson Astana	7,4 km	30 min	20 min	7,2 km	25 min	20 min	18 km	45 min
5	Astana Marriott Hotel	5 km	20 min	10 min	4 km	18 min	9 min	14 km	35 min

6. INFORMATION CENTRES

6.1 Technical Information Centre (TIC)

The TIC is located on the First Floor, D zone Entrance.

The main task of the Centre is to ensure a smooth liaison between each Delegation and the Local Organizing Committee, the AAA Technical Delegates and the Competition Management of the Championships regarding technical matters.

The TIC is in charge of, but not limited to, the following:

- Display on the relevant Notice Board of official communications to the teams, including Start Lists, Results and Call Room reporting times. These will also be displayed at the Warm-up Area.
- Distribution of Urgent notices to the Delegations from the Technical Delegates and Competition Management via the pigeonholes. It is the Team Leader's duty to collect this kind of information in due time.
- Distribution of Special Passes
- Receipt of Relay Order Confirmations
- Receipt of written questions for the Technical Meeting (deadline 9:00, 9 February)
- Written Appeals

Opening Dates and Times will be as follows:

- Friday, 10 February 08:30 – 21:30
- Saturday, 11 February 08:30 – 21:30
- Sunday, 12 February 08:30 – 20:00

This will be the main centre for technical information although certain documents produced in the TIC will also be distributed to the CIDs for circulation.

6.2 Competition Information Desks (CID)

The CID will be situated at all hotels where competitors will stay and will be linked to the TIC. It shall be in charge of, but not limited to, the following:

- Display on the relevant Notice Board of official communications to the teams, including Start Lists, Results and Call Room reporting times.
- Distribution of Urgent notices to the Delegations from the Technical Delegates and Competition Management. It is the Team Leader's duty to collect this kind of information in due time.
- Receipt of written questions for the Technical Meeting (deadline 09:00, 9 February).

Opening Dates and Times will be as follows:

- Friday, 10 February 07:30 – 21:00
- Saturday, 11 February 07:30 – 21:00
- Sunday, 12 February 07:30 – 20:00

6.3 Event Information Desk

The Event Information Desk will be happy to help you with information on all things outside of the competition. Technical and Competition related questions can be addressed at the Technical Information Centre or CID. Information on the General

Programme, transport, meals, social activities and any special requests can all be provided at the Event Information Desk. Not sure where to go with your question? Come see us in the lobby of the Hilton Hotel.

6.4 AAA Competitions Department Offices

Staff from the AAA Competitions Department will be in Astana to assist the LOC with the final preparation and conduct of the Championships and the teams with their participation. They can be contacted as follows:

- 10 to 12 February Teams Accreditation Centre
- 10 to 12 February AAA Competitions Office at the Stadium – can be contacted through the TIC.

6.5 Document Distribution

The distribution of competition related information at the TIC and CID will NOT be systematically made through printouts in the Team pigeonholes but will be displayed on the notice boards (also available at the warm-up Area).

It will still be possible to request occasional copies of specific event start lists and / or results (at the TIC).

Important notices of general interest (e.g. changes to the timetable) will also be displayed on the Posting Board while individual communications to specific teams will still be posted through the pigeon holes.

7. COMPETITION FACILITIES, EQUIPMENT AND IMPLEMENTS

7.1 Main Stadium

The Championships will take place in the track and field complex “Qazaqstan”. This multi- function facility is situated in close proximity to the heart of the Astana city. This will feature:

- Mondo Track Surface
- 200m oval track (6 lanes)
- 60m straight (8 lanes)
- One High Jump site
- One Pole Vault site
- One Long/Triple Jump site
- One Shot Put site

The rest area for the Combined Events will be situated in the Warmup area. Team Seats are located in the North stand.

7.2 Warm-up Area and Training

The Warm-up area is situated in the first floor of the Competition Area and has the following facilities:

- 50m straight 6 lanes
- Oval track 4 lanes
- 1 Shot Put site, 1 Pole Vault site, 1 Long/Triple Jump site, 1 High Jump site
- hurdles, starting blocks
- synthetic surface to allow for athlete movement
- Team Medical Area.

The entrance to the Warm-up area will be from the team areas in the arena. The warm-up area will be available at the following times:

- Wednesday, 8 February 16:00 – 21:00 (for training)
- Thursday, 9 February 09:00 – 21:00 (for training)
- Friday, 10 February 08:00 – 21:30 (Only for athletes competing on this day)
- Saturday, 11 February 08:00 – 21:30 (Only for athletes competing on this day)
- Sunday, 12 February 08:00 – 20:00 (Only for athletes competing on this day)

7.3 Training at the Competition Venue

Athletes shall also be given the opportunity to train at the competition venue before the Championships. The competition venue will be available at the following times*:

- Thursday, 9 February 09:00 – 12:00

A 60-minute training session with the official starters will be held between 10:00 – 11:00 on Thursday, 9 February

7.4 Sports Equipment

All competition equipment will be provided by LOC and will have WA certificate

Vaulting Poles

Concerning the transportation of the vaulting poles, these will be collected by the LOC directly at the airport and transferred to the competition venue. A tag with the athlete's details will be placed on the pole for easier identification. A pole vault check-in and check-out table will be located in the warm-up venue. On departure, LOC will arrange transport directly from the Main Stadium to the airport where the poles will be kept in a secure place ready to be collected by the athlete before flight check-in.

Markers

Athletes will not be permitted to use their own markers during the Championships. Those athletes wishing to use a marker will be required to use the markers provided by the LOC and available at the event site.

7.5 Official Implements

MEN				
Catalogue No.	Company	Description	Colour	Certification No.
SHOT 7.26 kg				
PK-7,26/125	Polanik	Steel, dia: 125mm	Various	I-13-0652
PK-7,26/128	Polanik	Steel, dia: 128mm	Various	I-04-0305

WOMEN				
Catalogue No.	Company	Description	Colour	Certification No.
SHOT 4 kg				
PK-4/100	Polanik	Steel, dia: 100 mm	Various	I-99-0150
PK-4/110	Polanik	Turned steel, dia: 110 mm	Various	I-12-0581

Personal Implements will also be allowed, providing that:

- they are readily identifiable and are World Athletics certified.
- they are not already on the official list.
- they have been checked for compliance with World Athletics Rules.
- they are made available to all the other athletes until the end of the Final.

Location & Time for submitting	Return
Personal Implements checking desk at the TIC between 12:00 and 14:00 on Thursday, 9 February . A receipt will be given for the implements	Implements will be returned in exchange for the receipt after the event's Final at the Personal Implements checking desk at the TIC

8. ENTRIES AND FINAL CONFIRMATIONS

8.1 Age Categories

- U18 (Youth) athletes: any athlete aged 16 or 17 years on 31 December 2023 (born in (2006 or 2007) may compete in any event except the Shot Put.
- Athletes younger than 16 years on 31 December 2023 (born in 2008 or later) cannot compete in any event.

8.2 Final Entries

The deadline for completing and submitting the Final Entries is 12 January 2023 (midnight Astana Time).

8.3 Final Confirmations

8.3.1 General

Teams will receive the Final Confirmation Forms upon arrival in Astana and Team Leaders, or their representatives, must confirm the names of those athletes already entered who will actually take part in the competition.

Final confirmation shall be made as per the deadlines below:

- 11:30 on 9 February for all events on Day 1 (10 February)
- 12:00 on 10 February for all events on Day 2 & Day 3 (11-12 February).

The team leaders can also submit the final confirmations upon arrival and for all competition days together if they prefer so.

8.3.2 Relays

The final composition of the relay teams and the order of running must be declared at the TIC no later than one hour before the first call time.

Any four athletes among those entered for the competition, whether for the relay or for any other event, may then be used in the composition of the team.

8.3.3 Failure to participate

Any athlete who, after the Final Confirmation has been submitted, or after qualifying during a qualifying round or a heat for any event, fails to participate in the event without giving a valid reason (e.g. a medical certificate provided by and based on an examination of the athlete by the Medical Delegate appointed under Rule 113), shall be excluded from participation in all further events in the competition, including Relays.

8.4 Withdrawals

Withdrawals after final confirmation have to be submitted, on the official Withdrawal Form, to the TIC. The reason for the withdrawal has to be specified in detail, being its acceptance, the responsibility of the Technical Delegates based on the World Athletics Rules. If an athlete is entered in any other subsequent event, it is mandatory to have a medical delegate (officially appointed by the AAA) signature on the withdrawal form before submitting it.

9. COMPETITION PROCEDURES

9.1 Technical Meeting

The Technical Meeting will take place on 9 February at 11:00 at the Conference Hall at the Main Stadium. As usual, no more than two representatives from each participating Member Federation (and in addition an interpreter or attaché if required) may attend the meeting.

The AAA Technical Delegates will preside over the meeting, which will be conducted in English.

The meeting will provide updates and new information which is not already mentioned in this Team Manual and will include:

- Timetable amendments (if any)
- Progressions and Raising of the bar
- Answers to written questions

Written Questions

Any enquiries concerning the Championships must be made in writing (in English). These questions will be answered at the Technical Meeting. The forms on which the questions must be written will be distributed upon arrival at the Accreditation Centre. These forms must be returned to the TIC or CID no later than 09:00 on 10 February. No questions will be accepted during the Technical Meeting however the Technical Delegates will be available for a limited time to take a few individual questions after the meeting.

9.2 Orientation Visit for Team Leaders and Coaches

Just before the Technical Meeting, a visit to the main Stadium and Warm-up Area will be organized on Thursday, 9 February at 10:00, in order for the Team Leaders and Coaches to familiarize themselves with the exact location of the various facilities (changing rooms, Warm-up area, Call Room, interview room, etc.).

More information with regard to this visit, including transport arrangements, will be available at the Competition Information Desks.

9.3 Timetable

The timetable for Astana was approved by the Technical Delegates.

Changes are possible following the final entries. Information on any changes to the Official Timetable will be provided at the Technical Meeting and through the TIC.

9.4 Athletes' Bibs

The Bibs will be distributed during the Technical Meeting in the Conference Hall at the Main Stadium. Bibs which are not collected, shall be taken to the Stadium TIC on Thursday, 9 February 2022.

All athletes will receive 3 bibs, which shall coincide with the information written in the start list, as follows:

- 3 bibs with the competition number

Every athlete must wear three bibs during the competition, the one on the front, and the other on the back. In jumps events, it is possible to wear only one bib on the front

or on the back. The third bib can be placed on the bag or on the tracksuit. The bibs for the relays (carrying the country code – e.g. “KAZ”) shall be handed out at the Call Room.

Special bibs (green background) shall be used for the leader of the Combined Events after each event. These shall be handled directly by the Combined Events Referee and distributed at the Combined Events Rest Area.

Bibs must be worn in accordance with World Athletics Rules and must not be cut, folded or obscured in any way. Failure to comply with the Rules may result in a disqualification or sanction.

9.5 Athletes' Clothing

All athletes must wear the official national uniform approved by their Delegation.

Any advertising on clothes and bags must comply with World Athletics Rules and Regulations.

A sample of the uniforms must be taken to the Accreditation Centre upon arrival for inspection. Any infringement of the Rules may result in the disqualification of the athlete. Athletes not wearing their official team uniform will be required to acquire the correct attire before they progress through the Call Room.

9.6 Personal Belongings

Athletes competing in the field events (including during the Combined Events) will only be permitted to take a backpack or similar sized bag with them into the competition arena. Combined Events athletes may bring larger bags, but they must be left in the rest area in between events. Athletes are therefore requested not to take with them to the competition area large bags, bulky items, or other inappropriate items.

A strict inspection shall be made on illegal and prohibited items, which athletes may have in their possession. Media players, mobile phones, cameras, etc. shall not be permitted. Any items that do not conform to the World Athletics Technical and/or Advertising Rules and Regulations will be confiscated. Confiscated items may be retrieved at the TIC after the event.

Athletes competing in the track events must leave all their belongings in the baskets at the Call Room and enter the infield ready to compete. The baskets with their belongings will be transferred from the Call Room directly to the Post Event Area.

9.7 Call Room Procedures

The Call Room will be situated at the end of the Warm-up Area. All athletes must present themselves to the Call Room according to the scheduled times as noted below. Times will also be announced over the PA system as well as shown on the electronic display in the Warm-up Area.

Athletes who fail to appear on time at the Call Room without a valid reason may be excluded from participating in this and all further events in the Championships, including relays. Team officials are not allowed to enter the Call Room.

Call Room Reporting Times – all times are prior to the actual starting time of the event:

Event	Report to Call Room	Arrival at Field of Play
Track Events	35'	7'
High Jump	65'	40'
Pole Vault	85'	60'
Long/Triple Jump	55'	30'
Shot Put	55'	30'

Note: Times may change slightly depending on number of entries and eventual changes will be announced at the Technical Meeting.

A dedicated, heat by heat, call-up schedule for each session will be issued once Final Entries are confirmed and displayed at the TIC, CIDs and the Warm-up Area.

The procedures in the Call Room shall be as follows:

- Identification of Athletes by means of their accreditation card and bib number.
- Checking of Athletes' Uniform
- Inspection of personal belongings (only for field events)
- Checking of Shoes and Spikes (model, shape, size, etc.).

The maximum sizes allowed are:

- o All events (except for High Jump): not more than 6mm
- o High Jump: not more than 9mm

If they do not comply with World Athletics Rules, the athletes will be asked to change them to the correct size.

After completion of these procedures, athletes must follow the instructions given by the officials at the Call Room before being escorted onto the Field of Play.

Athletes who compete in the Combined Events shall report to the Combined Events Rest Room ONLY before the first event of each day. For the first event of the day, the above reporting times apply. For subsequent events, the Combined Events Referee shall communicate the required reporting times directly to the athletes and will display them in the Combined Events Rest Room. All pre-competition checks will take place in the Combined Events Rest Room before the start of each event.

Team Leaders must ensure that all their athletes comply with the above before entering the Call Room to avoid delays.

9.8 Track Events

Athletes competing in Track Events will be required to change into their competition uniform and spike shoes in the Call Room. Their personal belongings will be taken directly from the Call Room to the post event area.

The starter's commands will be given in English. Hip numbers will be provided at the Call Room.

9.9 Field Events

The field events having 16 or less athletes based on the final entries will be conducted as the straight finals (meaning no qualifications). In case of more than 16 athletes in any of the field events, a qualification round is to be held as per relevant WA rules. Top 8 athletes will qualify to the final in case the qualification round is held.

In horizontal field events, in case of the final with more than 8 athletes, all athletes will have three initial trials. The top 8 after three rounds will have three additional attempts. In case of a final with 8 athletes, all athletes are entitled to 6 attempts.

9.9 Coaching Zones

Field Event Coaches will be given the possibility to access dedicated coaching zones in the tribunes by means of special passes which will be distributed through the TIC (one per athlete). The coaches concerned must gather at the Call Room, according to the same Call Room reporting times as their athletes, from where they will be escorted to the reserved seats.

9.10 Timing and Measurement

Official timing and measurement will be provided by Myria 10 & Myria 16 (Swiss Timing). All trials of all athletes are recorded and stored in the system.

9.11 Post Competition Procedures

All athletes will depart from the competition area via the Mixed Zone. In the Mixed Zone, the Media may conduct short interviews. Please note that the first three athletes in each final will also be required to attend the formal interview.

After passing through the Mixed Zone, athletes move on to the Post Event Area where they will be able to recover and collect their clothing.

One Official per team will have access to this area (upon presentation of the TIC Pass) in order to contact the athlete in case of urgent need. Here athletes will also be notified for eventual doping control. From here they can then return to the Warm-up Area (and eventually to the hotel) or to go to the team seats.

9.12 Medal Ceremonies

The ceremonies will be held as per the timetable provided.

The first three athletes in each individual event and the first three teams in each relay race will be presented with a gold, silver and bronze medal.

9.13 Protests and Appeals

Protests and Appeals will be handled according to WA Rule 8 Technical rules, an extract of which appears hereunder. Protests and appeals will be handled by the TIC at the Stadium.

9.13.1 Protests

Protests concerning the status of an athlete to participate in a competition must be made, prior to the commencement of such competition, to the Technical delegate(s). Once the Technical delegate(s) make(s) a decision, there shall be a right of appeal to the Jury of Appeal. If the matter cannot be settled satisfactorily prior to the competition, the athlete shall be allowed to compete "under protest" and the matter be referred to the relevant governing body.

Protests concerning the result or conduct of an event shall be made within 30 minutes of the official announcement of the result of that event. The Organizers of the

competition shall be responsible for ensuring that the time of the announcement of all results is recorded.

Any protest shall be made orally to the Referee by an athlete, by someone acting on their behalf or by an official representative of a team. such person or team may protest only if they are competing in the same round of the event to which the protest (or subsequent appeal) relates (or are competing in a competition in which a team points score is being conducted). To arrive at a fair decision, the Referee should consider any available evidence which they think necessary, including a film or picture produced by an official video recorder, or any other available video evidence. The Referee may decide on the protest or may refer the matter to the Jury of Appeal. If the Referee makes a decision, there shall be a right of appeal to the Jury. Where the Referee is not accessible or available, the protest should be made to them through the Technical Information Centre.

9.13.2 Appeals

An appeal to the Jury of Appeal must be made within 30 minutes:

- a) of the official announcement of the amended result of an event arising from the decision made by the Referee; or
- b) of the advice being given to those making the protest, where there is no amendment of any result.

It shall be in writing, signed by a responsible official on behalf of the athlete or team, and shall be accompanied by a deposit of USD 100, or its equivalent, which will be forfeited if the appeal is not allowed.

Note: The relevant Referee shall, after his decision on a protest, immediately inform the TIC of the time of the decision. If the Referee was unable to communicate this orally to the relevant team(s) /athlete (s), the official time of the announcement will be that of posting of the amended results or of the decision at the TIC.

10. MEDICAL SERVICES

10.1 General Plan

Following is general information regarding medical services for the Championships. Prior to and during the event, medical services will be available at selected locations and at the venues related to the Championships.

All Medical Centres and Medical Teams will have direct communication and coordination and all medical personnel will be identified by official identification documents.

A fully equipped emergency ambulance will be available on-site with a medical team during the Competition. Emergency services will also be available on-call for training periods, hotels and other venues 24 hours a day.

10.2 Emergency Contact Numbers

For all medical emergencies anywhere in the Kazakhstan you should call number 103 or 112. Emergency services are available 24 hours a day and 365 days a year. Calling 103 or 112 is free of charge from all public phones and can be dialled without inserting a card or coins.

10.3 Medical Services in the AAA and Teams' Hotels

Healthcare services for all accredited people are available on call 24 hours during the Championships.

For emergency medical situations an ambulance with a medical team is available on call 24 hours a day.

For after-hours non-emergency medical care, a phone consultation service will be provided to determine the best course of action and necessary medical care. Translation services will also be provided.

10.4 Venues Medical Services

10.4.1 Main Stadium:

A suitably equipped Medical Center will be set up at the main Stadium. It will include first aid and emergency care as well as examination rooms and treatment areas. Medical staff on site will include medical doctors, including sports medicine specialists, emergency trained physicians and internal medicine and orthopaedic physicians. Physical therapists, massage therapists and chiropractic physicians will also be on site at all times during practice and competition times. Medical staff will be available two hours prior to one hour after competition and during official practice times.

Comprehensive medical care will include physician evaluation, massage therapy, chiropractic evaluation and care, as well as physical therapy services including modality-based systems such as ultrasound, heat, cryotherapy and laser modality treatments.

Ultrasound diagnostic evaluation of musculoskeletal injuries will also be available by physician and specialist technician with ability to document injuries for future use.

10.4.2 Warm-up Area

The Warm-up Area is located in the same building as the Main Stadium and the medical services for this area will be provided by the Main Stadium Medical Center. Dedicated space for physiotherapy will be available for the teams in the warm-up area.

10.5 Procedures in case of injury or illness

The LOC Medical Services at the venues will focus on the treatment of injured athletes and emergency evacuation. In case of need for further treatment, athletes will be transferred to partner hospitals or other appropriate medical facilities.

In case of injury or illness, please report to one of the LOC Medical Centers to receive the necessary evaluation and treatment.

10.6 Massage Services offered by the LOC

LOC Medical services include massage services in the main stadium.

10.7 Designated Medical Institutions

Multidisciplinary City Hospital have been designated to aid in each emergency situation. Multidisciplinary City Hospital has been designated as the non-emergency facility to provide x-ray, MRI, laboratory and diagnostic services.

10.8 Other Information

Both the Competition and training areas will have a sufficient supply of ice for treatment and drinkable water for Athletes.

Emergency medications will be available for use at the medical rooms as necessary, and as prescribed by licensed physicians from the LOC Medical Center and as supplied by the Medical Director. Other medical prescriptions given by accredited team physicians can be supervised by local medical teams' physicians if requested.

11. DOPING CONTROL

Doping Control will be conducted according to the World Athletics Rules and World Athletics Anti-Doping Regulations and under the supervision of the AAA Doping Control Delegate in co-operation with the Kazakhstan Anti-Doping Agency. Both blood and urine doping control testing will be carried out in the Doping Control Stations located in the Main Stadium.

More details will be provided at the Technical Meeting.

12. DEPARTURES

The Team Leader will be requested to confirm the departure information, already provided in the Final Entries, at the Team's Accreditation Centre.

The bus schedule will be made available at the Hotel Information Desks so that all Team Members are informed of the departure time of the buses from the Hotel to the Airport.

Unless special arrangements have been requested with the LOC, check-out time from the hotels is 12:00 (noon). Team Members must settle any outstanding costs (telephone, laundry, minibar, etc.) with the hotel front desk prior to departure.

Vaulting Poles will be located in the Baggage Claim Area at Nursultan Nazarbayev International Airport so Teams can collect them and proceed to their flight check in.

Asian Indoor Athletics Championships
Astana, Kazakhstan, 10-12 February 2023

DAY 1 - Firday, 10 February, Morning			
10:00	60mH Pen	W	
10:05	Pole Vault	M	Q
10:10	Long Jump	M	Q
10:15	400m	M	R1
10:40	High Jump Pen	W	
10:55	400m	W	R1
11:30	800m	M	R1
12:05	60m	W	R1
12:20	Shot Put Pen	W	
12:50	High Jump	W	Q

DAY 1 - Firday, 10 February, Evening			
18:00	Opening Ceremony		
18:30	Long Jump Pen	W	
18:35	60m	W	SF
18:45	Shot Put	M	Final
18:55	400m	M	SF
19:15	400m	W	SF
19:35	1500m	M	R1
19:40	Triple Jump	M	Final
20:00	3000m	W	Final
20:20	800m Pen	W	Final
20:30	60m	W	Final
20:35	3000m	W	MC
20:55	4 x 400m Relay	U	Final
21:00	Shot Put	M	MC
21:05	Pentathlon	W	MC
21:10	60m	W	MC

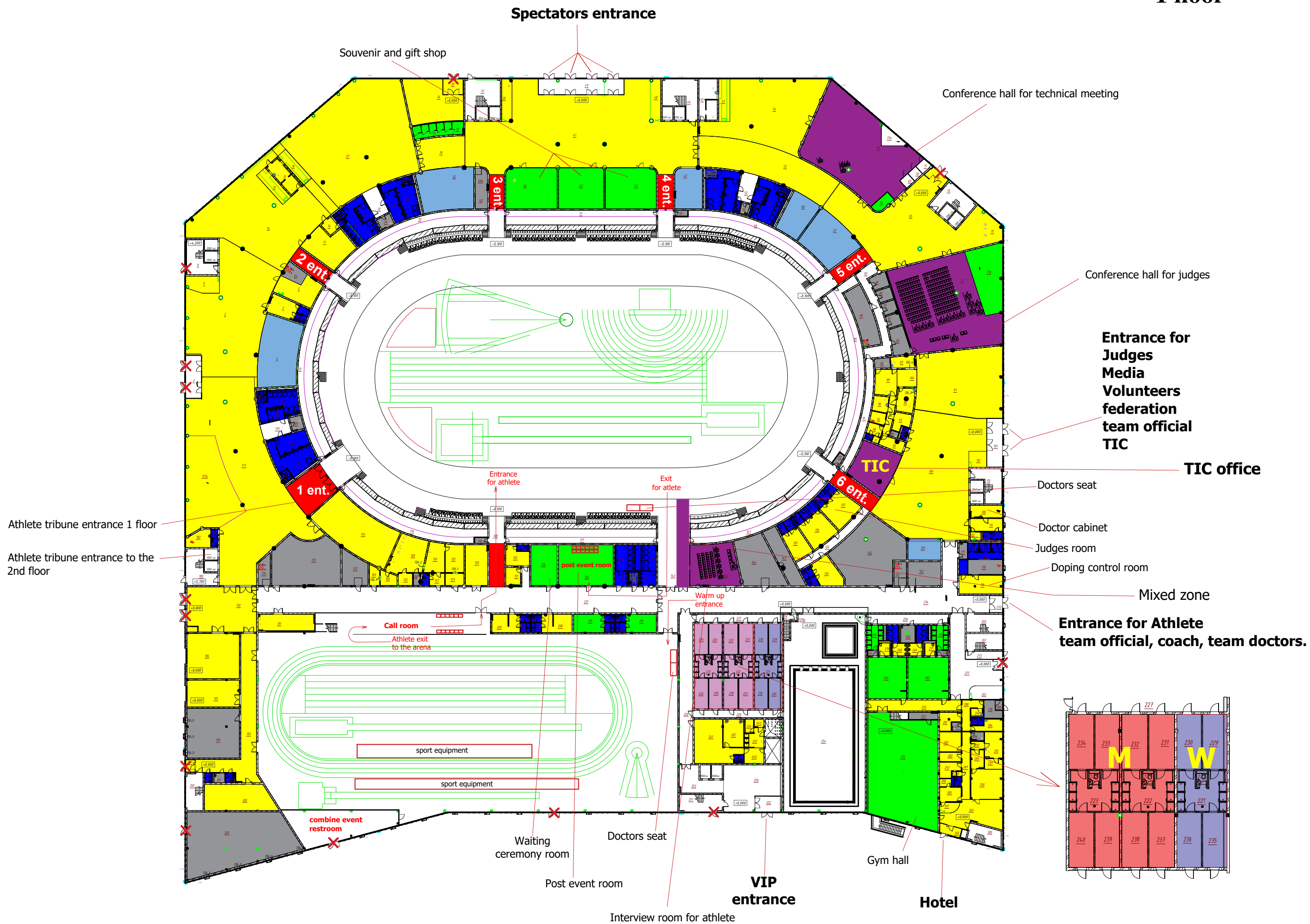
DAY 2 - Saturday, 11 February, Morning			
10:00	60m Hep	M	
10:10	Triple Jump	M	MC
10:20	60m	M	R1
10:40	Long Jump Hep	M	
10:55	4x400m Relay	U	MC
11:05	60mH	W	R1
11:25	60mH	M	R1
12:00	3000m	M	R1
12:10	Shot Put Hep	M	
12:15	Long Jump	W	Q
12:35	800m	W	R1
12:40	High Jump	M	Q

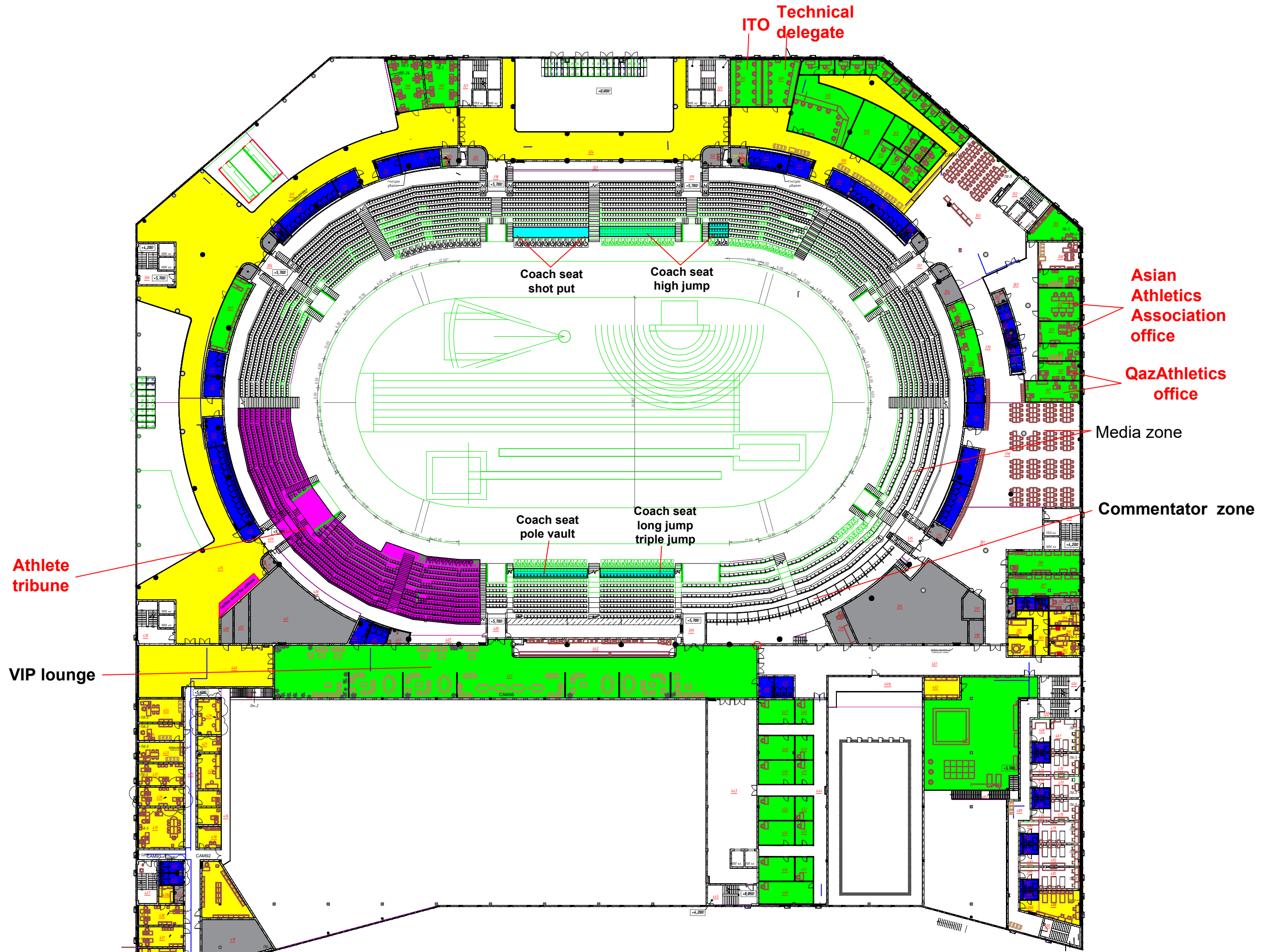
DAY 2 - Saturday, 11 February, Evening			
18:30	High Jump Hep	M	
18:35	Shot Put	W	Final
18:40	60m	M	SF
19:00	Pole Vault	W	Final
19:10	800m	M	SF
19:30	Triple Jump	W	Final
19:35	1500m	W	Final
19:50	1500m	M	Final
20:00	Shot Put	W	MC
20:05	1500m	W	MC
20:15	400m	M	Final
20:30	400m	W	Final
20:35	1500m	M	MC
20:40	400m	M	MC
20:50	60m	M	Final
20:55	400m	W	MC
21:00	Pole Vault	W	MC

DAY 3 - Sunday, 12 February, Morning			
10:00	60mH Hep	M	
10:15	Long Jump	M	Final
10:20	High Jump	W	Final
10:40	Triple Jump	W	MC
10:55	60m	M	MC
11:05	Pole Vault Hep	M	
11:40	Long Jump	M	MC

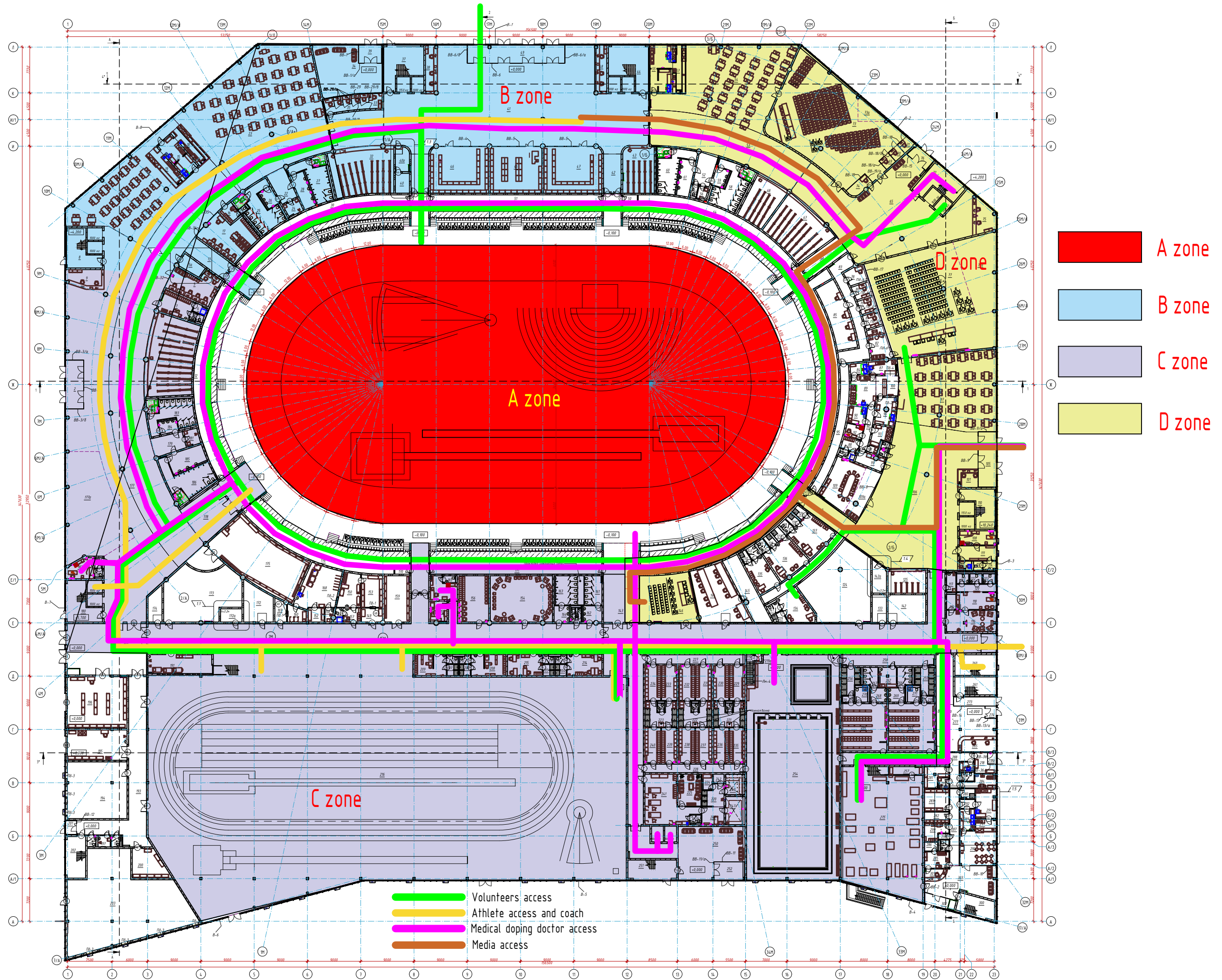
DAY 3 - Sunday, 12 February, Evening			
17:00	4 x 400m Relay	M	Final
17:10	Long Jump	W	Final
17:15	4 x 400m Relay	W	Final
17:25	Pole Vault	M	Final
17:30	High Jump	M	Final
17:35	1000m Hep	M	Final
17:40	High Jump	W	MC
17:45	4x400m Relay	M	MC
17:55	3000m	M	Final
18:10	4x400m Relay	W	MC
18:25	800m	M	Final
18:30	Heptathlon	M	MC
18:50	800m	W	Final
18:55	3000m	M	MC
19:03	800m	M	MC
19:10	60mH	M	Final
19:12	High Jump	M	MC
19:20	60mH	W	Final
19:25	800m	W	MC
19:30	Pole Vault	M	MC
19:35	Long Jump	W	MC
19:40	60mH	W	MC
19:45	60mH	M	MC

1 floor

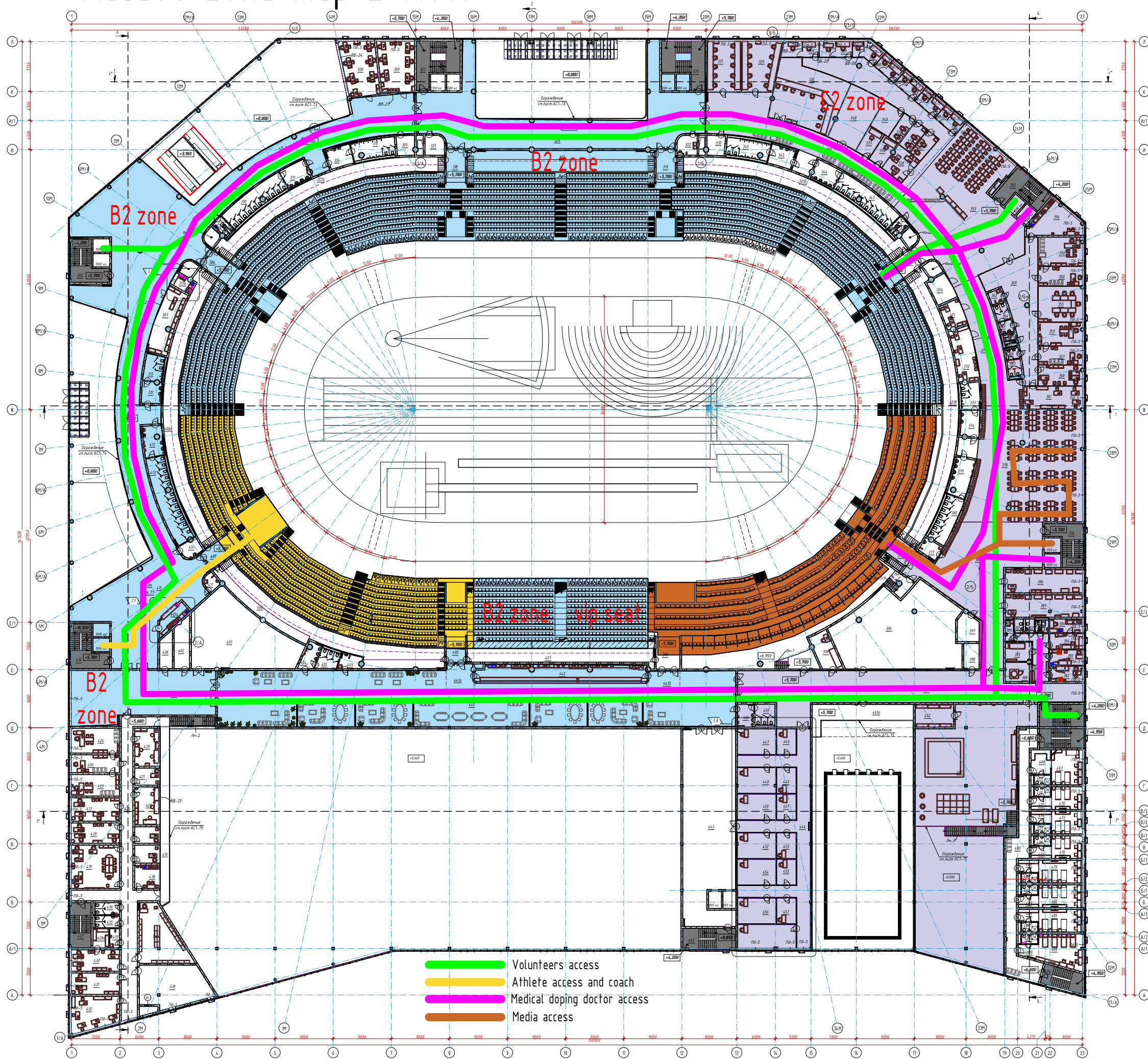




Access zone map 1 floor



Access zone map 2 floor



B2 zone
 C2 zone

- Volunteers access
- Athlete access and coach
- Medical doping doctor access
- Media access

1. 2023 施設用器具委員会関係の規則の改正

(2) 陸上競技場公認に関する細則の改正

別表 2 用器具一覧 変更理由：競技会の実態に合わせて見直し

必備用具

用器具名称		区分	1種	2種	3種	4種	4種L	摘要
合成樹脂製巻尺	30m		2個	1	1	1	1	ファイバー製可
	50m		3個	2	2	1	1	ファイバー製可
	100m		2個	1	1	1	((1))	ファイバー製可

※常備を希望する用器具より移行

常備を希望する用器具

リボンロッド	30m		2個	1	1	1	1	合成樹脂製巻尺で代用可	
	50m		3個	2	2	1	1	合成樹脂製巻尺で代用可	
	100m		2個	1	1	(1)	((1))	合成樹脂製巻尺で代用可	
止金具				200個	100	100	50	50	平かすがい(全天候用)

※必備器具より移行、合成樹脂製巻尺で代用可

必備用具

ストップウォッチ	×	18個	18	18	<u>(レーン数 × 2) + 2</u>	1/100 デジタル式 原則として1年に1回 検査すること
----------	---	-----	----	----	-----------------------	-------------------------------------

※4種、4種Lはレーン数に員数とする

必備器具

写真判定装置	◎	1式	1	(1)	0	0	機器に合わせた写真判定室 原則として1年に1回検査すること。 <u>地元陸協と協議のうえ、連動する記録処理システムを有することが望ましい。</u>
--------	---	----	---	-----	---	---	---

※記録情報システムについて明記

やり検定器		1台	1	(1)	(1)	((1))	
-------	--	----	---	-----	-----	-------	--

※常備を希望する用器具より移行

機動掃除機 <u>又は高圧洗浄機</u>	×	1台	1	1	(1)	(1)	全天候の場合 手動可
-------------------------	---	----	---	---	-----	-----	---------------

※高圧洗浄機も可とする

常備を希望する用器具

情報関連機器		(1式)	(1)	0	0	0	コンピューター、インカム、 <u>有線・無線など通信環境</u> 、電光掲示等
--------	--	------	-----	---	---	---	---

※ファクシミリの削除し、通信環境とする

2. 競技会の派遣について

(1) 技術総務の派遣

- ・ J T Oの業務を補完するため、技術総務の任務について助言提言するため、施設用器具委員会から技術総務を派遣しています。
- ・ 派遣している大会：国体、日本選手権、U16・U18 日本選手権、日本選手権混成、ゴールデングランプリ、インターハイの6 競技会
- ・ 助言する任務は、投てき用具の検査方法、投てき用囲いの設置など安全運用、推奨する技術総務/公式計測員の任務作業内容を主管陸協担当者に指導伝達している。
- ・ 事前に「技術総務確認事項」送付して、競技場の用器具の確認、施設配置、ハードルの設置、角度線、距離線の設置、投てき用器具の検査等について準備をしていただいている。

(2) 国際道路コース計測員の派遣

- ・ 世界記録、アジア記録の認定は、WA 認証コースでなければできません。この場合、競技に先立ち、正式に計測され記録されたとおりのコースであることを確認しなければなりません。（競技規則 CR31. 21. 4）
- ・ 当初のコース計測を行った計測員（A 級、B 級）またはその計測員に指名された者が、競技中に先導車に乗り込み、競技者が同じコースを走っていることを確認しなければなりません。
- ・ 施設用器具委員から国際道路コース計測員の派遣をしています。
- ・ 陸連の主催、後援競技会では国際道路コース計測員の派遣を義務付けております。主催、後援競技会以外で派遣を希望する大会では、陸連に派遣依頼を提出してください。
- ・ プログラムの審判編成には「国際道路コース計測員」としてください。

3. その他の注意事項

(3) 障害物競走等、グループスタートにおける代用縁石の置き方

- ・ 競技規則により、国内の競技場では代用縁石を置くことから、代用縁石を縁石とみなして、トラックの計測は縁石の外側から 300mm の所で計測している。
- ・ 代用縁石を設置する際は、競技場保有の代用縁石の数が不足しているため、1本おきとしていたが、競技規則に従い全線に置く必要がある。
- ・ 競技場の水濠付近の縁石の設置と代用縁石の補充整備を進めている。
- ・ グループスタートラインから 10 m程度は縁石を置かずに、コーンをスタートライン、縁石のはじめ、中間に設置する。後方の選手はこのコーンの間を通過してよい。
- ・ 走高跳、やり投の競技と重複する時には、その部分をあけてコーンを設置する。



スタート付近のコーン設置



やり投助走路のコーン設置

(5) 秤の調整

- 重さは緯度によって影響があります。投てき物を測る秤は、必ず10Kの確認をしてください。持ち込検査で正しく判断できるようにしてください。少なくともシーズン初めには確認をしていただきたい。
- 違っている時には取扱説明書により調整をしてください。



(7) 囲いの安全確保

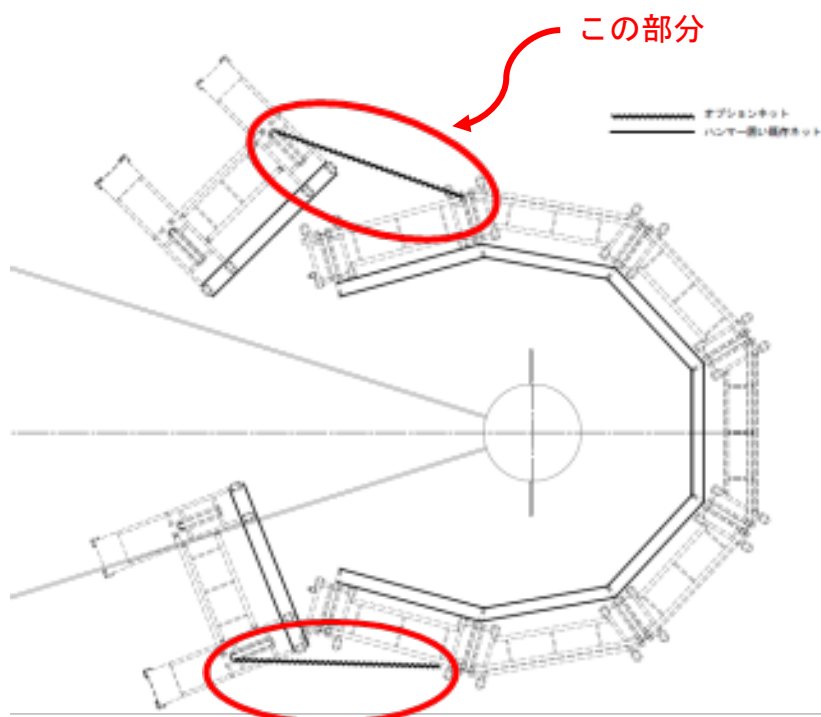
- 昨年8月に実施されたインターハイで、男子ハンマー投げ競技中選手が投げたハンマーが囲いの隙間から外に飛び出し、選手控えテントにあたり落下した。これは、右投げ選手の投てきが終わり、左投げの選手のためにパネルを移動し、また元に戻す作業を繰り返している間に隙間が広がったため起きた。
- WA規格の囲いは本体と前パネルが一体となっており隙間がないが、従来型はどうしても隙間が生じるため、台座部分をかみ合わせ、隙間を最小限にする措置がとられているが、今回のように移動が度重なりと広がる可能性がある。
これを防止するために、補助ネットを張る方法が提案され国体練習会場や、他の大会でも実施されている。このような安全に対する対応が、今後も重要となってくる。



WA規格の囲い



補助ネット設置例(ニシ・スポーツ提供)



ワールドランキングコンペティション
(WRk競技会)について

◎2023年1月からWRk競技会の記録でないとワールドランキング、世界大会の参加資格など
WA記録集計の対象にならない

WAのwebサイトのStatsZone

The screenshot shows the World Athletics website's StatsZone section for the Budapest 2023 Championships. The page features a navigation bar with the World Athletics logo and various menu items. The main content area is divided into three columns: Recent Results, World Rankings, and On this Day. The Recent Results column lists several marathons. The World Rankings column shows the top five women's triple jump results. The On this Day column highlights Kinde ATANAW's record-breaking 10 km road race performance.

World Athletics Partner **TDK** Inside World Athletics Museum Library Sign in

Home News Competitions Athletes Our Sport **Stats Zone** Be Active Better World Shop

Search World Athletics

World Athletics Championships **Budapest23** 19 Aug - 27 Aug 2023 **SEIKO Countdown** 309d 10h 2m 21s

Stats Zone Home Calendar & Results Toplists Records Send Competition Results World Rankings Road To Budapest 23

Recent Results

Events

- South American Games
12 OCT 2022
- EDP Maratona de Lisboa
09 OCT 2022
- Bank of America Chicago Marathon
09 OCT 2022
- Generali München Marathon
09 OCT 2022
- Luso Meia Maratona
09 OCT 2022

SEE FULL LIST

World Rankings

Women's Triple Jump

1.	1517	Yulimar ROJAS	VEN
2.	1401	Shanieka RICKETTS	JAM
3.	1365	Maryna BEKH-ROMANCHUK	UKR
4.	1350	Thea LAFOND	DMA
5.	1344	Tori FRANKLIN	USA

SEE FULL LIST

On this Day

HIGHLIGHTS

Kinde ATANAW

The fastest ever 10 km Road result for men on this day is 27:45 by Kinde ATANAW (ETH) achieved at the Rennes Tout Court in Rennes, FRA in 2013.

◎2023年1月からWRk競技会の記録でないとワールドランキング、世界大会の参加資格など
WA記録集計の対象にならない

<WRKの条件>

- 必ず**事前申請**で**オンライン**による**手続**が必要
 - 遅くとも60日前までに、実施種目、開催場所などを申請しないとイケない
 - 申請料を支払う必要がある
- WRk競技会にするには**WA規則に準拠**していなければならない
 - WA規則に沿った器具の使用、
 - ロードはWA認証のコース検定が必要、
 - 競歩はU20以下を除き、3名以上のIRWJが必要
- 大会終了後**24時間以内**に**記録の報告**が必要
- WAラベル大会、CT、アジアパーミットなどWA、AAAが認証する国際競技会は申請不要
- WRk競技会は一つの競技会のなかでも対象とする種目と対象としない種目に分けることができる
- WRk競技会はWAカレンダーに掲載され、ラベルが付与される



- 申請スケジュール

- WAには60日前までの申請が必要なので23年は下記で運用する
- 申請は各都道府県で取りまとめ、都道府県担当者がまとめて行う
- 学連の競技会は、日本学連が取りまとめる
- WAより23年1、2月の競技会は60日前申請、申請料は適用しない、23年3月の大会より完全適用との連絡あり

	大会開催日	申請期日
1期	2023年1月～3月	2022年12月20日(火)
2期	2023年4月～6月	2023年1月20日(金)
3期	2023年7月～2024年3月	2023年3月20日(月)

申請期日までに詳細が決まらない大会は、決まり次第随時申請(ただしWAの承認が60日前まで)

大会名(英語名称)

大会会場(英語名称)

大会期日

WRk実施種目(年齢カテゴリー+種目名)

大会情報掲載ページURL

大会記録掲載ページURL

大会情報発信ページURL(streaming page情報など)

大会問い合わせ先(メールアドレスなど)

競歩種目実施の場合 IRWJ3名の氏名 など

- 申請料

- 1大会あたりの申請料(4000円)が必要
- 申請料は大会主催者が支払う
- 各期ごとに、各県分を取りまとめて(学連の競技会は日本学連が取りまとめて)本連盟に支払う

競技運営

- WA規則で大会を運営すること
 - 特に記録や計測に関わる部分の適用
 - 計測器具
 - 投てき器具
 - 計測方法 など(WAに承認された器具・方法)
 - ロードはWA認証コース、
 - 競歩はWA認証コース、IRWJ3名以上が必要

100m～800m 写真判定を利用しているか？

計測機器

WAの認定を受けているものを使用しているか？

透過式計測器を使用してもよい。(走幅跳及び三段跳)

→ただし、エリア記録(アジア記録)以上が出た場合は、鋼鉄製巻き尺での再計測・確認が必要となる。

SISの使用は必須ではない。

→ただし、エリア記録(アジア記録)以上が出た場合は、短距離種目は認定されない。

機械式風力計を使用してもよい。

→ただし、エリア記録(アジア記録)以上が出た場合は、認定されない。

競技開始前にゼロコントロールテスト(写真判定機)を実施し、正確性を担保しているか？

競技開始前後に、光波測定器の正確性を担保しているか？

フィールド競技で試技が終了後1回ずつ計測をしているか？

走幅跳及び三段跳で粘土板あるいはビデオによる踏切判定が行われているかどうか？

競技運営

- WA規則通り行われたかを保証するために、
近隣地域や主催者とは無関係の客観的立場の公認審判員を招聘して、
WA規則通りに行われたことを監督する
- 競技会の中でどの種目をWRkに申請するのか、その旨を要項・リザルトに明記する
- スムーズな記録報告を行う

記録報告

- 競技会が開催された24時間以内に、公認記録電子申請により記録報告を行う
- 電子申請には従来より指定の項目のほか、英語種目、英字氏名、生年月日、国籍、などを必要とする

* 英字氏名、生年月日、国籍などの情報は、エントリー時に取得する

2024年以降について

- WAの審判制度が変更になる見通しで、それに合わせてWAの審判資格取得者(Bronze Referee)がWRk対象大会で審判長などを務める
- 申請、報告の手続きなどについては、24年以降変更になる可能性がある

記録の信憑性について

- 記録の信憑性について世界的に課題になっている
- 日本国内でも、ルール通りの運営が行われていないと思われる競技会有一些
- ルール通りに実施されていない競技会をWRk競技会として報告した場合、日本全体として非常に重いペナルティー(監視対象国に指定され、日本選手権、CT大会など以外はWRk競技会に申請できなくなる)を受けることになる
- 記録の信憑性の確保をどのように行っていくかについては、継続して検討していく

Ranking Rules

<https://worldathletics.org/world-ranking-rules/basics>

RESULT SCORE + PLACING SCORE = PERFORMANCE SCORE

2～3（種目によって違う）のポイントの平均となる

メイン種目だけでもいいし、サブ種目のポイントも認められる

メイン種目 + サブ種目（それぞれの種目で指定されている）

競技会におけるユニフォームの形式について① ～アスリート自身がユニフォームを選択できる陸上界へ～

現状と課題

- 近年、迷惑撮影（盗撮）の問題が拡大しており、各競技会における対策やアスリート自身が自らの身を守る意識を持っている。
- 選手の中には、自身の身を守る観点から、「ユニフォームの形式（セパレート・ランパン・スパッツなど）を選択したい」と考えているアスリートが一定数いることがアンケート回答等から分かった。
- ⇒現状、「リレー出場の際には、学校単位（チーム単位）で形式を揃える必要がある」と思い、仕方なく望んでいないユニフォームを着用しているケースがある。
- ルール上は、「**リレー種目において、ユニフォーム形状を統一する必要はない。ただし、デザイン、配色は統一すること。**」ため、**選手個人が形式を選択することができるが、その認識が浸透されていない。**

▼参考

○国体でのユニフォーム着用の変化（2019年→2022年）

【ブルマタイプ】	94%	→	64%
【スパッツタイプ】	6%	→	18%
【選手により選択】	0%	→	18%

※陸連による集計のため、多少の誤差があります。

陸上界に関わる方々のご協力により、2019年から2022年の3年間でユニフォームを選択している選手が増えていることが分かります。

○2022年国体 北海道チームのユニフォーム（例）



選手それぞれがユニフォームの形式を選択しているため、走者により異なるユニフォームを着用してレースに出場しました。

競技会におけるユニフォームの形式について② ～アスリート自身がユニフォームを選択できる陸上界へ～

リレー競技におけるルール

ルールブック P101『TR.5 服装、競技用靴、アスリートビブス』

5.1 『全国的な競技会でのリレー競走においては、チームの出場者は同一のユニフォームを着用する。』

ハンドブック P256 競技者係 実施要領 3.留意点 (5) ①服装

『全国的な競技会でのリレー競走においては、チームの出場者は、ランナーの誤認をなくすために、同一のユニフォームを着用する。（短パン-スパッツの違い等は許容範囲）』

～同一のユニフォームとは～

『**同じチームであることが分れば**、ユニフォームの形式は問わない』。

今後のお願い

陸上界に関わる全ての方々がユニフォームに関するルールを理解して、

アスリートがユニフォームを選択できる『アスリートフレンドリーな陸上界』となるため、競技会に関わる全ての方々にルールの再認識をお願いします。

その他

★レース後の選手退場導線の見直し

ユニフォームのまま競技場内（バックストレートなど）や競技場外を歩くことで、観客と至近距離になり迷惑撮影の被害にあう可能性が上がるため、導線の見直しをお願いします。

★競技場内の巡回

大会の規模や状況によって、競技役員・補助員による競技場内の巡回をいただくことで抑止につながります。



2022年度 JTOs 派遣報告

競技運営委員会

2022年度派遣競技会の状況

(2021年度全国会議以降)

- ・大阪国際女子マラソン
- ・日本選手権20km競歩
- ・京都マラソン
- ・日本選手権クロスカントリー
- ・びわ湖・大阪毎日マラソン
- ・東京マラソン2022
- ・名古屋ウイメンズマラソン
- ・室内日本選手権
- ・全日本競歩能美大会

(2022年度) ~1月28日までの派遣競技会

- ・金栗記念選抜中距離
- ・全日本競歩35km輪島大会
- ・吉岡隆徳記念出雲陸上
- ・兵庫リレーカーニバル
- ・織田記念陸上
- ・木南道孝記念
- ・静岡国際陸上
- ・ゴールデンゲームズinのべおか
- ・水戸招待陸上
- ・日本陸上競技選手権大会10000m
- ・SEIKOゴールデンングランプリ
- ・日本選手権混成
- ・U20日本選手権混成
- ・日本陸上競技選手権大会
- ・布勢スプリント
- ・南部記念
- ・全国高等学校陸上競技選手権大会
- ・実業団・学生対抗陸上競技大会
- ・全日本中学校陸上競技選手権大会
- ・Athlete Night Games in FUKUI
- ・北海道マラソン
- ・富士北麓競技会
- ・日本学生陸上競技対校選手権大会
- ・全日本実業団選手権大会
- ・デンカ・アスレティック・チャレンジ2022
- ・日本選手権リレー
- ・国民体育大会
- ・田島直人記念陸上
- ・U18 / U16陸上競技大会
- ・レガシーハーフマラソン
- ・全日本競歩35km高畠大会
- ・防府読売マラソン
- ・全国中学校駅伝大会
- ・全国高等学校駅伝競走大会
- ・全国都道府県対抗女子駅伝競走大会
- ・全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

報告事例①

男子砲丸投

グライド後、サークル中央に着地した瞬間に手から砲丸が落下してサークル内でバウンドし、足止め材の横を通過して前方に転がり出た。



選手は砲丸を拾いに出てサークルに戻り時間内に試技を行ったが、サークル内でリバースできず無効試技となった。

結果的には無効試技となったが、最初に砲丸が落下した時点で無効試技とするかそれともこの事例のように投げ直しを認めるか。

報告事例①

TR32.14

競技者が試技中につきのこをした時は、1回の無効試技とする。

TR32.14.1

砲丸あるいはやりをTR33.1およびTR38.1で定められた以外の方法で投げた時。

TR32.15

各投てき競技の規則に反しない限り、競技者は一度始めた競技を中断してよい。その上で、用具（投てき物）をサークルや助走路の中でも外でも一旦下に置いてよく、サークルや助走路から出てもよい。

今回の事例では、はっきりとルールに違反しているとは言えない状況のため、無効試技とはしないという判断でも問題ないと考えられる。

報告事例②

女子三段跳

- ・ 3回目の試技中、競技者A, B, Cから着地地点と計測された記録が違うと抗議
- ・ 計測された記録が違うという抗議に対して、確認作業の結果から機器の不具合、記録表示器の設置間違いの可能性より、着地判定の誤りの可能性があることから、審判長は再試技を認めた。この再試技により、競技者A, BはTOP8に入り、7位の競技者D、8位の競技者Eは9位以下に順位を下げた。
- ・ このことに対して、競技者D, Eが抗議を申し立てた。この抗議が審判長を飛び越えて Jury にあがり、Jury は4回目以降の試技を行うことを説明してしまった。このことは現場の審判長、JTOに知らされることはなかった。
- ・ 結局、Jury の決定がルール通りの手順を踏んでおらず、試技を与える決定は誤りであることを伝え、競技者D, Eに謝罪して再度、審判長の説明から30分以内に上訴を行うようにアドバイスした。その結果、再び競技者D, Eは上訴に踏み切った。→裁定は却下

報告事例②

①計測機器の不具合に対処できるような準備を前もって整えておくこと

→計測結果に疑義が生じた場合は即座に確認。その結果、再試技・機器の交換など次に何を行うか素早く判断・行動できるように

②特に大規模大会では抗議・上訴の手順をしっかりと確立・把握しておくこと

→審判長や抗議担当総務、ジユリーはもちろん、現場の競技役員もしっかりと抗議の手順をふまえておくことが大切。TICとの連携も大事。

抗議・上訴の手続きについて〔TR8〕

○競技終了、結果発表



- 当該競技者または代理人が抗議担当総務員（審判長）に説明を求める
(口頭抗議)
- ・ 決勝、および予選・準決勝でも当日に次のラウンドがない場合...30分以内
 - ・ 予選・準決勝で当日に次のラウンドがある場合...15分以内



○抗議担当総務員（審判長）から説明



○説明に納得（結果了承・確定）

抗議・上訴の手続きについて〔TR8〕

説明に納得しなかった場合...

- 上訴申立書に預託金（1万円）を添えて抗議担当総務員に提出（上訴）
 - ・抗議担当総務員（審判長）からの説明より30分以内
（当日に次のラウンドがある場合は15分以内）
- ↓
- ジュリーは関係審判員から事情聴取・資料収集→審議・裁定
- ↓
- 裁定結果を**抗議担当総務員を経て**当該競技者または代理人に伝達
（結果了承・確定）

基本的な流れは上述の通りであるが、事例②のように3回目終了時点までに疑義がある場合は、4回目に入る前に何らかの対応を行う必要があるのではないか。

抗議・上訴の手続きについて〔TR8〕

TR8.5〔国際〕

フィールド種目で、もし競技者が無効試技と判定されたことに対し、直ちに口頭の抗議を行った場合、審判長は疑義があると考えたら、該当する事項を保全するためにその試技を計測、記録させることができる。

TR8.5.1

距離を競う競技種目において、もし抗議に該当する試技が、8人を超える競技者が競技する前半の3ラウンドで発生した場合で、抗議あるいはそれに続く上訴が支持された場合に限り、その競技者はそれ以降のいかなるラウンドへ進むことができる。

審判長は、無効試技の判定に少しでも確信が持てないとき、関連するすべての権利を保全するため、抗議中として競技者に競技継続を認めても良い。

抗議に関して、〔国際〕を適用する場合もあることを競技注意事項に明記するなどして、現場でスムーズに対応できるようにすることも重要

2023年度公認競技会申請 について

公益財団法人日本陸上競技連盟競技運営委員会／委員
カレンダー記録PT 鍋島 太一

スケジュール	内容	
2/6(月) ~2/28(火)	②1次申請	1. 申請用のExcelファイルを作成してください。 2. 下記URLにログインして、 https://athleticfamily.jaaf.or.jp/association/ Excelファイルをアップロードしてください。
3/1(水)~	③追加・変更 中止など	1次申請以降は https://athleticfamily.jaaf.or.jp/association/ にアクセスして追加・変更・中止作業を行ってください。

承認された内容は<https://www.jaaf.or.jp/competition/area/>で一般公開されます
毎日13:00以降に更新されHPに掲載されます。

申請担当者側変更になる際は陸連事務局またはカレンダー記録PTまで連絡をお願いします。

地域陸協・日本学連以外の協力団体のご担当者は、加盟団体が申請した内容を陸連ホームページに
2月21日以降に掲載しますので、その内容を確認して追加、修正などがある場合は開催県陸協に
修正依頼を連絡してください。

②-1 一次申請(Excelファイルを作成する)

学連競技会以外の、自県が主管する全ての公認競技会を申請してください。

全国大会、地域大会も開催県から申請してください。

2022(公財)日本陸上競技連盟公認競技会申請フォーム																			
B-8		C-8		D-9		E-50		F-3G-3 H-4		I-37		J-K-L		M-N-O		P-Q-R			
1(101)北海道		①都道府県を選択してください		②競技場コードを入力してください		例) 4/1 形式で入力		50大会の場合は地域を選択 日本陸連主催大会は全国を選択		高校総体、高校新人、高校駅伝は「高体連」 通信、全中予選、全中駅伝は「中体連」 実業団は「実業団」 日本マスターズ申請大会は「マスターズ」を選択		道外競技(主催が加盟団体・協力団体以外)のみ記入		主催が加盟団体・協力団体以外		緊急医療体制 AED配置台		見舞金補償 制度	
月	日	競技会・行事				競技会コード		会場		競技場コード	地域	協力団体							
		年	種別 コード	大会 コード															
4																			

主催者欄「50」の大会は必ずK列で地域を選択してください
日本陸連主催大会は「全国」を選択してください

各県高体連主催大会は「高体連」
各県高体連主催大会は「中体連」
実業団主催大会は「実業団」
日本マスターズ申請大会は「マスターズ」を選択

一次申請での注意点

本年度の一次申請のみExcelファイルでの申請になります。陸連主催大会・地域・高体連・中体連・マスターズ・実業団の大会の選択を主催する陸協にて必ず選択・申請をお願いします。

月	日	競技会・行事	年 団体 大会			会 場	競技場コード	地域	協力団体
			年	団体 コード	大会 コード				
		日本陸上競技選手権大会	22	50	0100	ヤンマースタジアム長居	271010	全国	
		大阪マラソン・びわこ毎日マラソン統合大会(マラソン)	22	50	1724	大阪マラソンコース	277200	全国	
		関東高等学校陸上競技大会	22	50	1302	(昨年)川崎市等々力陸上競技場	141050	関東	高体連
		東海小学生陸上競技大会	22	50	1609	(昨年)長野県松本平広域公園(陸)	173090	東海	
		東日本実業団陸上競技選手権大会	22	50	4100	(昨年)埼玉県 熊谷スポーツ公園陸上競技場	111020		実業団
		秩父宮賜杯 実業団学生対抗陸上競技大会	22	50	4005	(昨年)神奈川県 レモンガススタジアム平塚	271010		実業団
		※例年高体連の申請には「全国高等学校陸上競技対校選手権大会各都道府県予選会」 や「地区高校新人都道府県予選会、全国高校駅伝都道府県予選会」各都道府県では県大会を以下のように申請ください。							
		神奈川県高校総体	22	14	1001	(昨年)レモンガススタジアム平塚	271010		高体連
		千葉県高校新人陸上競技大会	22	12	1002	(昨年)千葉県総合スポーツセンター(陸)	121010		高体連
		埼玉県 全国高校駅伝大会県予選会	22	11	1003	(昨年)熊谷スポーツ公園			高体連
		※例年中体連の申請には「全日本中学校通信陸上競技大会」							
		全日本中学校通信陸上競技広島県大会	22	50	0184	(昨年)広島広域公園陸上競技場	341020		中体連
		近畿中学校陸上競技大会	22	50	1703	(昨年)神戸総合(運)ユニバー記念(陸)	281080	近畿	中体連
		山形マスターズ陸上競技選手権大会	22	06	0065	(昨年)NDスタジアム山形	061030		マスターズ
		四国マスターズ陸上競技選手権大会	22	50	5017	(昨年/中止)高知県立春野総合(運)(陸)	391010	四国	マスターズ

②-2 一次申請(システムにログインする)

<https://athleticfamily.jaaf.or.jp/association/>

にログインしてください

JAAF
Japan Association of Athletics Federations

日本陸連新エントリーシステム (プロトタイプ)

都道府県陸協 ログイン

メールアドレス

パスワード

ログイン

メールアドレスを入力してください

パスワードを入力してください

②-3 一次申請(Excelファイルをアップロードする)

1. 公認大会申請を選択

2. アップロードを選択

公認大会申請

大分県

年度	状況	Excel申請期間	Excel申請日時	アップロード	編集	確認	Excelダウンロード
2022	確認中	2021-12-01 00:00~2022-02-20 12:00	2022-01-17 19:04:06				
2021	期間外	2021-01-21 00:00~2021-02-28 12:00					

大分県 2022年度

Excelファイル

ファイルを選択 選択されていません

確認画面に進む

3. ①で作成したExcelファイルを選択して「確認に進む」を選択

②-4 一次申請(アップロードした内容を確認する)



1. アップロードされた内容を確認してください

公認大会申請

内容をご確認の上、ページ下の申請ボタンをクリックしてください。

延期 中止 非公開	月	日	競技会・行事	競技会コード	会場	競技場コード	チェック	地域	協力団体	道路競技(主催が加盟団体・協力団体以外)			
										主催が加盟団体 ・協力団体以外	医務員配置	緊急医療体制 AED配置会	見舞金 補償制度
	4	10	第1回春季陸上競技大会	21 44 0310	大分市営陸上競技場	442040	OK	九州	マスターズ				
	4	18	第1回大分市陸上競技記録会兼第1回大分県長距離記録会	21 44 0701	大分市営陸上競技場	442040	OK						
	4	18	第1回日田市陸上競技記録会	21 44 0501	日田市陸上競技場	442020	OK		マスターズ				
	11	13	第8回大分県高校学年別陸上競技大会	21 44 1003	大分市営陸上競技場	442040	OK						
	11	21	第40回大分国際車いすマラソン(マリン/ルーフ)	21 44 0020	大分国際車いすマラソンコース	447030	登録なし			○	有り: 3名以上	有り	
	11	28	第5回県長距離記録会兼都道府県駅伝選考会	21 44 0307	大分市営陸上競技場	442040	OK						
	2	6	第70回別府大分毎日マラソン大会(マリン)	22 50 2003	別府大分毎日長距離競走路	447050	OK	全国		○	有り: 3名以上	有り	
	3	6	2022スプリングチャレンジ陸上inリバスタ	22 44 0315	大分市営陸上競技場	442040	期限切れ						
	3	12	第26回県南陸上競技選手権大会	22 44 0801	佐伯市陸上競技場	443050	期限切れ						

← アップロードをやりなおす

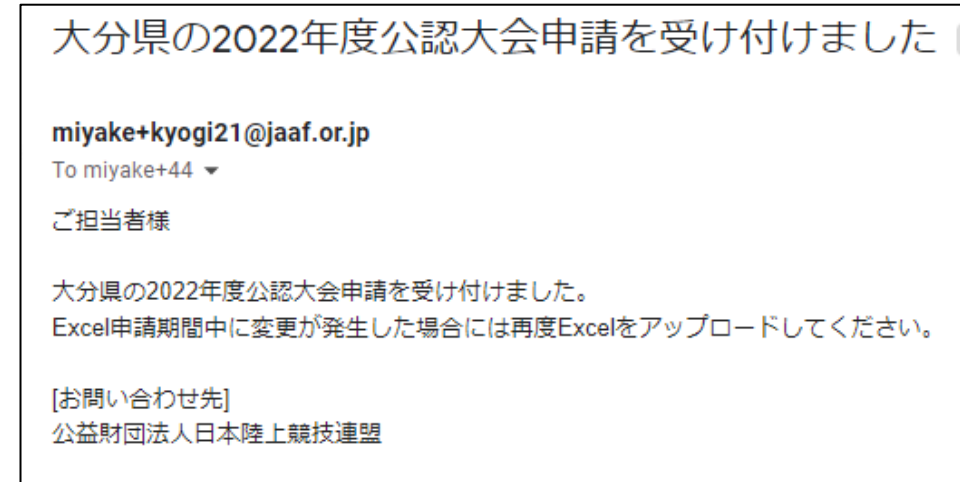
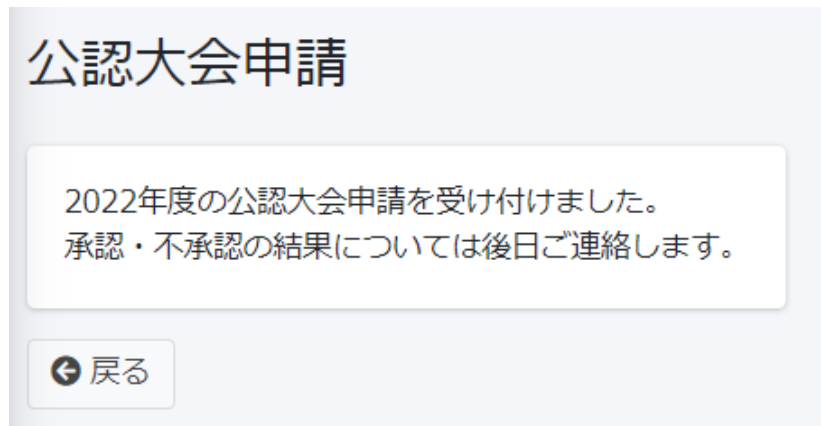
申請する →

2. 競技場の公認期間を確認してください
期間が切れていれば、期限切れが表示されます。
競技場の公認期間が更新された場合自動的に
期限切れが消えます。

3. アップロードした内容で問題なければ「申請する」を
修正がある場合はExcelファイルを修正して、再度アップロードしてください

②-4 一次申請(申請する・承認待ち)

1. 申請が完了すると受け付けたことが表示されます。
また自動返信メールが送信されます。






2. 申請状況のステータスが
「**確認中**」に変わります

年度	状況	Excel申請期間	Excel申請日時	アップ ロード	編
2022	確認中	2021-12-01 00:00~2022-02-20 12:00	2022-01-21 19:14:11		
2021	期間外	2021-01-21 00:00~2021-02-28 12:00			

②-4 一次申請(承認済み)

1. 日本陸連に承認されると申請状況のステータスが「チェック済」に変わります。
また日本陸連からメールが送信される場合があります。

大分県

年度	状況	Excel申請期間	Excel申請日時	アップロード	編集	確認	Excelダウンロード
2022	チェック済	2021-12-01 00:00~2022-02-20 12:00	2022-01-21 19:27:09				
2021	期間外	2021-01-21 00:00~2021-02-28 12:00					




2. 現在の状況をExcelファイルでDLすることができます

③-1 変更・中止・新規大会追加申請(編集ボタン)

1. 1次申請期間が過ぎるとExcelファイルがアップロードできなくなります。

*アップロードボタンが消える

大分県

年度	状況	Excel申請期間	Excel申請日時	アップ ロード	編集	確認	Excel ダウンロード
2022	期間外	2021-12-01 00:00~2022-01-06 12:00	2022-01-21 19:42:12				
2021	期間外	2021-01-21 00:00~2021-02-28 12:00					

2. 1次申請期間後の追加・変更・中止の申請に関しては「編集」機能で申請してください。

こちらのボタンを押してください。

③-2 変更・中止・新規大会追加申請(変更・中止)

1. 変更・中止する大会の「編集」を押してください

編集	延期 中止 非公開	月	日	競技会・行事	競技会コード	会場
編集		4	10	第1回春季陸上競技大会	21 44 0310	大分市営陸上競技場
編集		4	18	第1回大分市陸上競技記録会兼第1回大分県長距離記録会	21 44 0701	大分市営陸上競技場
編集		4	18	第1回日田市陸上競技記録会	21 44 0501	日田市陸上競技場

2. 内容を変更する場合は、記載内容を変更して「変更する」ボタンを押して下さい。

3. 中止の場合は、「中止」を
延期の場合は、「延期」を選択してください。

第1回春季陸上競技大会

月・日	4	10
競技会・行事	第1回春季陸上競技大会	
競技会コード	21	44 0310
会場	大分県	[442040] 大分市営(陸)
地域	九州	
協力団体	マスターズ	
道路競技(主催が加盟団体・協力団体以外)のみ記入 ↓		
主催が加盟団体・協力団体以外		

中止・延期	通常
公開	通常
	中止
	延期

4. 削除の場合は、「一般非公開にする」にチェックしてください。

公開	<input type="checkbox"/> 一般非公開にする
----	-----------------------------------

③-3 変更・中止・新規大会追加申請(新規大会追加)

1. 追加する場合は画面の一番下の

「大会を新規登録する」を押してください

2. 必要な情報を入力して、「追加する」ボタンを押して下さい。

月・日	<input type="text"/>	<input type="text"/>
競技会・行事	<input type="text"/>	
競技会コード	<input type="text"/>	<input type="text"/>
会場	大分県 <input type="text"/>	[441020] 大分スポーツ公園昭和電工ドーム大分 <input type="text"/>
地域	<input type="text"/>	
協力団体	<input type="text"/>	
道路競技（主催が加盟団体・協力団体以外）のみ記入 ↓		
主催が加盟団体・協力団体以外	<input type="text"/>	
医務員配置	<input type="text"/>	
緊急医療体制 AED配置含	<input type="text"/>	
見舞金補償制度	<input type="text"/>	
ステータス		
中止・延期	通常 <input type="text"/>	
公開	<input type="checkbox"/> 一般非公開にする	
<input type="button" value="追加する"/>		

④-1 2022年の途中での運用変更事項

・公認記録の特例措置について

◎特例措置の内容

競技場の特例措置を受けた競技場で、適用期間中（2024.03.31まで）に出された記録は公認記録として扱う、競技場の公認は切れていても記録は公認になる

⇒以下のように○のように事務局側にて入力されるようになった。

2022年度 大阪府

編集	延期 中止 非公開	月	日	競技会・行事	競技会コード	会場	競技場コード	チェック	備考
編集		4	2	高校第3・4地区第1回記録会	22 27 1509	ヤンマーフィールド長居	271040	OK	特例措置適用中
編集		4	2	茨木市陸上競技4月記録会（小中学生）	22 27 0765	万博記念（競）	272040	OK	
編集		4	2	河南陸上クラブ4月記録会	22 27 0771	堺市金岡公園（陸）	272010	OK	
編集		4	3	第1回大阪陸上競技記録会（高校）	22 27 0301	万博記念（競）	272040	OK	
編集		4	3	第1回大阪陸上競技記録会（一般・高校）	22 27 0302	ヤンマーフィールド長居	271040	OK	特例措置適用中
編集		4	9~10	第2回大阪陸上競技記録会兼審判講習会	22 27 0303	ヤンマーフィールド長居	271040	OK	特例措置適用中

④-2 2022年の途中での運用変更事項

- ・事後申請ができなくなった

毎年お願いしている通り、事後申請は（自然災害や新型コロナウイルス感染症）などに伴い競技会日程変更・中止が急に決まり事前の申請ができなかったなどに限り事後申請を許可しております。

例年、主催者側からの連絡漏れなどによる事後申請があり、システム側で事後申請ができなくしております。

**⇒事後申請になる際は理由と開催日程・競技会名・競技会コード・競技場名記載の上、カレンダー記録PT 競技会申請担当者へ連絡をお願いします。
陸連側での修正作業を行います。**

④-3 2022年の途中での運用変更事項

- ・申請について明示化

⇒システム上、着色されて変更箇所が一目瞭然になり陸連側での作業が容易になっております。

中止 非公開	月	日	競技会・行事	競技
	4	17	佐世保市陸上記録会テスト	21
	4	18-19	第1回長崎県陸上競技記録会兼国体予選あああ	21
	4	24	第50回ながさきリレーカーニバル兼国体予選	21
	4	29	第28回自衛隊自衛隊陸上競技選手権	21

関根春幸競技運営委員会副委員長

片岡典子PTサブリーダー（幹事）

鍋島太一PT担当

北海道

青森

秋田

岩手

山形

宮城

福島

群馬

栃木

茨城

埼玉

東京

千葉

神奈川

石川
高山
新潟

福井
長野

岐阜
山梨

愛知
静岡

兵庫
京都
滋賀

大阪
奈良
三重

和歌山

山口

島根

鳥取

広島

岡山

愛媛

香川

徳島

高知

長崎

佐賀

福岡

熊本

大分

宮崎

鹿児島

沖縄

日本学連

競技者がしっかりと
記録を残せるためにも
確実な競技会申請に
御協力をお願いします。

ご清聴ありがとうございました

日本記録申請・記録公認申請について

日本陸上競技連盟
競技運営委員会 岩脇 充司

1. 2022年度に樹立された日本記録の数

○日本記録	男子・・・	9	女子・・・	9	混合・・・	0
○日本タイ記録	男子・・・	0	女子・・・	0		
○室内日本記録	男子・・・	0	女子・・・	2		
○室内日本タイ記録	男子・・・	0	女子・・・	0		
○U20日本記録	男子・・・	4	女子・・・	1		
○U20日本タイ記録	男子・・・	0	女子・・・	1		
○室内U20日本記録	男子・・・	0	女子・・・	0		
○室内U20日本タイ記録	男子・・・	0	女子・・・	0		
○U18日本記録	男子・・・	2	女子・・・	2		
○U18日本タイ記録	男子・・・	0	女子・・・	1		
○室内U18日本記録	男子・・・	0	女子・・・	0		

2022年12月31日までの記録を集計して最も良い記録を日本記録として認定する。

2. 日本記録の追加認定について

追加する日本記録

	種目	記録	氏名	所属	競技日	競技会名	場所
女	25km (女子マラソンの通過)単独	1:22:52	松田 瑞生	ダイハツ	大阪	2020/1/26 第39回大阪国際女子マラソン	大阪国際女子長距離競走路 大阪府
	30km (女子マラソンの通過)単独	1:39:51	松田 瑞生	ダイハツ	大阪	2020/1/26 第39回大阪国際女子マラソン	大阪国際女子長距離競走路 大阪府

追加するU20日本記録

2000mSC	6:35.84	西山 未奈美	松山大	愛媛	2018/7/4	ホクレンディスタンス・チャレンジ第1戦(網走)	網走市営陸上競技場 北海道
---------	---------	--------	-----	----	----------	-------------------------	---------------

2000mSC は 2018 年 12 月 31 日初回認定の後、新たな記録が過去に達成されていたことが判明したため。

3. 日本記録を認める種目について

国際陸連(WA)の世界記録を認める種目追加にともない、日本記録についても追加する。

道路競技 ・男子・女子ともに1マイル(道路)

※記録の初回認定は2023年9月1日とし、男子3分50秒00内、女子4分19秒00以内の記録を公認するものとする。道路競技の1マイルについては、単一の性別者のみが出場したレースの記録を日本記録として認定する。

・女子の競歩競技については、男女混合レース(男女混合)または女子レース(女子単独)のどちらかで達成された1つの世界記録を公認する。

※ルール修正 CR32を参照 (初回認定などに注釈有り)

4. 日本記録の申請について

日本記録申請に必要な資料

CR37より

1. 日本記録がつくられた時には、競技会を統括する加盟団体は本連盟に成績を速やかに連絡し、記録を確認に必要な資料を揃え申請しなければならない。⇒できるだけ速やかに申請する(競技会終了後、一週間をめぐとする)

日本記録は、(a)日本記録、(b)U20 日本記録、(c)U18 日本記録、(d) 室内日本記録、(e)U20 室内日本記録、(f) U18 室内日本記録とする。

このうち、(a)日本記録と(b)U20 日本記録、(c)U18 日本記録は本条日本記録の公認要件を満たしていなければならない。また(d) 室内日本記録、(e)U20 室内日本記録、(f) U18 室内日本記録は、CR31.13 室内世界記録の公認要件に準じる。〔参照 CR31, CR32, CR33, CR34, CR35〕

日本記録申請に必要な資料には、以下のものが挙げられる。

① すべての種目に共通して必要なもの

- ・日本陸上競技連盟新（タイ）記録申請書（用紙 No. JAAF-30A～JAAF-30G）
 - (1) 当該種目
 - (2) 達成記録
 - (3) 風力（追風が問題となる各試技の実施時）
 - (4) 競技者名と所属名（U20、U18 競技者の場合は生年月日も）
 - (5) 競技会の行われた日時
 - (6) 競技会の開かれた場所
 - (7) 競技会名
 - (8) 本連盟の規則が正確に適用されたことの確認（総務と当該審判長の署名）
 - (9) 競歩競技の場合は、判定を行った少なくとも一人の JRWJ の署名
- ・当該種目の予選を含む全記録
- ・日本記録がオリンピック種目の場合は、ドーピングテストを受ける必要あり（U20、U18、室内記録は対象外）
- ・外国における競技会で、日本記録がつけられた時は、それを確認できる記録証明書等。
【競技会参加前に登録証明承認書（海外大会出場用）の提出が必要】
※使用されたシューズがWAが発表しているリストに適合しているかの確認を含めルールに則り競技が行われたことを承認するサインをすること

② トラック競技の場合、①に加えてさらに必要なもの

- ・写真判定が行われた場合は、その記録の判定写真およびゼロ・コントロールテストの写真
※印刷に数値が表示されない機種については画面で確認したものを記入する

③ フィールド競技の場合、①に加えてさらに必要なもの

- ・全記録用紙。申請に用いる成績表は、コンピューターで記録処理を行った競技会にあっては、コンピューターシステムに直結した印刷装置で出力した記録表もしくは、その記録表をもとにして製版印刷された記録表を使用することができる。
科学測定を行った場合は、確認を行った全員のサインが入った適合確認書の添付。
※フィールド記録用紙は一眺、一投ごとに計測した記録を記入すること

④ 投てき競技の場合、①③に加えてさらに必要なもの

- ・使用した投てき物の試技後の検査（技術総務等確認者のサイン）
※確認者は申請書 E・F にあるサイン欄にサインをする

※日本記録 CR37.5⇒CR31.14.3⇒TR17.9 で日本記録については、非機械式風向風力計の使用は義務づけていない（国際大会及び世界記録・アジア記録の申請には超音波風速計の使用が必要である）。

※同様に CR37.5 で CR31.14.5 は公認条件として求めている。

⇒日本記録公認には、スタート・インフォメーション・システムの使用は求めている（世界記録・アジア記録には必要である）。

日本記録申請に関する留意事項

①まず、日本陸連に一報を入れる。

② 必要書類を整える。

※注意を要する点①

○ハードル競技

インターバルが同じ場合、高さが不利になる競技で出された記録は年齢の低いクラスでの日本記録となる。

例 1) U18 の競技者が、年齢の高い規格の競技に出場し、U18 の日本記録を超えた場合は年齢の低いクラスでの日本記録となる。（シニアの競技に出場した場合も同様）

110mH の例（インターバル=9.14m）

	シニア	U20	U18
高さ	1.067m	0.991m	0.914m

※注意を要する点②

○投てき競技

重さが不利になる競技で出された記録は年齢の低いクラスでの日本記録となる。

例2)砲丸投でU18の競技者が6kgの砲丸でU18(5kg)の日本記録を超えた場合は
U18日本記録として認める。

※その他の投てき競技も同様

③ U20、U18日本記録および日本タイ記録については生年月日をしっかりと確認する。

○アンダー18(U18)男子・女子：競技会が行われる年の12月31日現在で
16歳あるいは17歳の競技者

○アンダー20(U20)男子・女子：競技会が行われる年の12月31日現在で
18歳あるいは19歳の競技者

〔国内〕 国内のU18、U20競技会では年齢区分の下限は設けない。

※ルールブック TR3 年齢と性別

5. 記録の公認申請について

CR37.8 公認記録より

加盟団体は、主催、共催あるいは所管した競技会の成績表(トラック種目とリレー種目の予選・準決勝・決勝記録表、各フィールド種目の記録表、混成競技記録表等)各1部を競技会終了後、できるだけ速やかに申請する(競技会終了後、一週間をめどとする)

次年度より登録システムが変わります。個人のマイページが作成され、競技者が自身の記録を確認できるようになる予定です。そのためには速やかな記録の申請が必要となります。また、紙の申請ではなく、電子申請をできるだけ使用しての申請が求められます。各競技会を開催する団体に周知するようお願いいたします。

※ハンドブック P48 「公認記録申請の方法」を参照

JAAF が定めている記録用紙の改訂について

競技カレンダー・記録 PT

1. 競歩審判集計表(JAAF-07)

① 集計表内の用語を修正しました。

Pit Lane → Penalty Zone

Enter → Entry Time

Exit → Enter Time

② 集計表下の失格理由の規則条文番号を修正しました。

例： KI : 230 条 7a(ロス・オブ・コンタクト/Loss of Contact)

→ KI : TR54.7.1 (ロス・オブ・コンタクト/Loss of Contact)

③ いずれも用紙の内容・様式に変更はないため、2022 年 9 月に改訂版としてリリース済みです。

2. (案)科学計測装置確認書(JAAF-37)

2023 年度からの規則改正に伴い、競技終了後の確認欄を作りました。(別資料参照)

2022 年度全国会議を経て、リリースとなります。

以上

科学計測装置確認書

EDM / VDM

※どちらかに○をつける

種 目

実施日 年 月 日

競技開始前確認時刻 :

計測ポイント	A	B	C	その他の場所
科学計測装置				
鋼鉄製巻尺				

(単位:m)

競技終了後確認時刻 :

計測ポイント	A	B	C	その他の場所
科学計測装置				

(単位:m)

略図(踏み切り板・投てきサークル・投てきスタートラインを左側として計測ポイントをスケッチする)

審判長

科学計測員主任

計測担当者

J T O

* EDM : 電子光学距離測定装置

* VDM : ビデオ距離測定装置

(JAAF-37. 2023/03)

全国競技運営責任者会議

2023.2.12

**競技会における広告および
展示物に関する規程
— マラソン・駅伝・競歩 —
規程に従って運営するために！！**

競技運営委員会 広告PT

道路競技〔マラソン・駅伝・競歩〕 主催／主管 にあたって

事前

- ①大会要項 競技注意事項への、「競技用の衣類 / その他のアパレルに関する規程」の記載を！
 - * 場合によっては、「広告規程」の特別連絡も！！
 - * WAツアー競技会では、〔国際〕ガイドライン適用

事前/当日

- ②商標に関するチェック体制を整えて！！
 - ◇： 招集場所〔 事前会場 ・ 各中継所 〕
 - ◇： 商標に関するチェック項目の整理

道路競技〔マラソン・駅伝・競歩〕 主催／主管 にあたって

大会要項や競技注意事項に謳った事項の 履行のため
事前/当日

②商標に関するチェック体制を整えて！！

◇： 招集場所〔 事前会場 ・ 各中継所 〕

＊担当する競技役員 競技者係/点呼担当

◇： 商標に関するチェック項目の整理

②商標に関するチェック体制を整えて！！

【C7.4 16】 大会での実施

◇： 招集場所
〔 事前会場 ・ 各中継所 〕

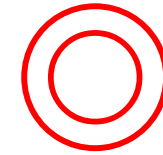
* 担当する競技役員
競技者係／点呼担当

②商標に関するチェック体制を整えて！！

◇： 商標に関するチェック項目の整理

チェックポイントNo1

競技用のユニフォーム



国内大会例（クラブチーム・個人用）



所属団体名/ロゴ

- ・上衣は前後に1つずつ
- ・下衣は1つのみ
- ・上衣後ろは高さ4cm、他は5cm
- ・それぞれ長さは問わない

スポンサー名/ロゴ

- ・上下1つずつ
- ・上下全く同一のものでなければならない
- ・40cm、高さ5cm

製造会社名/ロゴ

- ・上下1つずつ
- ・40cm、高さ5cm

製造会社

スポンサー

所属団体

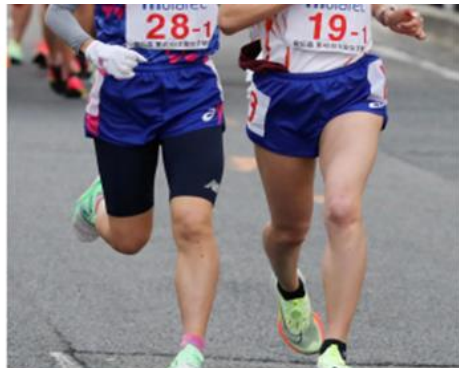
チェックポイントNo2 競技用のユニフォームの 注意点



スパッツ：

装飾的なデザインマークの幅は着用時

10cm以内で、アルファベット他、文字は 不可



ランパンとスパッツの重ね履き

双方に 製造会社名/ロゴが掲出されているケース

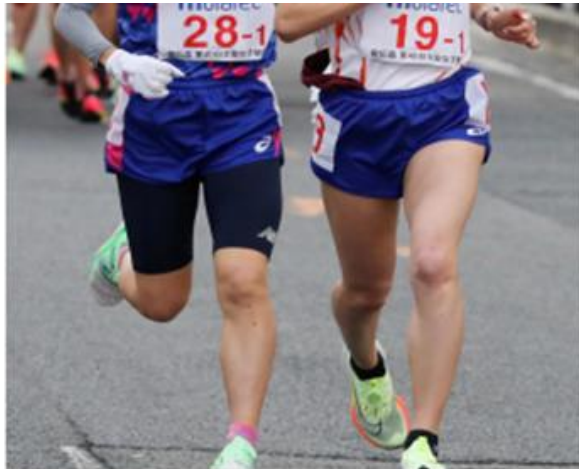


ランパンとスパッツの重ね履き

双方に 製造会社名/ロゴが掲出されているケース

優先事項

主催者提供ユニフォーム/提供スポンサーの保護



* この場合は、黒スパッツのロゴのマスキング！

チェックポイントNo3

その他のアパレル



漏れが目立つ！！

手袋

帽子

ヘッドバンド

ソックス類

アームウォーマー
レッグウォーマーなど

メガネおよびサングラス

製造会社名/ロゴ

6cm²- 最大高さ3cm

*メガネ・サングラスは2つ表示できる。

所属団体名/ロゴまたは、学校名/ロゴ

〔所属団体名/ロゴ〕または〔学校名/ロゴ〕を1つ/一箇所 表示できる。
〔所属団体名/ロゴ〕：6cm²まで
〔学校名/ロゴ〕：大きさの制限なし

チェックポイントNo3-1

『その他のアパレル』には、スポンサー名/ロゴや、製造会社の装飾的なデザインマークは掲出できない

靴下、ヘッドギア、帽子、ヘッドバンド、手袋、アームバンド、メガネ、サングラス、アームウォーマー、レッグウォーマー etc

- ・ 製造会社名/ロゴ： 1つ/一箇所 6 cm² (高さ 3 c m) まで
- ・ 所属団体名/ロゴまたは 学校名/ロゴ： 1つ/一箇所

所属団体名/ロゴ： 6 cm² まで 学校名/ロゴ： 大きさの規制なし

チェックポイントNo3-2

『アームウォーマー』には、
装飾的なデザインマークは
掲出できない！！



製造会社名/ロゴは、6 cm²以内〔高さ最大3 cm〕

競技会当日に違反とされるアパレル他

- 参考資料

- * 関東学連の取り組みから

箱根駅伝予選会・本大会出場大学から

使用が予想されるウェア、アパレル等を撮影し、申告させ
事前チェックを行った。

事前配布資料からの質問 No.1

Q：箱根.駅伝の事例がありますが商標の大きさもわかりづらく赤バツとそうでないものの区別がわからない。

A：「このような『その他のアパレル』を事前にチェックした」例です。「✕」表示のものは、現在、規程違反と確認できているものです。
「✕」がついていないものも、現地で、サイズ等確認をしました。



6 cm²以内違反



着用時 6 cm²以内 / 装飾的なデザインマーク不可

6 cm²以内違反/高さ 3 cmまで違反



その他着用物

※帽子・手袋・アームウォーマー・ベルト等



6 cm²以内違反



その他着用物

手袋・アームウォーマー等

6 cm²以内違反





ロゴ『*a*』の他に、
商品スローガン：『LIVE IN THE MOMENT』掲出



製造会社名/ロゴ 2 個及び、
40cm² 違反



製造会社名/ロゴ
40cm² 違反



6 cm²以内 違反



ロゴ『*a*』の他に、
商品スローガン：『LIVE IN THE MOMENT』 掲出



6 cm²以内違反



6 cm²以内違反 / 2 個



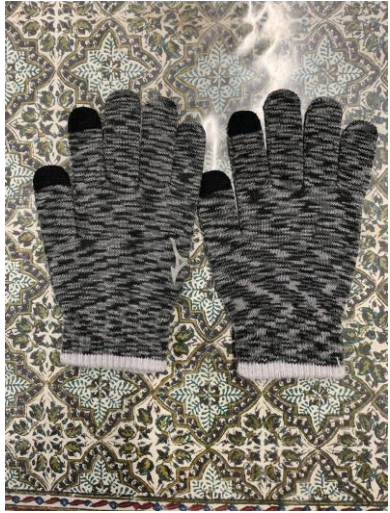
ユニフォーム以外の着用物すべて

(帽子・手袋・アームウォーマー・レッグウォーマー・サングラスなど)



その他着用物

※帽子・手袋・アームウォーマー等



* 『2XU』（ツータイムズユー）について、規程〔40cm²以内〕をクリアした商品も販売されてきた。
あくまでも**着用時のサイズ**で。



道路競技〔マラソン・駅伝・競歩〕 主催／主管 にあたって

- ①大会要項 競技注意事項への、「競技用の衣類 / その他のアパレルに関する規程」の記載を！
 - * 場合によっては、「広告規程」の特別連絡も！！
 - * WAツアー競技会では、〔国際〕ガイドライン適用
- ②商標に関するチェック体制を整えて！！
 - ◇： 招集場所〔 事前会場 ・ 各中継所 〕
 - ◇： 商標に関するチェック項目の整理

道路競技〔マラソン・駅伝・競歩〕 主催／主管 にあたって

- ①大会要項 競技注意事項への、「競技用の衣類 /
その他のアパレルに関する規程」の記載を！

大会要項

競技規則

20XX年度・・・「日本陸上競技連盟競技規則」及び「競技会における広告および展示物規程」による。

『**競技会における広告および展示物規程に定める〔国内〕（１）から（５）の競技会の場合、下線部を入れる**』

『**2023－2024ハンドブック**』に記載例を掲載予定です。

●競技規則	202X年度日本陸上競技連盟競技規則および、 競技会における広告および展示物規程 による。
●競技場内で着用できる衣類と持ち込める物品について	<p>競技会における広告および展示物規程により、競技場内で着用できる衣類等に掲出できる製造会社名/ロゴ、スポンサー名/ロゴの大きさ、数については下記の様になっている。 事前に確認しておくこと。違反した場合にはテープ等でマスキング処置を行う。</p> <p>〈アスリートキット〉</p> <p>(1) 競技用の衣類（トップス、ベスト、パンツ、レギンスなど）、ウォームアップ用の衣類、セレモニーキット、トラックスーツ、Tシャツ、スウェットシャツ、スウェットパンツ、レインジャケット</p> <p>○上衣 下衣〔それぞれ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造会社名/ロゴ：1つ/一箇所 40cm²（高さ5cm）まで ・スポンサー名/ロゴ：1つ/一箇所 40cm²（高さ5cm）まで ・所属団体名/ロゴまたは学校名/ロゴ：〔所属団体名/ロゴ〕 上衣 前後 各一箇所 *長さは問わないが、高さは前：5cm、後ろ：4cmまで 下衣 一箇所 *長さは問わないが、高さは5cmまで 〔学校名/ロゴ〕 上衣・下衣 大きさの規制なし <p>(2) 競技者が着用するあらゆる<u>その他のアパレル</u>（靴下、ヘッドギア、帽子、ヘッドバンド、手袋、アームバンド、メガネ、サングラス、アームウォーマー、レッグウォーマー etc）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造会社名/ロゴ：1つ/一箇所 6cm²（高さ3cm）まで *メガネおよびサングラスについては、製造会社名/ロゴを二箇所掲出できる ・所属団体名/ロゴまたは学校名/ロゴ：1つ/一箇所 〔所属団体名/ロゴ〕 6cm² まで 〔学校名/ロゴ〕 大きさの規制なし <p style="color: red;">*その他のアパレルには、スポンサー名/ロゴや、製造会社の装飾的なデザインマークは掲出できない。</p> <p>〈個人の所有物およびアクセサリ〉</p> <p>(1) タオル バッグ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造会社名/ロゴ：1つ/一箇所 40cm²（高さ5cm）まで ・スポンサー名/ロゴまたは競技者名/競技者個人のハッシュタグ：2つ/二箇所それぞれ40cm²（高さ5cm）まで <p>*バッグについては、スポンサー名/ロゴのうち1つ/一箇所を、次のいずれかに変更できる 〔所属団体名/ロゴ〕 長さは問わないが高さは5cmまで 〔学校名/ロゴ〕 大きさの規制なし</p> <p>(2) 飲料ボトル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドリンクの提供者、製造会社、および（または）アスリートスポンサー名/ロゴ：2つ/二箇所それぞれ40cm²（高さ5cm）まで <p>*ペットボトルを持ち込む場合はラベルをはがすこと。</p>

道路競技〔マラソン・駅伝・競歩〕 主催／主管 にあたって

事前

①大会要項 競技注意事項への、「競技用の衣類 / その他のアパレルに関する規程」の記載を！

*** 場合によっては、「広告規程」の特別連絡も！！**

*WAツアー競技会では、〔国際〕ガイドライン適用

事前/当日

②商標に関するチェック体制を整えて！！

◇： 招集場所〔 事前会場 ・ 各中継所 〕


◇： 商標に関するチェック項目の整理

現場での対応

【C7.4】 競技者に対する 違反と救済処置


競技用の ユニフォーム

- ・ スポンサー名/ロゴ 違反 :

『**嚴重注意**』  次回以降、参加が認められない可能性を指摘。


* 可能なら改善処置を！ 無理な場合は そのまま。

- ・ 重ね着、重ね履きにかかる違反 :

『**改善指導**』  マスキング or どちらか1枚の着用

その他のアパレル

- ・ 製造会社名/ロゴ、装飾的デザインマーク 違反 :

『**改善指導**』  着用しない or マスキング or 裏返し

バッグやシューズ袋他、一切を配付袋に入れさせる例もある！

事前配布資料からの質問 No.2

Q：東京マラソンのような何千人、何万人規模の大会の対応は？

A：マラソンについては、

- ・ **ワールドアスレチックラベルロードレース**（東京など）

＊ **WAガイドライン** 適用

- ・ **ジャパンマラソンチャンピオンシップシリーズ**

＊ **国内ガイドライン** 適用

◇いずれも、『**該当カテゴリー 部門**』 出場者が対象。
上記以外、一般的な、大規模市民マラソンは想定していないが、大会要項・競技
注意事項等に「広告規程適用」と謳った場合は、同様をお願いしたい。

また、**招待選手**がいる場合は、事前に 招待選手に 国内ガイドラインをご案内
いただきたい。

☆ **エリート競技者**には、**厳格に適用を！！**

《想定質問》 WRk

Q:トラック & フィールドも含め、WRk 対象競技会での、『広告規程』の扱いは？

- **下記以外の競技会**

 - * **国内** ガイドライン 適用

- **WAラベル大会、CT（コンチネンタルツアー）、アジアパーミットなどの国際競技会**

 - * **WA** ガイドライン 適用

広告展示物規則検討PTから

お知らせ

アスリートビブス

(含 セレモニービブス) 作成に関して

広告規程C7.4 8.2 の誤訳訂正に伴う、
WA規則TR5[国内]との齟齬

C7.4 8.2 * 359頁

〈原文〉

- The height of the Athlete identification on the Bibs shall be not more than 6cm. The identifications shall be easily visible.

〈現在〉

- 競技者識別表示の高さは6cm以上とし、見やすいものとする。

〈変更〉 ※誤訳の訂正

- 競技者識別表示の高さは6cmを超えてはならず、見やすいものとする。

競技規則 TR 5 アスリートビブス（ビブス） * 104頁

〔国内〕

- i アスリートビブス（ビブス）は、各人に4枚を交付することが望ましい。
- ii アスリートビブス（ビブス）の大きさは、横24cm以内×縦16cm以内とし、個人を識別する文字や数字等の大きさは縦最低6cm～最高10cmとする。腰ナンバー標識は12cm×18cmを標準とする。
- iii アスリートビブス（ビブス）上部の広告（スポンサー名）は、縦6cm以内、横24cm以内とする。
- iv アスリートビブス（ビブス）の広告は、男女別および種目別に分けることができる。
- v アスリートビブス（ビブス）の下部の大会名等は、縦4cm以内とする。
- vi アスリートビブス（ビブス）の広告を含め、競技者がアスリートビブス（ビブス）を切ったり、曲げたり、文字を隠したりした時は、出場停止にすることができる。

広告規程C7.4 8.2 の誤訳訂正に伴う、 WA規則TR5〔国内〕との齟齬

- 2019ルールブックまで第143条〔国内〕（ビブスサイズは横24cm×縦20cm）で、広告規程では最低6cm、最大10cmとされていた。
- 2021ルールブック以降、ビブスの縦が縮小（16cmに）されたが、TR5（旧143条）の〔国内〕の最高値（10cm）が残り、広告規程側で広告表示の縦幅を指定するにあたり、整合性を図るため。

* 本来、ビブスの縦幅がWAで変更された際、TR5〔国内〕最低6cm～最高10cmについてと、広告規程C7.4 8.2 を併せて検討しなければならなかった。

広告を掲出するアスリートビブスの作り

競技規則TR 5〔国内〕 ii の修正

<p>TR5 〔国内〕</p>	<p>ii アスリートビブス (ビブス) の大きさは、横 24 cm 以内×縦 16 cm以内とし、個人を識別する文字や数字等の大きさは縦最低 6cm～最高 10cm する。腰ナンバー標識は 12cm×18cm を標準とする。</p>	<p style="text-align: center; color: red;">(国内競技会におけるアスリートビブスの作り)</p> <p>ii アスリートビブス (ビブス) の大きさは、横 24 cm 以内×縦 16 cm以内とする。個人を識別する文字や数字等の大きさは、競技会における広告および展示物に関する規程参照。腰ナンバー標識は 12cm×18cm を標準とする。</p>
<p>TR5 〔注意〕</p>	<p>iii アスリートビブス (ビブス) 上部の広告 (スポンサー名) は、縦 6 cm以内、横 24 cm以内とする。</p> <p>iv アスリートビブス (ビブス) の広告は、男女別および種目別に分けることができる。</p> <p>v アスリートビブス (ビブス) の下部の大会名等は、縦 4 cm以内とする。</p> <p>vi アスリートビブス (ビブス) の広告を含め、競技者がアスリートビブス (ビブス) を切ったり、曲げたり、文字を隠したりした時は、出場停止にすることができる。</p>	<p>(詳細は広告および展示物に関する規程参照)</p>

C7.4 8 アスリートビブス

* 追記修正

8.1 ビブスの最大の…。

8.2 競技者識別表示の高さは**6cmを超えてはならず**、見やすいものとする。

8.3 競技会の種目ごとに…。

8.4 競技者識別表示より上の…。

8.5 競技者識別表示より下の…。

〔国内〕 競技者識別表示より…。

8.6 ビブスは、競技役員が…の視認性を最大限確保できる……よう印刷……ならない。

〔国内〕

i **上部の広告は、高さ 6 cm以内とする。**

ii **下部の広告や大会名等は、高さ 4 cm以内とする。**

iii **広告を表示しない場合は、空いている余白を競技者識別表示に使用してもよい。**

8.7 ビブスとビブスの番号 (…) …。

8.8 種目ごとに異なる…。

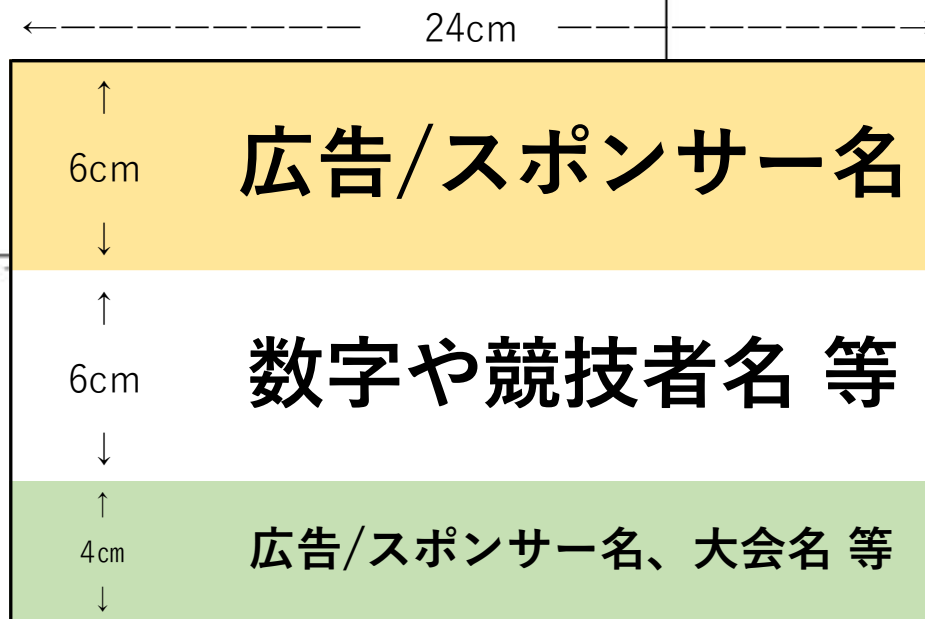
〔国内〕 駅伝競走…。

広告を掲出するアスリートビブスの作り

<p>TR5 〔国内〕</p>	<p>ii アスリートビブス（ビブス）の大きさは、横 24 cm 以内×縦 16 cm 以内とし、個人を識別する文字や数字等の大きさは縦最低 6cm～最高 10cm する。腰ナンバー標識は 12cm×18cm を標準とする。</p>	<p>ii アスリートビブス（ビブス）の大きさは、横 24 cm 以内×縦 16 cm 以内とする。個人を識別する文字や数字等の大きさは、競技会における広告および展示物に関する規程参照。腰ナンバー標識は 12cm×18cm を標準とする。</p>
<p>TR5 〔注意〕</p>	<p>iii アスリートビブス（ビブス）上部の広告（スポンサー名）は、縦 6 cm 以内、横 24 cm 以内とする。 iv アスリートビブス（ビブス）の広告は、男女別および種目別に分けることができる。 v アスリートビブス（ビブス）の下部の大会名等は、縦 4 cm 以内とする。 vi アスリートビブス（ビブス）の広告を含め、競技者がアスリートビブス（ビブス）を切ったり、曲げたり、文字を隠したりした時は、出場停止にすることができる。</p>	<p>（詳細は広告および展示物に関する規程参照）</p>

競技規則TR 5〔国内〕

広告規程
C7.4 8
〔国内〕



〔国内〕

アスリートビブス 作成に関して

実質の変更はありません！

←----- 24cm ----->

↑
6cm

広告/スポンサー名

↓

↑
6cm

数字や競技者名 等

↓

↑
4cm

広告/スポンサー名、大会名 等

↓

新コラム「写真判定を見やすくする工夫」

TR19.14 カメラが正しく設置されていることを確認するために、また、写真判定画像が読み取りやすいようにするために、レーンラインとフィニッシュラインの交差部分は適切なデザインで黒く塗る。そのようなデザインは当該交差部分のみに施し、フィニッシュラインのスタートラインに近い方の端から向こう側に 20 mm 以内にとどめ、手前にはみ出してはならない。記録をより読み取りやすくするため、レーンラインとフィニッシュラインの交差部分の両側に同様の黒マークを置いてよい。



●判定画像の明瞭化

写真判定は、レンズに入る光量により画像鮮明度が変わるため、フィニッシュラインとレーンとの交点の状態は常に良好にして、判定に支障をきたさないようにしておく。

レーンとの交点に反射の少ない黒色のテープを図のように貼り付けると判定しやすい画像を得られる。

逆光時には、フィニッシュラインすべてが反射しフィニッシュラインとレーンの境目が見づらいことがあるので、交点には、T字のテープを貼り付けるとよい。

Finish line preparation

- ▶ Glossy marks will reflect light and can be difficult to see.
- ▶ An inverted "T" will help stop reflections.



以下は東京 2020 OLYMPIC 時のフィニッシュラインの様子



T字状に黒色テープが貼られていることがわかる

実際の判定写真



光の反射を抑え、ラインが画像上にくっきり浮かび上がる。

4レーンと5レーンの間は交差部分にテープを貼らずに分けて2本貼ることで内側のレーンと外側のレーンが明確に区別でき、長距離レースで周回遅れなどもしっかり区別できる。



図のように黒のテープをT字が逆になるように貼り付けるとよい。

審判ハンドブック改定内容

- 「競技会における広告展示物に関する規程」の項目を立ち上げた
- 各種コラムを充実させた

写真判定を見やすくする工夫

- TR19.14 カメラが正しく設置されていることを確認するために、また、写真判定画像が読み取りやすいようにするために、レーンラインとフィニッシュラインの交差部分は適切なデザインで黒く塗る。そのようなデザインは当該交差部分のみに施し、フィニッシュラインのスタートラインに近い方の端から向こう側に20mm以内にとどめ、手前にはみ出してはならない。記録をより読み取りやすくするため、レーンラインとフィニッシュラインの交差部分の両側に同様の黒マークを置いて

いてもよい



判定画像を明瞭化するために

- レーンとの交点に反射の少ない黒色のテープを図のように貼り付けると判定しやすい画像が得られる。

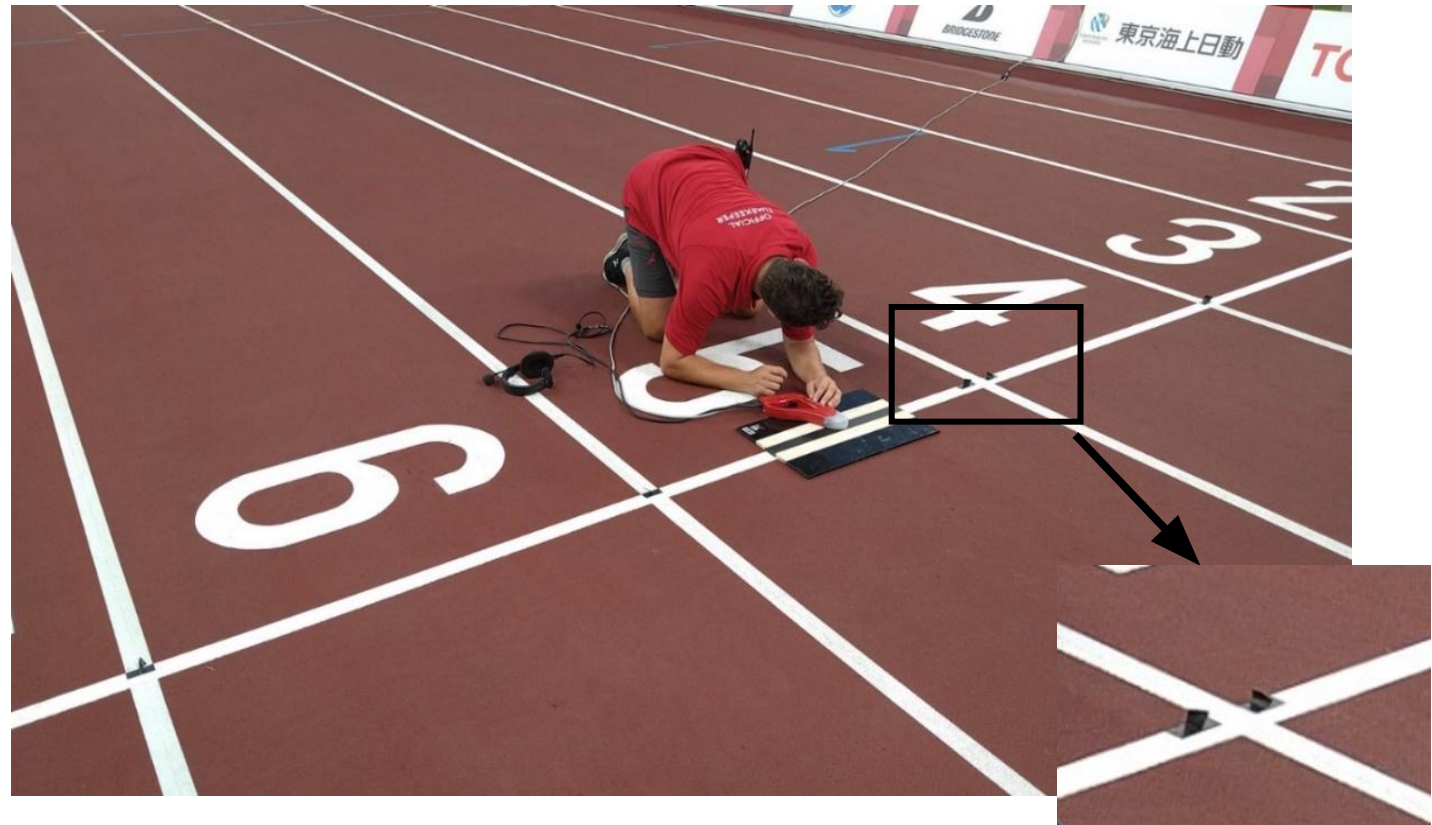
Finish line preparation

- ▶ Glossy marks will reflect light and can be difficult to see.
- ▶ An inverted "T" will help stop reflections.



判定画像を明瞭化するために

- 逆光時には、フィニッシュラインすべてが反射しフィニッシュラインとレーンの境目が見づらいことがあるので、交点には、T字のテープを貼り付けるとよい。



実際の判定写真



2023年度S級公認審判員昇格候補者

2023/2/18

都道府県名	申請者数	昇格者数	昇格者名						
1 北海道	6	6	石田 白文	伊藤 浩紀	竹林貴久夫	大熊 修一	今井 淳次	氏家 洋一	
2 青森	1	1	甲田 義人						
3 岩手	2	2	及川 松男	千葉 正男					
4 宮城	5	4	金澤 裕樹	齊藤 俊雄	佐藤 秀喜	松崎 義昌			
6 山形	3	3	阿部 健一	阿部 孝	阿部 周				
7 福島	15	15	鎌田 由人	水竹 信子	平子 宗司	松本 仁志	田中 信之	鷺尾 幸夫	
			加藤 博	齋藤 広季	本田 範子	佐藤 太	茂木 善勝	穴戸 佳世	
			鈴木 仲子	三浦 武彦	深田 光雄				
8 茨城	5	5	福島 常夫	宮本 恒男	黒羽 賢次	樋田 鈞二	峯村 文恵		
9 栃木	2	2	鈴木 良弘	大塚 博					
10 群馬	1	1	岩上 博志						
11 埼玉	9	9	市川 朋子	石橋 誠	石谷 雅春	菅野 潤一	豊田 康人	樋口 正範	
			宮永 隆行	安原 久利	吉岡 幹雄				
12 千葉	1	1	中村 匡志						
13 東京	10	10	関 幸生	野瀬 悦孝	長崎 孝徳	青田 雅樹	谷口 浄	飯塚 智子	
			湊 顕	田端 陽子	伊藤 明子	加賀 芙美子			
14 神奈川	15	15	荒川 稔	尾上 圭介	金澤 健敏	斎藤 治	佐々木 均	佐藤 広貴	
			常盤 和明	戸谷 行孝	長谷部 正夫	星野 正博	三橋 政義	三縄 保	
			宮永 均	初山 弘一	森 茂樹				
15 山梨	3	3	堀越 勇	名取 和仁	笹本 忠彦				
16 新潟	2	2	相澤 新一	本田 俊夫					
17 富山	1	1	椎名 稔						
18 石川	2	2	角橋 茂則	安保 琢弥					
19 福井	3	3	橋本 洋	長谷 俊哉	高畑 昌太				
20 長野	3	3	小林 至	田澤 稔	武重 高司				
21 静岡	11	11	小田 幸雄	田代 雅人	臼井 秀治	勝又 博司	山口 正幸	保崎 寿伸	
			三輪 徹久	小瀬 英樹	鈴木 智章	柏木 直人	加藤 洋一		
22 愛知	6	6	石鎚 一則	井上 兼久	阿部 哲也	可知 裕行	山村 晃泰	谷崎 好美	
23 岐阜	3	3	渡邊 宗治	岸 栄二	鈴木 宗介				
24 三重	8	8	福田晃太郎	岡部佳津子	野呂圭一	藤丸俊之	山添和重	石崎裕二	
			小原恵美子	東浦宏幸					
25 滋賀	1	1	西尾 圭介						
26 京都	8	8	中村 悦子	田中 文明	中川 清人	川村 隆行	藤原 康裕	高橋 尚義	
			小松原 一哉	関 喜多					
27 大阪	9	9	藤原 智美	小野 吉永	菅原 久	瀨口 昇	辻 秀明	神崎 勝則	
			岡崎 利彦	甲斐 理久	田上 博隆				
28 兵庫	5	5	水田 雅幸	川村 高士	石原 敏郎	松本 俊裕	船引 規正		
29 奈良	3	3	堺 隆司	吉村 寿正	平田 淳一				
31 鳥取	1	1	山下 有司						
32 島根	4	4	松本 浩介	石倉 修	藤野 一	長崎 敏明			
33 岡山	5	5	守谷 俊昭	加藤 幸代	小林 秀州	原田 哲郎	佐藤 順一		
34 広島	7	7	原 宏治	井上 恭治	山村 文昭	吉岡 秀喜	浜口 千枝	熊本 辰己	
			内藤 博實						
35 山口	1	1	中谷 善美						
36 徳島	2	2	宮本 覚和	田中 貴之					
37 香川	1	1	池田 義晴						
38 愛媛	2	2	青野 保樹	片岡 覚					
39 高知	3	3	池澤 教志	正木 秀市	西本 正拓				
40 福岡	2	2	石橋 信之	篠崎 規子					
41 佐賀	3	3	松本 寛	田中 修司	池田 憲治				
42 長崎	2	2	安浪 勝之	橋本 彰					
43 熊本	5	5	大塚 亘	米田 光宏	松森 安宣	山下 昌実	田北 佳一郎		
44 大分	3	3	衛藤 昭	足立 達哉	宮川喜久生				
45 宮崎	6	5	稲垣徳文	吉永一幸	小玉弘明	福留和広	幸津一彦		
46 鹿児島	5	5	鈴木 和彦	新原 重喜	山口 三郎	立山 良三	松山 徳和		
47 沖縄	3	3	金城 洋子	小賦 肇	上里 高司				
合計	198	196							

2022年度 S級公認審判員昇格審査結果について（2022年度S級昇格対象者）

2022. 2. 18

1. 昇格審査結果報告

- 昇格候補者審査は、2023年1月14(土)に実施。
- 申請198名中、196名を昇格候補者とした。
- 競技会の出席回数は、申請時点での直近6年間で30回以上を基準とし、陸連主催及び加盟団体からの申請による公認競技会を基本とした(各年度4月1日～3月31日の競技会出席回数)。
同一日に複数の競技会に出席していても1回とカウントした(競技会は1日単位でのカウント)。
- 審判講習会出席回数は、直近6年間で3回以上を基準とした。同一年度に複数回出席している場合でも1回とカウントした。実技講習会の類はこの講習会の回数には含めない。
※審判講習会： 都道府県主催の伝達講習会、陸連主催の全国競技運営責任者会議
- S級昇格者には委嘱状及びS級バッジを贈呈する。

2. 今年度の審査と今後について

- 書類の不備が多く、多くの団体に問い合わせることとなり、全国会議までに審査が終わらなかった。
- 今後提出物の不備について問い合わせは行わず、提出物から確認できる内容のみで審査する。
※書類に不備があると昇格対象者が不利益を被るため、各団体できちんと確認すること。
- 講習会開催実績は、2023年度には今まで通り直近6年度分を提出していただくが、2024年度以降は、当該年度のみ提出とする。

3. 昇格審査におけるお願い等

◆審判員手帳について◆

記載すべきことを、正しい場所に正確に記載してください。

- 加盟団体の審査でのA級昇格時には必ず手帳に昇格年月日の記載と承認印の押印をお願いいたします。
- 手帳を切り替えた際には改めて新手帳に写真の貼付及び加盟団体の割刻印、所属、氏名、生年月日、住所、昇格年月日の記載・承認印をお願いいたします。写真は旧手帳のものを使い回さずに、新たに撮り直したものを使用してください。
- 講習会への出席は「審判講習会」欄へ、競技会への出席は「審判の記録（競技会記載欄）」の欄に、日付、講師名、担当役員等、それぞれ正確に記入してください。
- 日付の記載は、西暦で統一してください。 ※和暦は使用しない。
- 「審判の記録（競技会記載欄）」には、競技役員(審判員)として出席した場合のみ記載してください。大会役員(会長、副会長等)としての参加は、競技会出席回数に含まれません。また、担当役員欄は空欄にせず、具体的な競技役員名を主催者が記載してください。
- 旧黒表紙手帳を使用している審判員には、新手帳(紺表紙)への切り替えをご指導ください。ページの付け直しなども行わないでください。

◆提出書類について◆

記載漏れ、記載誤り、不要な資料添付がないようお願いいたします。

- 推薦名簿作成の際は、必ず昇格対象者の当該年度の陸連登録を確認し、登録番号を間違いなく記載してください。
- 推薦名簿での講習会・競技会のカウント誤り、講習会開催実績の日付誤り、生年月日やA級取得年の転記誤りなどがないようお願いいたします。
- 講習会開催実績は、当該年度に開催したすべての審判講習会を記載してください。
- 旧黒手帳を使用している場合や、既に手帳を使い切っている場合は、写真の貼付及び加盟団体の割刻印、氏名、住所、生年月日、昇格年月日の記載・承認印押印を済ませた新手帳と一緒に提出してください。
- 写真の提出は不要です。

◆理由書について◆

災害による影響、離島に居住など、やむを得ない事情のみ、記入してください。

- 家庭の事情、仕事の都合、体調の問題による回数不足は、認められません。
- 申請書類提出後の競技会出席回数は、カウントされません。

◆その他◆

- 昇格候補の該当者がいない場合は、申請期日までに該当者なしのご一報をお願いいたします。
- 申請期日までの書類提出をお願いいたします。



JTOs育成セミナー報告

競技運営委員会

第7期JTOs育成セミナー

第7期JTOs育成セミナーとして、2022年11月13日(日)に講義をオンライン形式で、選考試験を11月20日(日)に本連盟事務局会議室・大阪陸上競技協会事務局会議室・アクション福岡の3会場で実施した。

受験者25名中、7名が基準点に達し合格となった（**合格率28%**）。

JTO初の女性2名。初の80年代生まれ4名。

※2023年度は、第6期までの70歳定年に達していないJTO48名と併せて55名の体制で主催・共催・後援競技会の運営支援に当たります。

どうぞよろしくお願いたします。

再試験について

今回不合格となった受験者を対象に、2023年度中に再試験の実施を検討中です。詳細は決定次第、連絡します。

2022JRWJs 育成研修について

1. 目的・応募要領

2023 年度に予定している JRWJs 認定試験での 50%以上の合格を見据え、スキルアップを図るべく、2022 年度の対面研修 1 回と、2023 年度のオンライン研修 4 回の研修会を計画し、2022 年 11 月 27 日(日)に対面研修を実施した。

受講者は、「2022 年 4 月 1 日時点で A 級審判員、且つ、2023 年度満 50 歳未満」を受講資格とし、下記の対象者から 30 名程度としたが、16 名の応募にとどまった。また、委員会の予算がなく 1 日開催となり、交通費も全額自己負担をお願いすることとなった。

- (1) 2019JRWJs 育成セミナー修了者 ⇒**応募 8 名**
- (2) JRWJ 不在県（秋田、山形、栃木、熊本、宮崎、沖縄）からの推薦者 ⇒**応募 1 名**
- (3) 各都道府県陸協からの推薦者 ⇒**応募 7 名**
- (4) 競技運営委員会からの推薦者

2. 研修内容

歩型判定、運営実務の研修を主に行うこととし、研修 I として歩型判定（国内競技会、オレゴン世界選手権）について、その後研修 II で競歩規則の理解、競歩審判員主任の実務、競歩運営支援システムの実務と研修、という内容で実施した。

歩型判定についてはビデオ映像を多用し、ロスオブコンタクト、ベントニーの特徴についての説明と共に、映像で違反事例を見ながら解説があった。その他に、判定の位置、イエローパドル、レッドカードの考え方、競歩審判員記入用紙の記入方法、レッドカード記入の手順、失格告知方法、集計表の書き方なども説明があった。

運営実務については、競歩審判員主任が持つ権限や、主任の役割、関係部署との連携調整の大切さなどについての説明があった。

